多気北畠氏遺跡（第39次）
小　田　地　区（第６次）
発掘調査報告

～三重県津市美杉町下多気～

２０２４（令和６）年３月

三重県埋蔵文化財センター

例　言

1　本書は、令和３年度に実施した通常砂防事業こも谷川に伴う多気北畠氏遺跡（第39次）小田地区（第６次）の発掘調査報告書である。

2　調査地は、三重県津市美杉町下多気に所在する。

3　本遺跡の調査は、三重県教育委員会が三重県県土整備部から依頼を受け発掘調査を実施した。発掘調査及び整理作業の経費は、三重県県土整備部から執行委任を受けた。

4　発掘調査期間は、令和３(2021)年４月26日から同年８月25日までである。

5　発掘調査面積は、712㎡である。

6　調査および整理作業・報告書作成の体制は、以下のとおりである。
　調査主体　三重県教育委員会
［現地調査］　令和３年度
　調査担当　三重県埋蔵文化財センター 調査研究1課 中村法道
　発掘調査業務委託　株式会社島田組
［整理作業］　令和４・５年度
　整理担当　三重県埋蔵文化財センター 調査研究1課 小濵学・中村法道
　自然科学分析委託　株式会社パレオ・ラボ

7　当報告書の作成事務は、三重県埋蔵文化財センター調査研究1課が担当し、本書の執筆は以下のとおりで、文責は文中に記した。編集は小濵が担当し、出土遺物の写真撮影は中村が行った。
　Ⅰ：小濵　Ⅱ：小濵　Ⅲ：小濵　Ⅳ：1 小濵、2 中村　Ⅴ：株式会社パレオ・ラボ　Ⅵ：1・3 小濵、2 中村

8　現地における発掘調査や整理作業、当報告書の作成にあたっては、地元の方々をはじめ、下記の方々等にご指導・ご協力をいただいた。記して感謝したい。（敬称略、五十音順）
　岡田憲一　長田友也　田部剛士　津市教育委員会　村上昇　矢野健一　山田猛

9　調査図面・写真・出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターにて保管している。遺物実測図番号は、土器・土製品を001から、石器・石製品を501からとした。

凡　例

1　本書で使用した地図類は、国土地理院発行の１:25,000数値地図（「伊勢奥津」相当）、三重県共有デジタル図などの地図類を用いている。なお、三重県共有デジタル地図は、三重県市町総合事務組合管理者の承認を得て使用している（令和５年４月６日付　三総合地第１号）。

2　本書で用いた座標は世界測地系に基づくものである。方位は第Ⅵ座標系の座標北で示した。

3　標高は東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。

4　本書で用いる遺構略号は以下のとおりである。
　SZ：落ち込み・不明遺構　　Pit：柱穴

5　土色の表記は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社、1967年初版）に拠った。

6　遺物実測図の縮尺は基本的に土器等1:2、石器等2:3とした。それ以外の縮尺の場合は、別途明記した。

7　註は各章の文末に付し、参考文献も同様に記した。

8　写真図版中の遺物に付した番号は、各遺物の報告番号と対応する。遺物写真は縮尺不同である。

本文目次

Ⅰ　前言 …… 1
Ⅱ　位置と環境 …… 2
Ⅲ　遺構
　1 基本層序 …… 5
　2 遺構 …… 5
Ⅳ　遺物
　1 土器等 …… 9
　2 石器・石製品 …… 55
Ⅴ　自然科学分析
　1 土器付着炭化物の放射性炭素年代測定 …… 99
　2 土器付着炭化物の炭素・窒素安定同位体比分析 …… 103
Ⅵ　結語
　1 出土縄文土器群の検討 …… 106
　2 出土縄文石器・石製品の検討 …… 118
　3 総括 …… 122

挿図目次

第Ⅰ－１図　範囲確認調査位置図…… 1
第Ⅱ－１図　調査区位置・地形図及び小地区割… 2
第Ⅱ－２図　大・中地区割図…… 3
第Ⅱ－３図　遺跡位置図…… 4
第Ⅲ－１図　１区土層断面図…… 6
第Ⅲ－２図　２，３区土層断面図 …… 7
第Ⅲ－３図　調査区平面図…… 8
第Ⅲ－４図　SZ1土層断面図 …… 9
第Ⅳ－１図　縄文土器分類（案）１ …… 11
第Ⅳ－２図　縄文土器分類（案）２ …… 12
第Ⅳ－３図　SZ1出土土器実測図１ …… 15
第Ⅳ－４図　SZ1出土土器実測図２ …… 16
第Ⅳ－５図　SZ1出土土器実測図３ …… 17
第Ⅳ－６図　SZ1出土土器実測図４ …… 18
第Ⅳ－７図　SZ1出土土器実測図５ …… 19
第Ⅳ－８図　SZ1出土土器実測図６ …… 20
第Ⅳ－９図　SZ1出土土器実測図７ …… 22
第Ⅳ－10図　SZ1出土土器実測図８ …… 23
第Ⅳ－11図　SZ1出土土器実測図９ …… 24
第Ⅳ－12図　SZ1出土土器実測図10 …… 25
第Ⅳ－13図　SZ1出土土器実測図11 …… 26
第Ⅳ－14図　SZ1出土土器実測図12 …… 27
第Ⅳ－15図　SZ1出土土器実測図13 …… 28
第Ⅳ－16図　SZ1出土土器実測図14 …… 29
第Ⅳ－17図　SZ1出土土器実測図15 …… 30
第Ⅳ－18図　SZ1出土土器実測図16 …… 31
第Ⅳ－19図　SZ1出土土器実測図17 …… 32
第Ⅳ－20図　SZ1出土土器実測図18 …… 33
第Ⅳ－21図　SZ1出土土器実測図19 …… 34
第Ⅳ－22図　SZ1出土土器実測図20 …… 35
第Ⅳ－23図　SZ1出土土器実測図21 …… 36
第Ⅳ－24図　SZ1出土土器実測図22 …… 37
第Ⅳ－25図　SZ1出土土器実測図23 …… 38
第Ⅳ－26図　SZ1出土土器実測図24 …… 39
第Ⅳ－27図　SZ1出土土器実測図25 …… 40
第Ⅳ－28図　SZ1出土土器実測図26 …… 41
第Ⅳ－29図　SZ1出土土器実測図27 …… 42
第Ⅳ－30図　SZ1出土土器実測図28 …… 43
第Ⅳ－31図　SZ1出土土器実測図29 …… 44
第Ⅳ－32図　SZ1出土土器実測図30 …… 45
第Ⅳ－33図　SZ1出土土器実測図31 …… 46
第Ⅳ－34図　SZ1出土土器実測図32 …… 47
第Ⅳ－35図　SZ1出土土器実測図33 …… 48
第Ⅳ－36図　SZ1出土土器実測図34 …… 49
第Ⅳ－37図　SZ1出土土器実測図35 …… 50
第Ⅳ－38図　SZ1出土土器実測図36 …… 51
第Ⅳ－39図　SZ1出土土器実測図37 …… 52
第Ⅳ－40図　SZ1出土土器実測図38及び排土出土遺物実測図…… 53
第Ⅳ－41図　包含層及び攪乱出土遺物実測図…… 54
第Ⅳ－42図　SZ1出土石器実測図１ …… 55
第Ⅳ－43図　SZ1出土石鏃分類図 …… 55
第Ⅳ－44図　SZ1出土石器実測図２ …… 56
第Ⅳ－45図　SZ1出土石器実測図３ …… 58
第Ⅳ－46図　SZ1出土石器実測図４ …… 59
第Ⅳ－47図　SZ1出土石器実測図５ …… 60
第Ⅳ－48図　SZ1出土石器実測図６ …… 61
第Ⅳ－49図　SZ1出土石器実測図７ …… 62
第Ⅳ－50図　SZ1出土石器実測図８ …… 63
第Ⅳ－51図　SZ1出土石器実測図９ …… 64
第Ⅳ－52図　SZ1出土石器実測図10 …… 65
第Ⅳ－53図　SZ1出土石器実測図11 …… 67
第Ⅳ－54図　SZ1出土石器実測図12 …… 68
第Ⅳ－55図　SZ1出土石器実測図13 …… 69
第Ⅳ－56図　SZ1出土石器実測図14 …… 70
第Ⅳ－57図　SZ1出土石器実測図15及び石製品実測図…… 71
第Ⅴ－１図　試料No. １～６ ……100
第Ⅴ－２図　暦年較正結果……102
第Ⅴ－３図　試料採取箇所……104
第Ⅴ－４図　炭素・窒素安定同位体比……105
第Ⅴ－５図　炭素安定同位体比とC/N比の関係 …105
第Ⅵ－１図　Ⅰ～Ⅵ類の割合……106
第Ⅵ－２図　Ⅰ～Ⅵ類の分類数……106
第Ⅵ－３図　分類別の縄文施文の割合……106
第Ⅵ－４図　部位別の縄文施文の有無と割合……108
第Ⅵ－５図　口縁部形態の変遷と各部位の名称…117
第Ⅵ－６図　撚糸文系土器と縄文系土器の関連性……118
第Ⅵ－７図　土器群の変遷概念図 …… 118
第Ⅵ－８図　多気北畠氏39次出土土器の変遷（案）１……154
第Ⅵ－９図　多気北畠氏39次出土土器の変遷（案）２……155
第Ⅵ－10図　縄文時代早期前半の魚形鐵 ……120
第Ⅵ－11図　石器の組成……121

表目次

第Ⅳ-１表　縄文土器分類一覧表…… 14
第Ⅳ-２表　土器等観察表１…… 74
第Ⅳ-３表　土器等観察表２…… 75
第Ⅳ-４表　土器等観察表３…… 76
第Ⅳ-５表　土器等観察表４…… 77
第Ⅳ-６表　土器等観察表５…… 78
第Ⅳ-７表　土器等観察表６…… 79
第Ⅳ-８表　土器等観察表７…… 80
第Ⅳ-９表　土器等観察表８…… 81
第Ⅳ-10表　土器等観察表９…… 82
第Ⅳ-11表　土器等観察表10…… 83
第Ⅳ-12表　土器等観察表11…… 84
第Ⅳ-13表　土器等観察表12…… 85
第Ⅳ-14表　土器等観察表13…… 86
第Ⅳ-15表　土器等観察表14…… 87
第Ⅳ-16表　土器等観察表15…… 88
第Ⅳ-17表　土器等観察表16…… 89
第Ⅳ-18表　土器等観察表17…… 90
第Ⅳ-19表　土器等観察表18…… 91
第Ⅳ-20表　土器等観察表19…… 92
第Ⅳ-21表　石器及び石製品観察表１…… 93
第Ⅳ-22表　石器及び石製品観察表２…… 94
第Ⅳ-23表　石器及び石製品観察表３…… 95
第Ⅳ-24表　石器及び石製品観察表４…… 96
第Ⅳ-25表　石器及び石製品観察表５…… 97
第Ⅳ-26表　石器及び石製品観察表６…… 98
第Ⅴ-１表　測定試料および処理…… 99
第Ⅴ-２表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果……101
第Ⅴ-３表　試料情報および結果一覧表……103
第Ⅵ-１表　部位別の縄文と撚糸文の縄の方向…109
第Ⅵ-２表　分類の土器型式への対応……116

写真図版目次

写真図版１　１区調査前状況、１区調査前状況……125
写真図版２　２・３区調査前状況、２・３区調査前状況……126
写真図版３　１区調査区全景、１区調査区中央全景……127
写真図版４　１区調査区南全景、２・３区調査区北全景……128
写真図版５　２・３区調査区南全景、SZ1全体……129
写真図版６　SZ1掘削状況、SZ1掘削状況……130
写真図版７　出土遺物１……131
写真図版８　出土遺物２……132
写真図版９　出土遺物３……133
写真図版10　出土遺物４……134
写真図版11　出土遺物５……135
写真図版12　出土遺物６……136
写真図版13　出土遺物７……137
写真図版14　出土遺物８……138
写真図版15　出土遺物９……139
写真図版16　出土遺物10……140
写真図版17　出土遺物11……141
写真図版18　出土遺物12……142
写真図版19　出土遺物13……143
写真図版20　出土遺物14……144
写真図版21　出土遺物15……145
写真図版22　出土遺物16……146
写真図版23　出土遺物17……147
写真図版24　出土遺物18……148
写真図版25　出土遺物19……149
写真図版26　出土遺物20……150
写真図版27　出土遺物21……151
写真図版28　出土遺物22……152
写真図版29　出土遺物23……153

Ⅰ 前　言

1　調査に至る経緯と経過

(1) 経緯

津市美杉町小田において、令和２年度に砂防対策事業が計画された。これは、地区内の砂防対策を目的としたものである。工事施工箇所のうち埋蔵文化財包蔵地内は、まず範囲確認調査を行い、記録保存を行う調査対象範囲を定めた。

(2) 経過

発掘調査期間は、令和３(2021)年４月26日から８月25日までである。現地での調査の経過は以下の調査日誌抄のとおりである。遺構実測図作成及び写真撮影は、調査の進捗に合わせて適宜行っている。

＜調査日誌抄＞

５月６日　調査前写真撮影、現況確認。
５月14日　調査開始。
５月26日　範囲確認調査T1～T5、終了（重機掘削）。
６月 3日　3区表土の重機掘削継続。
６月10日　3区人力による掘削、2区表土の重機掘削継続。
６月14日　２区表土掘削継続。遺構の確認とともに。
６月23日　２区「落ち込み」の範囲を検出、人力による掘削。多くの押型文土器が出土。
７月６日　２区「落ち込み」の掘削を継続。
７月15日　２区「落ち込み」の掘削を継続。
７月19日　１区表土の重機掘削。
７月20日　１区表土掘削継続。
８月４日　１区表土掘削終了。
８月５日　１区人力による掘削。2,3区埋戻し。
８月24日　１区埋戻し。
８月25日　調査終了。

(3) 文化財保護法にかかる諸手続

・三重県埋蔵文化財保護条例第48条第１項「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知書」(県教育長あて三重県知事通知)

令和２年８月21日付　津建第468号

・文化財保護法第100号第２号「埋蔵文化財の発見・認定について」(津南警察署長あて県教育委員会教育長通知)

令和３年11月１日付　教委第12-4411号

(4) 普及公開

現地説明会開催は、新型コロナウィルスの感染拡大を避けるため控えることになった。そのため、動画「多気北畠氏遺跡(第39次)小田地区(第6次)リモート発掘調査成果報告会」をWeb上で公開した。

2　調査の方法

(1) 調査区の設定

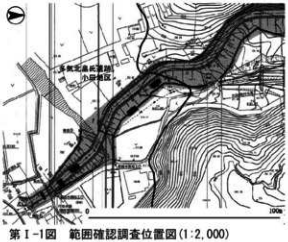
調査区については、工事範囲内で、現状の変更が避けられない部分を設定した。また、多気北畠氏遺跡は遺跡範囲が広大であり、国史跡を含むことから、遺跡全体に統一した地区割を津市教育委員会が設定しており、世界測地系(ITRF、GRS-80)による座標値を基本に東西1,000m、南北1,000mの大地区を設定し、多気を中心にしてＡ～Ｗ区を設定した。大地区毎に東西100m、南北100mの1～100の中地区、さらに中地区毎に東西4m、南北4mの小地区（グリッド）を設定し、西から東へ算用数字、北から南にアルファベットを付与した。なお、地区名称は大・中地区と小地区を組み合わせて使用（例：K38-G2）した。今回の調査についてもそれに則った。

(2) 表土掘削、遺構検出・掘削

表土及び遺構検出面上まで、重機による掘削を行った。その後、人力で遺構検出と掘削を行った。

(3) 記録・図化

記録及び図化は、遺構検出状況・土層の堆積状況・



第Ⅰ-1図　範囲確認調査位置図(1:2,000)

遺構の掘削や遺物出土状況等を把握するため、略測図・土層断面図・遺構平面図を適宜作成した。遺構平面図は縮尺1:100での平板測量、土層断面は手ばかりによる縮尺1:20の図面を作成した。

(4) 出土遺物の整理

出土遺物は、埋蔵文化財センターに搬入後、洗浄・注記・接合を行った。その後、実測可能遺物を選別し、人の手による実測を行い、精査の後、発掘調査報告書の文章や版下作成等を各担当により行った。

(小濱　学)

Ⅱ 位置と環境

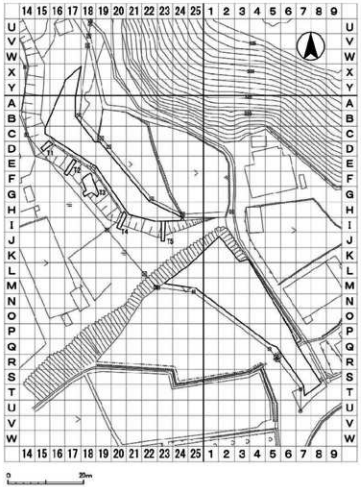
1　位置と地形

多気北畠氏遺跡は、三重県津市美杉町上多気・下多気に所在し、雲出川の支流である八手俣川上流の小盆地(南北約3,000m・東西最大約400m)に位置している。調査対象地である多気北畠氏遺跡(第39次)・小田地区(第6次)(1)は、津市美杉町下多気の小田地区に所在し、遺跡の北端部にあたり、標高約310～325mの谷及び段丘端に立地している。比津峠に向かう県道登り口にも近い。

また、調査対象地の南西方向に、北畠氏館跡や霧山城跡等、北畠氏関連の遺跡群が所在している。

2　歴史的環境

今回の調査は、多気北畠氏関連の遺構や遺物は、ごく少量にとどまり、一方で範囲確認調査で押型文土器が出土する等、縄文時代の遺構や遺物の存在が予想された。実際、縄文時代草創期末から早期の遺物が多く出土した。そこで、ここでは縄文時代の環境について、既存の調査や資料をもとに概観していきたい。多気北畠氏関連の環境については、既存の



＜各地区の中・小地区＞

1区

G21　K25 L23 L24 L25 M23 M24 M25 N25

G22　J1 J2 K1 K2 K3 K4 L1 L2 L3 L4 M1 M2 M3 M4 M5 N1 N2 N3 N4 N5 O2 O3 O4 O5 O6 P3 P4 P5 P6 Q4 Q5 Q6 Q7 R6 R7 S6 S7 S8 T7 T8

2・3区

G11　X17 Y16 Y17

G21　A16 A17 B15 B16 B17 C15 C16 C17 C18 D16 D17 D18 D19 E17 E18 E19 E20 F19 F20 F21 G19 G20 G21 G22 H20 H21 H22 H23 H24 I21 I22 I23 I24

T1区

G21　D15 D16

T2区

G21　E17 F16 F17

T3区

G21　F18 G18 G19

T4区

G21　H20 I20

T5区

G21　I23 J23

第Ⅱ-1図　調査区位置・地形図及び小地区割(1:1,000)

報告書等（参考文献を参照）に譲る。

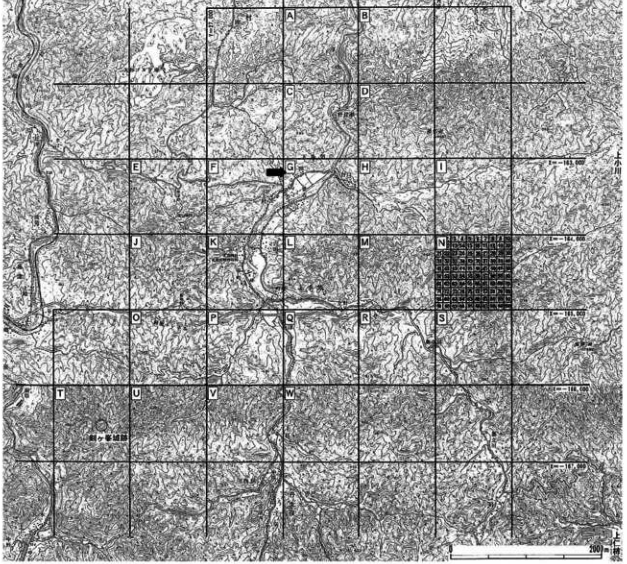
八手俣川流域の旧石器時代はよく分かっていない。縄文時代については、調査対象地下流の下之川富田遺跡(2)で早期前半頃のネガティブな押型文土器が採集されており八手俣川流域におけるヒトの活動初現といわれている。野登瀬B遺跡(3)では後期の土器が出土しており、上流部の土井沖遺跡(4)で後期の遺構・遺物が確認されている。土井沖遺跡では竪穴住居跡が確認されている。

今回の調査により、当地域での縄文時代のヒトの活動を確認できる遺跡が、1ヶ所増えて4遺跡となった[1]。当地域での縄文時代の様相をより詳細に把握できるようになったといえよう。今後の情報の増加に期待したい。

（小濱　学）

註

1) 三重県 2005『三重県史　資料編考古1』において、「上羽遺跡（じょうはいせき）」の掲載がある。調査対象地の直上の段丘に所在するものである。



※津市教育委員会2007『多気北畠氏遺跡第28次発掘調査報告－北畠氏館跡 10－』掲載の図2を加筆修正のうえ転載

第Ⅱ-2図　大・中地区割図(1:50,000)

参考文献

三重県埋蔵文化財センター 1993 『多気遺跡群発掘調査報告』

皇學館大学考古学研究会編 1995 『美杉村の遺跡』

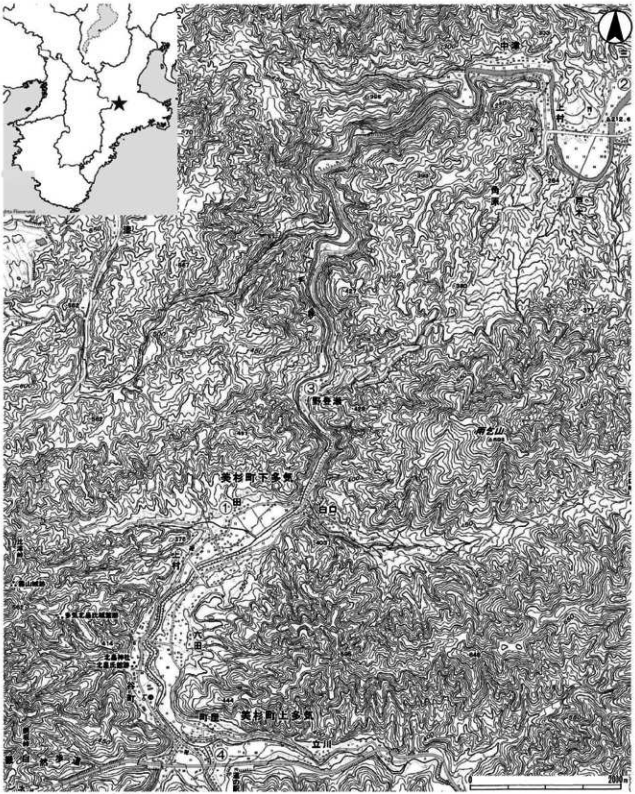
三重県埋蔵文化財センター 1998 『下之川冨田』

美杉村教育委員会 2003 『多気北畠氏遺跡発掘調査概報』＊刊行当時

三重県 2005 『三重県史　資料編考古１』

津市教育委員会 2007 『多気北畠氏遺跡第28次発掘調査報告 -北畠氏館跡10-』

三重県埋蔵文化財センター 2013 『野登瀬B遺跡発掘調査報告』



第Ⅱ-3図　遺跡位置図(1:50,000)

Ⅲ 遺　構

1　基本層序

調査区は、上下2ケ所に分かれており、調査前の低いところでの標高が約314.5m、高いところでの標高が約321.0mと、約6.5mの比高差があった。調査時には、下段を1区、上段を2・3区として調査を行った。なお、2・3区は連続しており、物理的に区切っているわけではない。

1区は、表土の直下から、調査全体で現代の土地造成等によるカクランを受けた土層が続いていることが、調査を進めていくと判明した。現代のゴミなどが、最下層からも出てくる状況であった。そのため、全てを掘削せずに土層を確認する部分だけにとどめた。一部でオリーブ褐色細粒砂～極粗粒砂(第Ⅲ-1図,130)の遺構検出面と考えられる層を確認したが、明確な遺構は確認できなかった。また、現代から中近世にかけて遺物を、掘削の際に確認することができた。

2・3区は、表土直下あるいは表土以下6層というように、地点より遺構検出面を確認するまでの土層の状況に変化がみられる。現在の谷地形に沿った南北方向と後述するSZ1等の東西方向の堆積と浸食の繰り返しが現代に至るまであり、このような状況が現出されたのであろうか。現地表面から0.5～1.5m下に、遺構検出面である褐色シルト～極粗粒砂（第Ⅲ-2図,228）と暗灰黄色細粒砂～極粗粒砂（第Ⅲ-2図,229）を確認した。SZ1は、この検出面を切り込んでいた。

また、範囲確認調査として、T1～T5の5ケ所の調査を行ったものの、遺構、遺物については確認できなかった。

2　遺構

北畠氏との関連あるいはその活動があった時期の遺構は、調査区内での確認には至らなかった。

縄文時代

SZ1

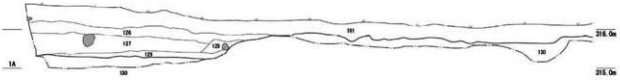
上段の2・3区で確認した。調査時は、落ち込みとしていたものである。当初は、縄文土器が出土したため縄文包含層としていたが、最終的には落ち込みとして把握をした。調査区をほぼ東西に横断するもので、南北約11～12m、東西約6m、深さ1.0～1.3mを調査区内で確認した。底部の標高から、西から東へ緩やかに傾斜しており、東側に延びていくものと思われる。調査区西側に、比高差約4mの段丘がある。その段丘端が崖状になっており、その崖状の部分の侵食や崩落もこの遺構の埋没等に影響したものといえよう。

調査区西側では、表土以下に、にぶい黄褐色バイラン土（第Ⅲ-4図,231）、オリーブ褐色風化による花崗岩細礫（第Ⅲ-4図,232）、黒褐色シルト～極粗粒砂（第Ⅲ-4図,233）、暗オリーブ褐色シルト～極粗粒砂（第Ⅲ-4図,234）、暗灰黄色シルト～極粗粒砂（第Ⅲ-4図,219）、オリーブ褐色極細粒砂～極粗粒砂（第Ⅲ-4図,236）、オリーブ褐色細粒砂～極粗粒砂を含むバイラン土（第Ⅲ-4図,237）、黄灰色シルト～極粗粒砂（第Ⅲ-4図,222）、灰オリーブ色細粒砂～極粗粒砂（第Ⅲ-4図,239）、暗灰黄色細粒砂～極粗粒砂（第Ⅲ-4図,240）、オリーブ褐色細粒砂～極粗粒砂（第Ⅲ-4図,226）の土層を確認した。これらは、暗灰黄色細粒砂～極粗粒砂の遺構検出面（第Ⅲ-4図,229）を切り込んだ状況となっている。

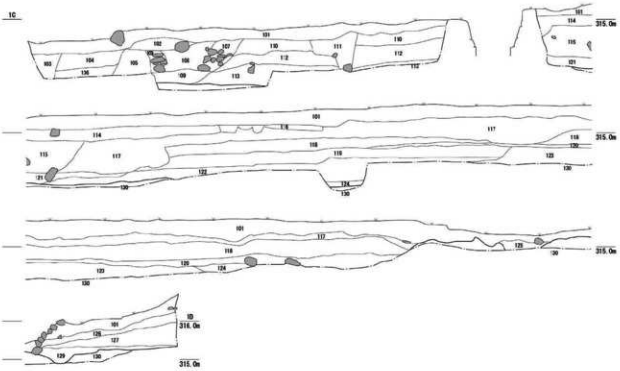
その埋土からは、縄文時代草創期末から早期後半までの遺物群が出土した。出土土器の観察から、ローリングを受けていないようであり、当時の人々が土器の投棄を行った、あるいは一部の地形の崩落があったことが窺える。この遺物については、調査時点で、埋土の検討や分層をしたうえでの取り上げを行ったわけではない。そのため、層位による時期差を把握するには至らなかった。その状況を踏まえつつ、出土した縄文土器・石器群の報告については、Ⅳにおいて行う。

中世以降

北畠氏との関連あるいはその活動があった時期の遺構は、調査区内での確認には至らず、当該時期の少量の遺物出土にとどまった。　　（小濱　学）



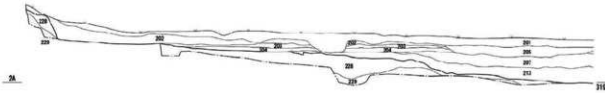
101　表土
102　カクラン
103　カクラン
104　2.5Y4/3　オリーブ褐色　細砂粒～径 5mm 以下の礫と 2.5Y4/2 暗灰黄色細砂粒～極粗砂粒との互層　カクランか
105　2.5Y4/3　オリーブ褐色　細砂粒～極粗砂粒　径 5mm ～ 20mm 以下の礫を微量含
106　2.5Y4/3　オリーブ褐色　細砂粒～径 50mm 以下の礫
107　2.5Y4/3　オリーブ褐色　細砂粒～極粗砂粒　黄褐色ブロックを微量含
近代以降の水路跡か
108　2.5Y4/3　オリーブ褐色　細砂粒～極粗砂粒　径 50 ～ 100mm 以下の礫を含
近代以降の水路跡か
109　2.5Y4/1　黄灰色　極細砂粒～極粗砂粒　径 200mm 以下の礫を多量含
近代以降の水路跡か

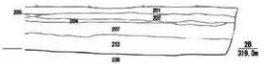


110　2.5Y4/3　オリーブ褐色　カクランか？細砂粒～極粗砂粒　2.5Y5/6 明黄褐色ブロックを多量含　カクランか
111　カクラン
112　2.5Y5/1　黄灰色　細砂粒～極粗砂粒　粘性有
113　5Y4/1　灰色　シルト～粗砂粒　下位に鉄分沈着　粘性有
114　カクラン
115　カクラン
116　カクラン、現代の礫
117　カクラン
118　2.5Y4/4　オリーブ褐色　細砂粒～極粗砂粒　径 5 ～ 100mm 以下の礫を含
バイラン土を少量含　粘性有
119　2.5Y4/3　オリーブ褐色　極細砂粒～極粗砂粒砂
120　2.5Y4/2　暗灰黄色　細砂粒～極粗砂粒　径 3 ～ 200mm 以下の礫を多量含
バイラン土を含
121　N4/　灰色　シルト～粗砂粒　粘性強
122　2.5Y5/2　暗灰黄色　細砂粒～極粗砂粒　径 10mm から 300mm の礫を含
10mm 以下が多い　粘性有
123　2.5Y5/3　暗オリーブ褐色　シルト～極粗砂粒　径 5 ～ 50mm の礫を含　粘性強
124　2.5Y4/4　オリーブ褐色　細砂粒～径 5mm の礫、2.5Y4/1 黄灰色細砂粒～極粗砂粒を斑状に含
125　2.5Y4/3　オリーブ褐色　細砂粒～極粗砂粒　径 50mm 以下の礫を微量含
126　10YR3/4　暗褐色　細砂粒～極粗砂粒　しまりがない
127　10YR4/3　にぶい黄褐色　細砂粒～極粗砂粒　バイラン土を含
128　2.5Y4/8　オリーブ褐色　細砂粒～極粗砂粒　バイラン土を多量含
129　2.5Y4/4　オリーブ褐色　極細砂粒～細砂粒　バイラン土を少量含
130　2.5Y4/3　オリーブ褐色　細砂粒～極粗砂粒　径 5 ～ 50mm 以下の礫を含、遺構検出面

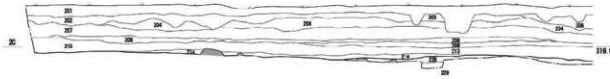
0　5m

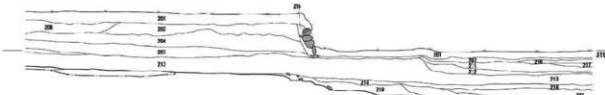
第Ⅲ-1図　1区土層断面図(1:100)

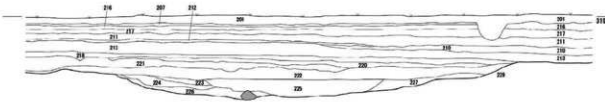


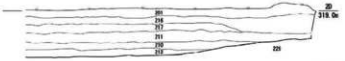


201　表土
202　2.5Y4/4　オリーブ褐色　細粒砂～極粗粒砂　径 50mm 以下の礫を微量含
203　2.5Y5/2　暗灰黄色　細粒砂～極粗粒砂
204　2.5Y4/2　暗灰黄色　細粒砂～極粗粒砂　径 50mm 以下の礫を多量含
205　2.5Y5/3　黄褐色　細粒砂～極粗粒砂　径 50mm 以下の礫を微量含
206　2.5Y5/2　暗灰黄色　細粒砂～極粗粒砂
207　2.5Y4/3　オリーブ褐色　細粒砂～極粗粒砂　径 50mm 以下の礫を微量含　粘性有
208　2.5Y4/2　暗灰黄色　細粒砂～極粗粒砂
209　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト～粗粒砂　粘性強
210　2.5Y4/3　オリーブ褐色　細粒砂～極粗粒砂　径 5mm 以下の礫を少量含
211　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　細粒砂～極粗粒砂　径 5mm 以下の礫を少量含　粘性有





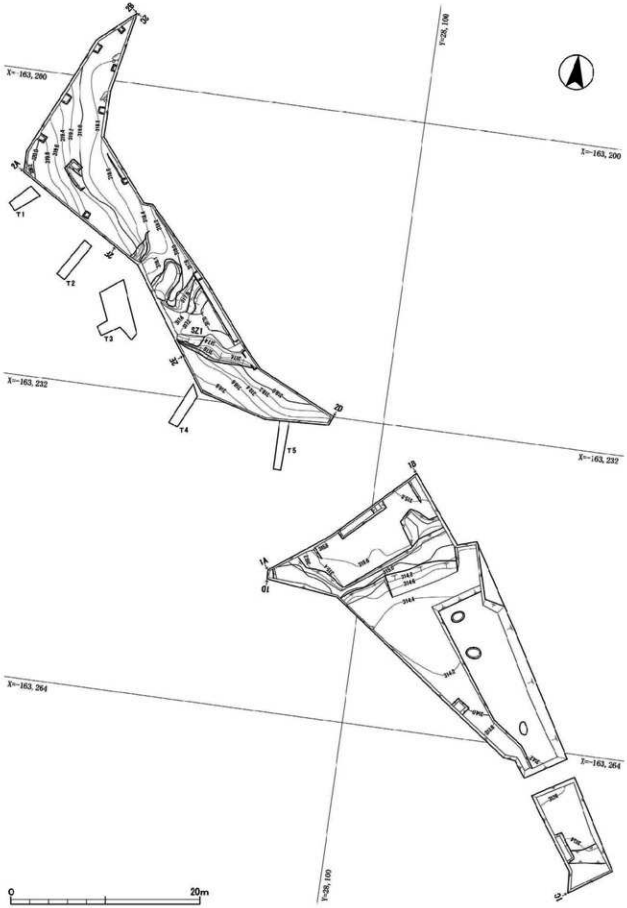




212　2.5Y4/2　暗灰黄色　細粒砂～中粒砂
213　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト～極粗粒砂　径 100mm 以下の礫を微量含　粘性強
214　2.5Y3/2　黒褐色　シルト～極粗粒砂　径 200mm 以下の礫を微量含　粘性強
215　2.5Y4/1　黄灰色　細粒砂～径 3mm 以下の礫を多量含　鉄分を少量含
216　2.5Y4/4　オリーブ褐色　細粒砂～極粗粒砂　粘性有
217　2.5Y4/3　オリーブ褐色　細粒砂～極粗粒砂　粘性有
218　2.5Y4/2　暗灰黄色　細粒砂～極粗粒砂　鉄分を微量含　粘性有
219　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト～極粗粒砂　径 200mm 以下の礫を微量含　粘性強
220　2.5Y4/1　黄灰色　シルト～極粗粒砂　径 50mm 以下の礫を極微量含　鉄分・炭化物を微量含　粘性強
221　10YR5/4　にぶい黄褐色　細粒砂～粗粒砂　径 8mm 以下の礫を多量含　鉄分を微量含
222　2.5Y4/1　黄灰色　シルト～極粗粒砂　径 100mm 以下の礫を微量含　鉄分を少量含　粘性強
223　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　細粒砂～極粗粒砂　2.5Y4/3 オリーブ褐色ブロックを少量含　粘性有
224　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　細粒砂～極粗粒砂　径 300mm 以下の礫を多量含
225　10YR4/4　褐色　極細粒砂～粗粒砂　粘性強
226　2.5Y4/3　オリーブ褐色　細粒砂～粗粒砂　径 5mm 以下の花崗岩礫を多量含
227　2.5Y4/6　オリーブ褐色　シルト～粗粒砂　2.5Y4/1 黄灰色シルトを多量含
228　10YR4/4　褐色　シルト～極粗粒砂　径 50mm 以下の礫を多量含　鉄分を少量含　粘性強　遺構検出面
229　2.5Y4/2　暗灰黄色　細粒砂～極粗粒砂　径 5mm 以下の礫を多量含　しまり有　遺構検出面

0　5m

第Ⅲ-2図　2,3区土層断面図(1:100)



第Ⅲ-3図　調査区平面図(1:400)

Ⅳ 遺　物

1　土器等

(1) 縄文時代

ここでは、発掘調査時に得られたSZ1出土の縄文土器を主に取り扱う。なお、前述のように調査時に厳密な層位での取り上げを行ったものではなく、埋土に中近世の遺物を含むため、ここでは土器そのものの特徴や型式等により分類し報告する。口縁部、特徴的な大破片を含め図化掲載した資料は529点となる。

a 縄文土器群の分類

本遺跡の出土縄文土器は、大鼻式期前後から縄文縄文時代早期後半までの近畿地方の各型式等が認められる。今回の調査で確認された縄文土器には、撚糸文系土器、縄文系土器、押型文系土器、無文系土器がみられ、Ⅰ類からⅨ類までの分類を行った[1]。以下に、これらを列記したい。なお、土器等観察表にはⅠ類のa1は「Ⅰa1」と表記し、以後はⅠa1類と呼称、表記するものとする。また、各分類文末の数字については、図版に表記している土器等の報告番号である。また、土器の部位は、概念を第Ⅵ-5図に示している。

Ⅰ類

撚糸文系土器として把握したものである。器形は、少し外傾する口縁部、少し括れる頸部、ゆるやかな曲線を描く体部、尖底の底部となるものである。器厚はやや厚めで、土器内面には指圧痕が残る。当該地域においては、型式名が明らかとなっていないので、これらの所属時期は便宜上、撚糸文系土器期としたい。

a1　口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁部と頸部を区画するかのように下向きの剣先状の側面圧痕、体部外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。1

a2　口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、頸部に縄文と撚糸文の重なり、体部外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。2, 3

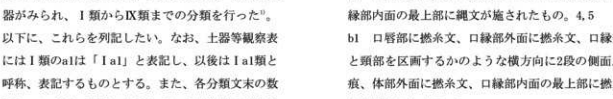
a3　口唇部に縄文、口縁部以下の外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。4, 5

b1　口唇部に撚糸文、口縁部外面に撚糸文、口縁部と頸部を区画するかのような横方向に2段の側面圧痕、体部外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に撚糸文が施されたもの。6

b2　口唇部に撚糸文、口縁部以下の外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に撚糸文が施されたもの。

7, 8, 9

c1　口縁部以下の外面に撚糸文が施されたもの。



230　表土　擁壁工事の際のカクラン
231　10YR5/4　にぶい黄褐色　パイラン土
232　2.5Y4/3　オリーブ褐色　鉄化による花崗岩細礫を多量含
233　2.5Y3/2　黒褐色　シルト～極粗粒砂　径5mm以下の礫を微量含　黄褐色ブロックを微量含　鉄化物を極微量含　粘性有
234　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト～極粗粒砂　径10mm以下の礫を含　粘性有
219　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト～極粗粒砂　径200mm以下の礫を微量含　粘性強
236　2.5Y4/4　オリーブ褐色　極細粒砂～極粗粒砂　径200mm以下の礫を微量含　粘性強
237　2.5Y4/4　オリーブ褐色　細粒砂～極粗粒砂を含むパイラン土
222　2.5Y4/1　黄灰色　シルト～極粗粒砂　径100mm以下の礫を微量含　鉄分を少量含　粘性強
229　5Y4/2　灰オリーブ色　細粒砂～極粗粒砂　径10mm以下の礫を多量含　下位に鉄分を多量沈着
240　2.5Y5/2　暗灰黄色　細粒砂～極粗粒砂　径30mm以下の礫を多量含　下位に鉄分を少量沈着
236　2.5Y4/3　オリーブ褐色　細粒砂～極粗粒砂　径5mm以下の花崗岩礫を多量含
229　2.5Y4/2　暗灰黄色　細粒砂～極粗粒砂　径5mm以下の礫を多量含　しまり有　遺構検出面

第Ⅲ-4図　SZ1土層断面図(1:100)

10, 11

d1　外面に縄文、撚糸文が施された体部片。

12, 17

d2　外面に撚糸文が施された体部片。13～16, 18～62

e1　外面に撚糸文が施された底部片。63

Ⅱ類

縄文系土器として把握したものである。器形は、少し外傾する口縁部、少し括れる頸部、直線に近い曲線を描くような体部、尖底の底部となるものである。器厚はやや厚めで、土器内面には指圧痕が残る。口縁部の外面と内面の最上部に縄文がみられる表裏縄文土器もこの中に含まれる。ここでは、縄文系土器期としておく。この段階の詳細については、Ⅵであらためて述べたいと思う。

a1　口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁部と頸部を区画するかのように横方向に複数段の側面圧痕、体部外面に縄文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。64, 66～71

a2　口唇部に縄文、口縁部以下の外面に縄文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。65, 72～77

b1　口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁部と頸部を区画するかのような横方向に複数段の側面圧痕、体部外面に縄文が施されたもの。78, 79

b2　口唇部に縄文、口縁部以下の外面に縄文が施されたものである。80, 81

c1　口縁部から体部にかけた外面に、上向きの剣先状の側面圧痕、側面圧痕以下に縄文が施されたもの。82

d1　頸部外面に横位の側面圧痕、以下縄文が施されたもの。83～86

e1　体部外面に単節及び複節の縄文が施されたもの。87～131

f1　口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁部と頸部を区画するかのような横方向に複数段の側面圧痕、体部外面に枝回転文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。132, 133

f2　口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁部と頸部を区画するかのような半弧状をつなぎ合わせたかのような剣先状の側面圧痕、体部外面に枝回転文が施文されると思われ、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。134

f3　口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、頸部に横方向に複数段の側面圧痕、横位の側面圧痕直下の体部外面まで縄文、以下に枝回転文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。135～138, 141

f4　口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、頸部以下に枝回転文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。139, 142～145

f5　口唇部に縄文、口縁部以下の外面に枝回転文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。140

f6　口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、頸部に横方向に複数段の側面圧痕、側面圧痕直下の体部外面まで縄文、以下に枝回転文が施されたもの。146～148

g1　体部外面に縄文、枝回転文が施されたもの。149, 151, 156

g2　体部外面に枝回転文が施されたもの。150, 152～155, 157

Ⅲ類

広義の意味での押型文系土器、大鼻式[8]期の範疇として把握したものである。器形は、口唇部が肥厚し大きく外反する口縁部、口縁部下部から頸部にかけて屈曲し、直線に近い曲線を描くような体部、尖底の底部となるものである。土器内面はなめらかな状況を呈しており、縄文施文等は確認できない。

a1　肥厚する口唇部に縄文、口縁部外面に縄文（押圧も含む）、口縁下部から頸部にかけて複数段の側面圧痕、体部には枝回転文が施されるもの。158, 159, 176, 177

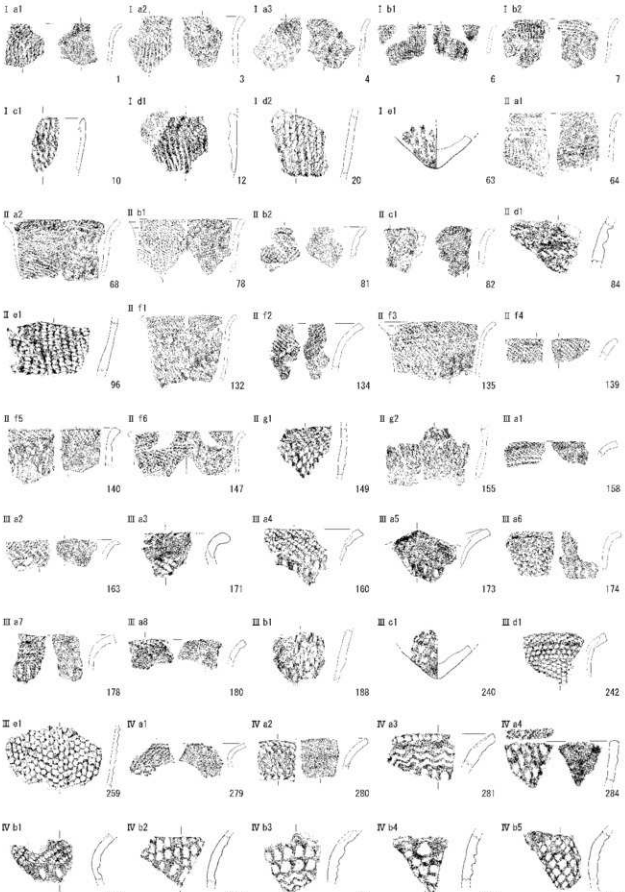
a2　肥厚する口唇部に縄文、口縁部外面から頸部にかけての外面に縄文、羽状の押圧縄文、体部には枝回転文が施されるもの。161, 163～166, 168, 170

a3　口縁部外面から頸部にかけての外面に縄文、体部には枝回転文が施されるもの。171

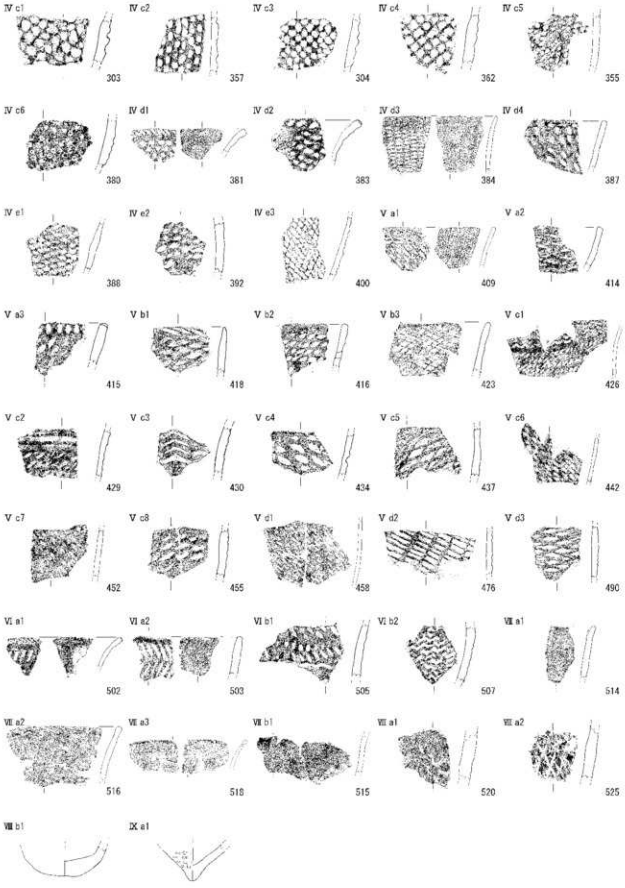
a4　肥厚する口唇部に縄文、口縁部外面から頸部にかけての外面に縄文、体部には枝回転文が施されるもの。160, 162, 167, 169, 172, 181, 182, 184

a5　波状口縁、口縁部以下に枝回転文が施されたもの。173

a6　肥厚する口唇部に縄文、口縁部以下の外面に枝



第Ⅳ-1図　縄文土器分類(案)1　＊縮尺不同



第Ⅳ-2図　縄文土器分類(案)2　＊縮尺不同

回転文が施されるもの。174, 175, 183

a7　肥厚する口唇部に縄文、口縁部から頸部にかけて複数段の側面圧痕、体部には押圧縄文、枝回転文が施されたもの。178, 179

a8　肥厚する口唇部に縄文、口縁部から頸部にかけて斜めの側面圧痕、体部には枝回転文が施されたもの。180

b1　体部に枝回転文が施され、器厚は少し薄くなるもの。185～239

c1 外面に枝回転文がほどこされた尖底の底部片である。240, 241

d1　肥厚する口唇部に縄文、口縁部以下の外面にネガティブな市松文が施されたもの。242～251

e1　体部外面に大振りの市松文が施されたもの。252～278

Ⅳ類

押型文系土器、大川式[*]期の範疇として把握したものである。器形は、外反する口縁部、口縁部下部から頸部かけて屈曲し、直線に近い緩やかな曲線を描く体部、尖底の底部となるものである。土器内面はなめらかな状況を呈しており、施文等はない。口縁部の外反が緩やかになるものも含まれる。

a1　口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、頸部に刺突文、体部には市松文が施されるであろうもの。279

a2　口唇部にキザミ、口縁部外面に市松文、頸部に刺突文、体部には市松文が施されるであろうもの。280, 282, 283

a3　口唇部にキザミ、口縁部外面に山形文、頸部に刺突文、体部には市松文が施されるであろうもの。281

a4　口唇部にキザミ、口縁部外面に刺突文、頸部以下に市松文が施されるであろうもの。284, 285

b1　頸部から体部のもので、外面に縄文・市松文、以下に刺突文が施されたもの。286～288

b2　頸部から体部にかけての破片で、頸部外面に格子目文、体部に刺突文が施されたものである。289

b3　頸部から体部にかけての破片で、頸部外面に刺突文、体部に山形文が施されたものである。292

b4　頸部から体部にかけての破片で、外面に刺突文、体部に市松文が施されたものである。290, 291, 293, 294, 297

b5　頸部から体部にかけての破片で、頸部外面に市松文が施されたものである。295, 296, 298～300

c1　体部片で外面にネガティブな市松文が施されたもの。301～303, 305～321, 323～349, 351～353

c2　体部片で外面にネガティブなひとつの文様が小さい市松文が施されたもの。356～361, 363, 364

c3　体部片で外面にネガティブな格子目文が施されたもの。304, 322, 350

c4　体部片で外面にネガティブなひとつの文様が小さい格子目文が施されたもの。362, 365～379

c5　体部片で外面に刺突文が施されたもの。354, 355

c6　体部片で外面に植物を原体とした刺突文が施されたもの。380

d1　口唇部にキザミ、少し外反する口縁部外面に市松文が施されるもの。381, 382

d2　口唇部にキザミ、少し外反する口縁部外面に格子目文が施されるもの。383

d3　口唇部にキザミ、やや外反する口縁部以下の外面に楕円状の格子目文が施されたもの。384

d4　口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部以下の外面に、上から浅い刺突、ネガティブな楕円文が施されたもの。385～387

e1　体部片で外面にネガティブな楕円に近い市松文が施されたもの。器厚は薄い。388～390

e2　体部片で外面にネガティブな楕円状の押型文が施されたもの。器厚は薄い。施文の重複したものも含む。391～399

e3　体部片で外面にネガティブなひとつの文様が小さい格子目文が施されたもの。400～407

Ⅴ類

押型文系土器、神宮寺式[*]期の範疇として把握したものである。器形は、直線的に外傾する口縁部、以下直線に近い曲線を描くような体部、尖底の底部となるものである。土器内面はなめらかな状況を呈しており、施文等はない。器厚は薄くなる。

a1　口唇部にキザミ、少し外傾する口縁部外面に、上から山形文、疎らにネガティブな楕円文が施されたもの。器厚は薄い。408～413

a2　直線的に外傾する口縁部外面に、ネガティブな細い楕円文が施されたもの。器厚は薄い。414

a3　口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部外面にネガティブな細い楕円文が施されたもの。器厚は薄い。415

b1　口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部外面にネガティブな細い楕円文が施されたもの。器厚はより薄い。417～419

b2　直線的に外傾する口縁部外面にネガティブな細い楕円文が施されたもの。器厚はより薄いもの。416, 420～422

b3　直線的に外傾する口縁部外面にネガティブな斜傾する格子目文が施されたもの。器厚はより薄いもの。423

c1　体部片で外面に、ネガティブな山形文・楕円文が施されたもの。器厚は薄い。424～428

c2　体部片で外面に、ネガティブな横位の直線文・楕円文が施されたもの。器厚は薄い。429

c3　体部片で外面に、ネガティブな山形文が施されたもの。器厚は薄い。430

c4　体部片で外面に、ネガティブな楕円文が施されたもの。器厚は薄い。431～435

c5　体部片で外面に、ネガティブな斜傾する格子目文が施されたもの。器厚は薄い。436, 437

c6　体部片で外面に、ネガティブな楕円文が施され、文様の間隔も狭く、斜格子に近いものである。器厚は薄い。438～451

c7　体部片で外面にネガティブな楕円文が浅く施文されたもの。器厚は薄い。452, 453

分類	報告番号	分類	報告番号
Ⅰa1	1	Ⅳb3	292
Ⅰa2	2, 3	Ⅳb4	290, 291, 293, 294, 297
Ⅰa3	4, 5	Ⅳb5	295, 296, 298, 299, 300
Ⅰb1	6	Ⅳc1	301, 302, 303, 305, 306, 307, 308, 309, 310, 311, 312, 313, 314, 315, 316, 317, 318, 319, 320, 321, 323, 324, 325, 326, 327, 328, 329, 330, 331, 332, 333, 334, 335, 336, 337, 338, 339, 340, 341, 342, 343, 344, 345, 346, 347, 348, 349, 351, 352, 353
Ⅰb2	7, 8, 9
Ⅰc1	10, 11
Ⅰd1	12, 17
Ⅰd2	13, 14, 15, 16, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62
Ⅰe1	63
Ⅱa1	64, 66, 67, 68, 69, 70, 71
Ⅱa2	65, 72, 73, 74, 75, 76, 77
Ⅱb1	78, 79
Ⅱb2	80, 81
Ⅱc1	82
Ⅱd1	83, 84, 85, 86
Ⅱe1	87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100, 101, 102, 103, 104, 105, 106, 107, 108, 109, 110, 111, 112, 113, 114, 115, 116, 117, 118, 119, 120, 121, 122, 123, 124, 125, 126, 127, 128, 129, 130, 131
Ⅱf1	132, 133
Ⅱf2	134
Ⅱf3	135, 136, 137, 138, 141
Ⅱf4	139, 142, 143, 144, 145
Ⅱf5	140
Ⅱf6	146, 147, 148
Ⅱg1	149, 151, 156
Ⅱg2	150, 152, 153, 154, 155, 157
Ⅲa1	158, 159, 176, 177
Ⅲa2	161, 163, 164, 165, 166, 168, 170
Ⅲa3	171
Ⅲa4	160, 162, 167, 169, 172, 181, 182, 184
Ⅲa5	173
Ⅲa6	174, 175, 183
Ⅲa7	178, 179
Ⅲa8	180
Ⅲb1	185, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 192, 193, 194, 195, 196, 197, 198, 199, 200, 201, 202, 203, 204, 205, 206, 207, 208, 209, 210, 211, 212, 213, 214, 215, 216, 217, 218, 219, 220, 221, 222, 223, 224, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 232, 233, 234, 235, 236, 237, 238, 239
Ⅲc1	240, 241
Ⅲd1	242, 243, 244, 245, 246, 247, 248, 249, 250, 251
Ⅲe1	252, 253, 254, 255, 256, 257, 258, 259, 260, 261, 262, 263, 264, 265, 266, 267, 268, 269, 270, 271, 272, 273, 274, 275, 276, 277, 278
Ⅳa1	279
Ⅳa2	280, 282, 283
Ⅳa3	281
Ⅳa4	284, 285
Ⅳb1	286, 287, 288
Ⅳb2	289
Ⅳb3	292
Ⅳb4	290, 291, 293, 294, 297
Ⅳb5	295, 296, 298, 299, 300
Ⅳc1	301, 302, 303, 305, 306, 307, 308, 309, 310, 311, 312, 313, 314, 315, 316, 317, 318, 319, 320, 321, 323, 324, 325, 326, 327, 328, 329, 330, 331, 332, 333, 334, 335, 336, 337, 338, 339, 340, 341, 342, 343, 344, 345, 346, 347, 348, 349, 351, 352, 353
Ⅳc2	356, 357, 358, 359, 360, 361, 363, 364
Ⅳc3	304, 322, 350
Ⅳc4	362, 365, 366, 367, 368, 369, 370, 371, 372, 373, 374, 375, 376, 377, 378, 379
Ⅳc5	354, 355
Ⅳc6	380
Ⅳd1	381, 382
Ⅳd2	383
Ⅳd3	384
Ⅳd4	385, 386, 387
Ⅳe1	388, 389, 390
Ⅳe2	391, 392, 393, 394, 395, 396, 397, 398, 399
Ⅳe3	400, 401, 402, 403, 404, 405, 406, 407
Ⅴa1	408, 409, 410, 411, 412, 413
Ⅴa2	414
Ⅴa3	415
Ⅴb1	417, 418, 419
Ⅴb2	416, 420, 421, 422
Ⅴb3	423
Ⅴc1	424, 425, 426, 427, 428
Ⅴc2	429
Ⅴc3	430
Ⅴc4	431, 432, 433, 434, 435
Ⅴc5	436, 437
Ⅴc6	438, 439, 440, 441, 442, 443, 444, 445, 446, 447, 448, 449, 450, 451
Ⅴc7	452, 453
Ⅴc8	454, 455, 456, 457
Ⅴd1	458, 459, 460, 461, 462, 463, 464, 465, 466, 467, 468, 469, 470, 471, 472, 473, 474, 475
Ⅴd2	476, 477, 478, 479, 480, 481
Ⅴd3	482, 483, 484, 485, 486, 487, 488, 489, 490, 491, 492, 493, 494, 495, 496, 497, 498, 499, 500, 501
Ⅴa1	502, 504
Ⅴa2	503
Ⅴb1	505
Ⅴb2	506, 507, 508, 509
Ⅵa1	510, 511, 512, 513
Ⅵa2	516
Ⅵa3	517, 518
Ⅵb1	515
Ⅵb1	519, 520, 521, 522, 523, 524
Ⅵb2	525, 526, 527
Ⅵb1	528, 529
Ⅸa1	510, 511, 512, 513

第Ⅳ-1表　縄文土器分類一覧表

c8　体部片で土器にネガティブな前段階より細長い楕円文が浅く施文されたもの。器厚は薄い。454～457

d1　体部片で外面に、ネガティブな少し細長くなった楕円文が浅く施され、文様の間隔が疎らになったもの。器厚はより薄い。458～475

d2　体部片で外面に、ネガティブな細長くなった格子目文が施されもの。器厚はより薄い。476～481

d3　体部片で外面に、ネガティブなより細長くなった格子目文が施されたもの。文様は直線に近い。器厚はより薄い。482～501

Ⅵ類

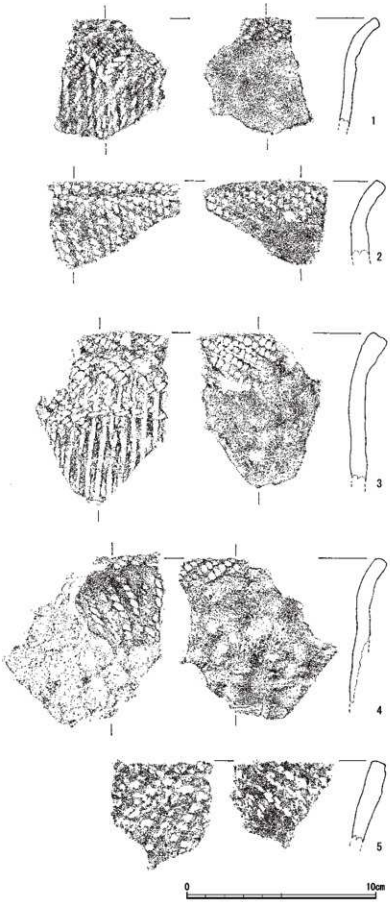
押型文系土器、神並上層式[iii]期のものとして把握したものである。器形は、直線的に少し外傾する口縁部、以下直線に近い曲線を描くような体部、尖底の底部となるものである。土器内面はなめらかな状況を呈しており、施文等はない。器厚は薄くなる。器厚はより薄いものとなる。

a1　口唇部にキザミがみられ、口縁部により細長い楕円文が施されたもの。器厚はより薄い。502, 504

a2　口縁部により細長い楕円文が矢羽根状に施されたもの。器厚はより薄い。503

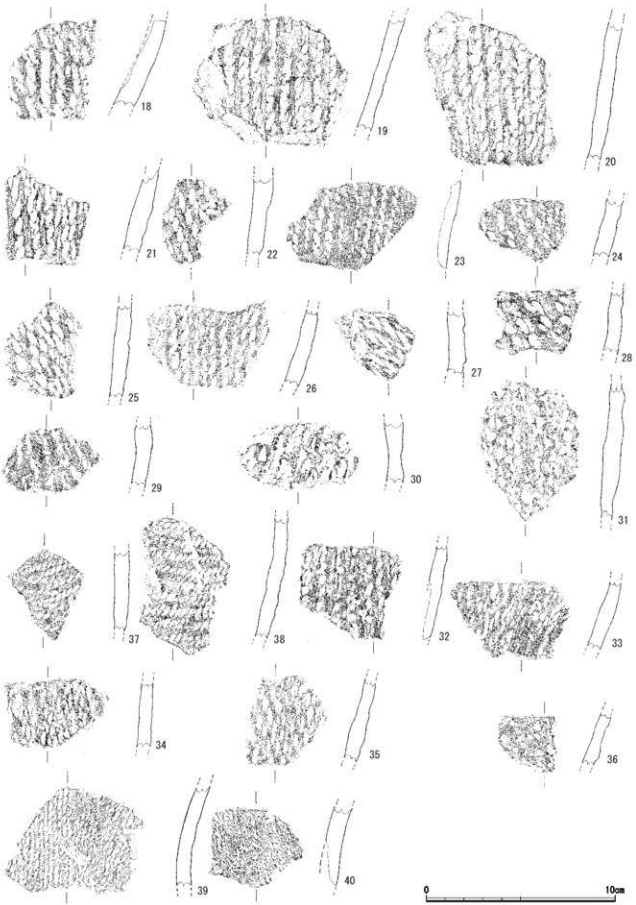
b1 体部片で外面に、山形文、ネガティブな斜傾した楕円文が矢羽根状に施されもの。器厚はより薄い。505

b2 体部片で外面に、細かな山形文が施されもの。器厚はより薄い。506～509

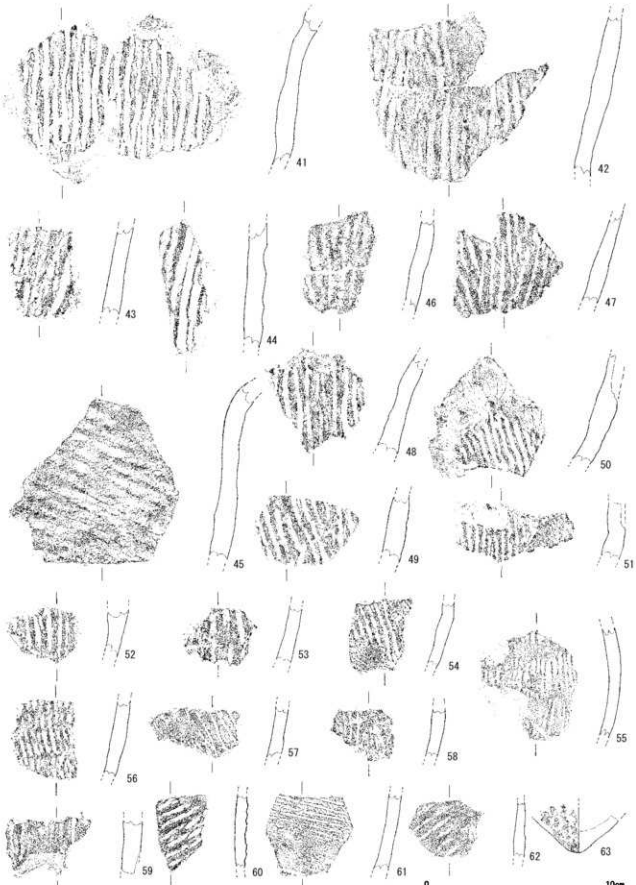


第Ⅳ-3図　SZ1出土土器実測図1(1:2)

第Ⅳ-4図　SZ1出土土器実測図2(1:2)



第Ⅳ-5図　SZ1出土土器実測図3(1:2)



第Ⅳ-6図　SZ1出土土器実測図4(1:2)

Ⅶ類

無文様の土器、押型文期のものか。器形は、口縁部が少し外傾し、頸部で少し屈曲するものである。

a1　内外面、無文様のもの。514

a2　外面に条線状のものがみられるもの。516

a3　口縁部内面の最上部にキザミ、それ以外は無文様のもの。517,518

b1　体部片で、内外面、無文様のもの。515

Ⅷ類

押型文系土器で、高山寺式[9]併行と考えられるもの。器形は口縁部から体部かけて直線的で、底部は丸底となるものである。

a1　体部片で、外面にポジティブな市松文が施されたもの。器厚は非常に厚い。519～524

a2　体部片で、外面に細い網目状文が施されたもの。器厚は非常に厚い。525～527

b1　底部片で丸底となるもの。528,529

Ⅸ類

押型文系土器期の底部片で、所属時期が判然としないものである。

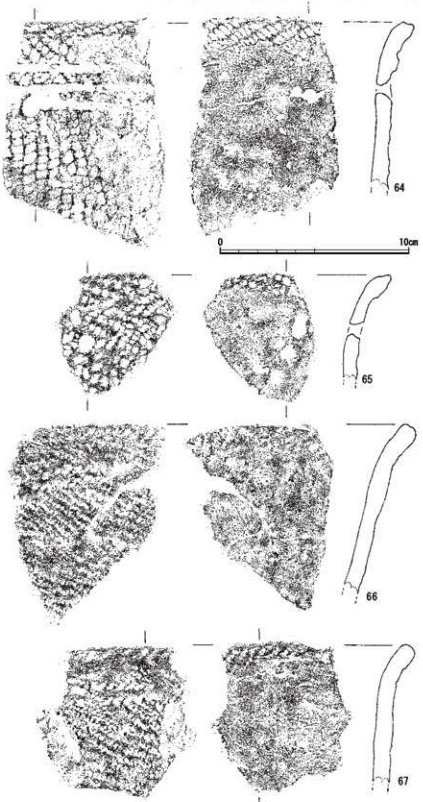
a1 外面に押型文が施され、尖底となるもの。510～513

これら土器分類の一覧は第Ⅳ-1表のとおりである。

b 出土した土器等

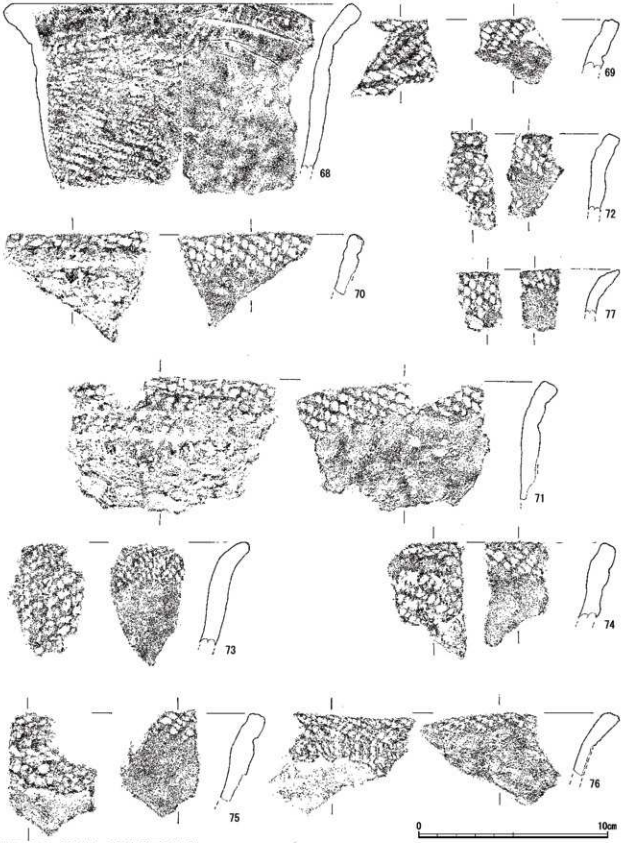
SZ1出土遺物

1～11は撚糸文が土器内外面あるいは外面に施されている口縁部片で、頸部、体部上部まで含むものもある。器厚は厚めである。1は、口唇部に縄文が施されている。少し外傾する口縁部から頸部かけて外面には縄文が施され、直立気味になる頸部以下に絡条体による撚糸文が施されている。なお、口縁部外面には弧状の縄文圧痕がみられる。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、



第Ⅳ-7図　SZ1出土土器実測図5(1:2)

口唇部の縄文原体と同じ原体と考えられる。また、内面には指圧痕が明瞭に残る。2は、口唇部に縄文が施され、少し外傾する短い口縁部から頸部にかけて外面にも縄文が施され、その直下から絡条体による撚糸文が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部の縄文原体と同じ原体と



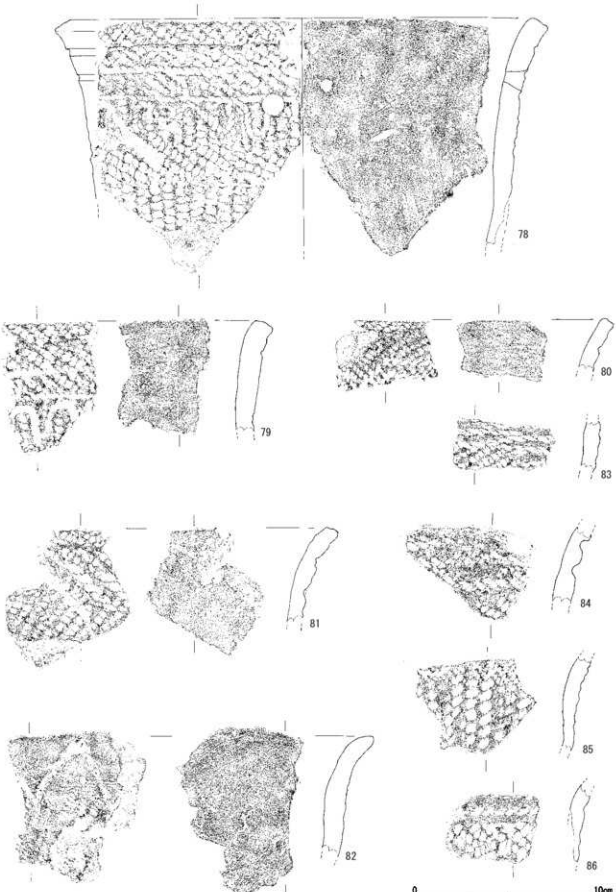
第Ⅳ-8図　SZ1出土土器実測図6(1:2)

考えられる。また、内面には指圧痕がみられる。3は、口唇部に縄文が施され、少し外傾する短い口縁部から頸部にかけての外面には縄文が施されている。直立気味になる頸部以下に絡条体による撚糸文が施されている。縄文と撚糸文が重なる部分もある。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部の縄文原体と同じ原体を使用していないようである。また、内面には指圧痕が明瞭に残る。4は、口唇部に縄文が施されている。少し外傾する口縁部から頸部にかけて外面には絡条体による撚糸文が施されている。外面の文様が施された部分が、大きく、薄く剥落している。これは、施文の際に、器面へ水を含ませ、表面を軟化させた後に施文するため、このような事象が起きたのであろう。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部の縄文原体と同じ原体の使用が考えられる。また、内面には指圧痕が明瞭に残る。5は、口唇部に撚糸文が押圧されている。直線的に外傾する口縁部外面に絡条体による撚糸文が施され、口縁部内面の最上部にも絡条体による撚糸文が施されている。6は、口唇部に押圧による撚糸文が施され、若干外傾する口縁部外面には2条の縄文原体押圧による側面圧痕がみられる。口縁以下に、撚糸文が全体的に施されている。口縁部内面の最上部に撚糸文が施されており、口縁部以下の内面には指圧痕が明瞭に残る。7は、口唇部に押圧による撚糸文が施され、若干外傾する口縁部、頸部、体部にかけて、撚糸文が全体的に施されている。外面の文様が施された部分が、大きく、薄く剥落している。口縁部内面の最上部に撚糸文が施されており、口縁部以下の内面には指圧痕が明瞭に残る。8は、口唇部に押圧による撚糸文が施され、若干外傾する口縁部から頸部にかけて、撚糸文が施されている。口縁部内面の最上部にも撚糸文が施されている。9は、若干外傾する口縁部から頸部にかけて、撚糸文が全体的施されている。文様が施された部分が、大きく、薄く剥落している。口縁部内面の最上部に撚糸文が施されている。10は、直線的な口縁部外面に、撚糸文が全体的に施されている。内面が、大きく、薄く剥落している。11は、直線的な口縁部、頸部にかけて、非常に細い縄の撚糸文が全体的に施されている。これらについては、撚糸文系土器期に属するものといえる。

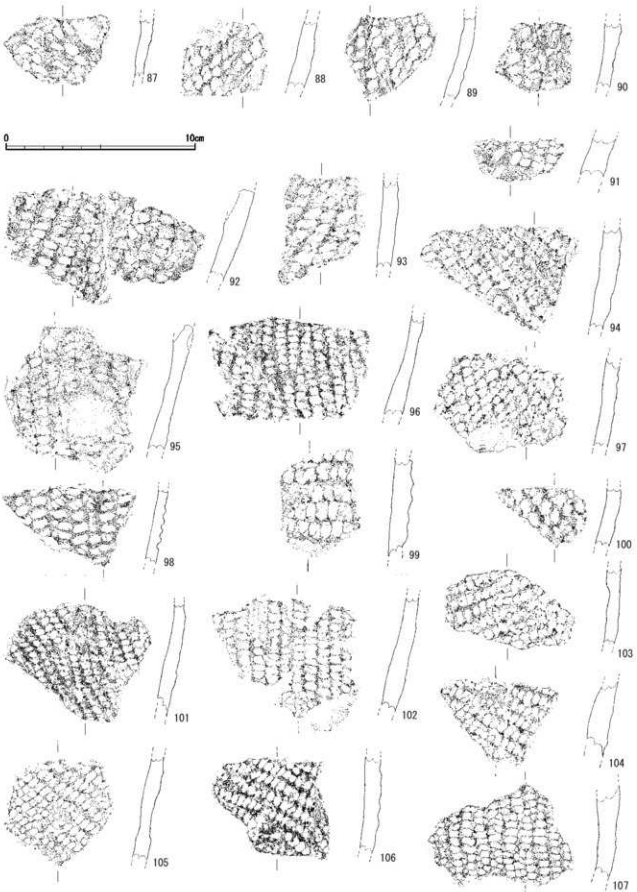
12～62は撚糸文が土器外面に施されている体部片である。12は、外面に口縁部から続く縄文と、縄文施文以下には撚糸文が施されている。文様の施された部分が、薄く剥落している。13は、外面に絡条体による撚糸文が施されている。文様の施された部分が、大きく、薄く剥落している。14～17は、外面に太い縄を使用した絡条体による撚糸文が施されている。内面は指圧痕及びナデがみられる。18～29は、外面に細い縄を使用した絡条体による撚糸文が施されている。内面は指圧痕及びナデがみられる。19は、文様の施された部分が、大きく、薄く剥落している。30～33は、撚糸文の施文が重なったものであろう。内面は指圧痕及びナデがみられる。34～36は、土器外面の全部に撚糸文が施されたものと思われる。内面は指圧痕及びナデがみられる。37から40は、土器外面に非常に細い縄を使用した撚糸文が施されたものと思われる。内面は指圧痕及びナデがみられる。41から44は、土器外面にやや太い縄、無節縄文による撚糸文が施されているものといえよう。内面は指圧痕及びナデがみられる。45は、撚糸文施文後に、軽く器面をナデたものであろうか。内面は指圧痕及びナデがみられる。46は、土器外面にやや細い縄、無節縄文による撚糸文が施されているものといえよう。内面は指圧痕及びナデがみられる。47～53は、やや細い縄、無節縄文による撚糸文が施されているといえよう。内面は指圧痕及びナデがみられる。54～62は、土器外面に非常に細い縄、無節縄文による撚糸文が施されているものであろう。内面は指圧痕及びナデがみられる。これらについては、撚糸文系土器期に属するものといえる。

63は、尖底の底部片である。外面に絡条体による細い撚糸文がみられる。これらについては、撚糸文系土器期に属するものといえる。

64～77は土器外面、内面口縁部最上部に縄文が施されている口縁部片である。いわゆる表裏縄文土器と呼称されている一群である。64は、口縁部が少し外傾し、以下は直立気味となる。口縁部以下の外面には複節の太い縄文が施されている。外傾と直立する部分の境界付近に3段の側面圧痕が横方向に施されている。側面圧痕の最下部には焼成後穿孔が1ケ

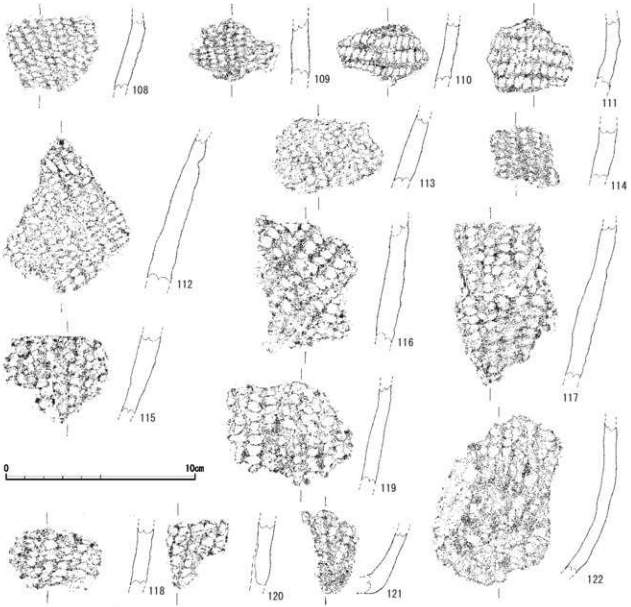


第Ⅳ-9図　SZ1出土土器実測図7(1:2)



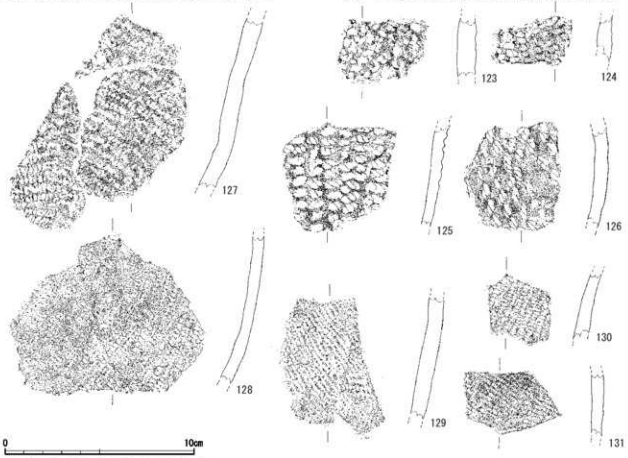
第Ⅳ-10図　SZ1出土土器実測図8(1:2)

所みられる。口唇部には縄文が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部の縄文原体と同じ原体と考えられる。外面に施された縄文原体とは縄の条の太さが違うようである。また、内面には指圧痕が明瞭に残る。栗津湖底遺跡においても同様の太い縄文が施されたものが存在している[7]。65は、口縁部が少し外傾し、以下は直立気味である。口縁部以下の外面には縄文が施されている。屈曲部分には焼成後穿孔が２ケ所みられる。うちそがれたような口唇部には縄文が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されている。縄文原体と同じ原体と考えられる。また、内面には指圧痕が明瞭に残る。66は、口縁部が少し外傾し、以下は直立気味となる。口縁部以下の外面には細い縄文、口縁部の境界に２段の側面圧痕が横方向に施されている。口唇部には縄文が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部の縄文原体と同じ原体と考えられる。施文が浅かったのだろうか、文様自体が非常に見づらい。また、内面には指圧痕が残る。67は、口縁部が少し外傾し、以下は直立気味となる。口縁部以下の外面には細い縄文、口縁部の境界に２段の側面圧痕が横方向に施されている。口唇部には縄文が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部の縄文原体と同じ原体と考えられる。施文が浅かったのだろうか、文様自体の確認が難しい。また、内面には指圧痕が残る。



第Ⅳ-11図　SZ1出土土器実測図9(1:2)

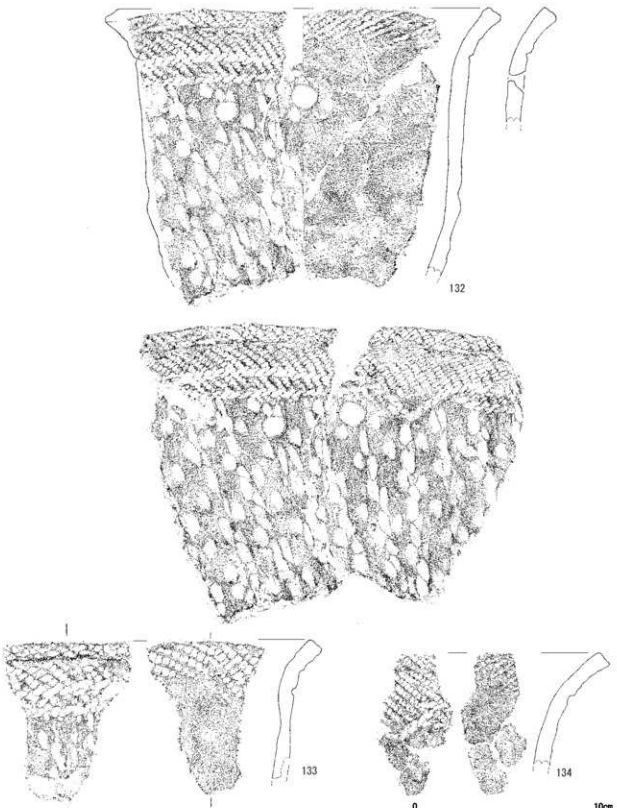
68は、口縁部が少し外傾し、以下は直立気味となる。口縁部以下の外面には細い縄文、口縁部の境界に２条の側面圧痕が横方向に施されている。少し厚めの口唇部には縄文が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部の縄文原体と同じ原体と考えられる。施文が浅かったのだろうか、文様自体が非常に見づらい。また、内面には指圧痕が残る。69は、口縁部以下の外面には縄文、２段の横位の側面圧痕が横方向に施されている。少し厚めの口唇部には縄文が施されており、口縁部内面の最上部にも縄文が施されている。70は、口縁部以下の外面には縄文、２段の横位の側面圧痕が横方向に施されている。少し厚めの口唇部には縄文が施されており、口縁部内面の最上部にも縄文が施されている。71は、口縁部以下の外面には縄文、２段の側面圧痕が横方向に施されている。外面下部の文様については剥離により確認することはできない。少し厚めの口唇部には縄文が施されており、口縁部内面最上部に縄文が施され、縄文以下に指圧痕がみられる。72は、口縁部以下の外面には縄文が施されている。少し厚めの口唇部には縄文が施されており、口唇部直下の口縁部上端内面に縄文が施されている。73は、若干外反する短い口縁部以下の外面には縄文が施され、少し厚めの口唇部には縄文が施されており、口唇部直下の口縁部上端内面に縄文が施されている。内面の縄文以下には指圧痕が明瞭に残る。74は、外傾する口縁部外面には縄文が施され、口唇部にも縄文が施されている。また、口縁部内面の最上部には縄文が施されている。75は、外傾する口縁部外面には縄文が施されているが、下部は剥離により確認ができない。少し厚めの口唇部には縄文が施されており、口縁部内面の最上部にも縄文が施されている。76は、口縁部の外面には縄文が施されているが、下部は剥離により確認ができない。若干外傾する少し厚めの口唇部には縄文が施されており、口唇部直下の口縁部内面最上部に縄文が施されている。これらは表裏縄文土器と呼称されているものである。77は、短い口縁部が少し外反し、外面には縄文が施されている。口唇部は形成されていないが、断面がうちそぎ状となる口縁部内面最上部に縄文が



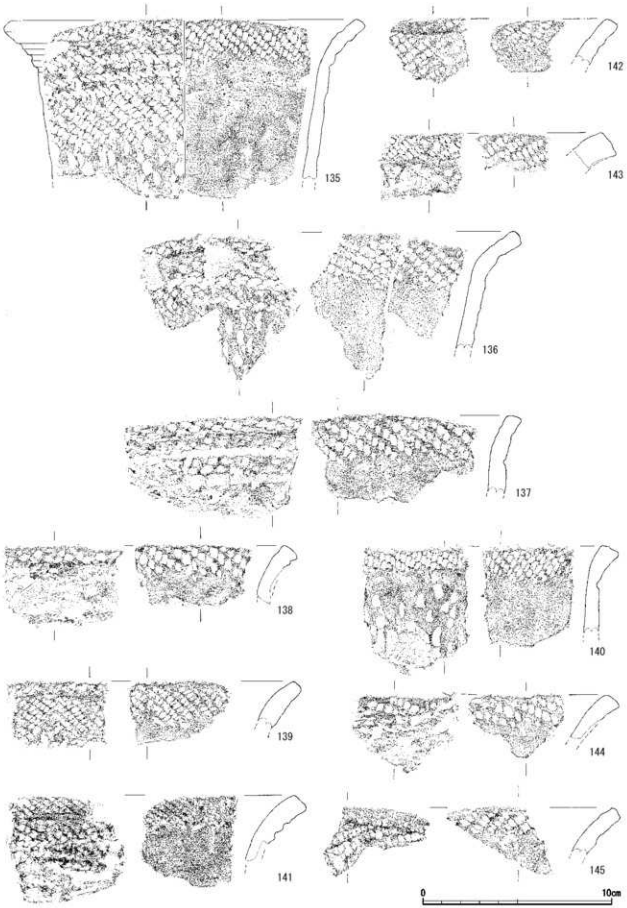
第Ⅳ-12図　SZ1出土土器実測図10(1:2)

施されている。これらは、縄文系土器期のものといえよう。

78～82は、前述の64～77と文様構成、器形は同様であるが、土器内面に縄文が施されていない口縁部片である。器厚は厚めである。78は、口縁部が若干外傾し、以下は直立気味となる。口縁部外面は縄文、

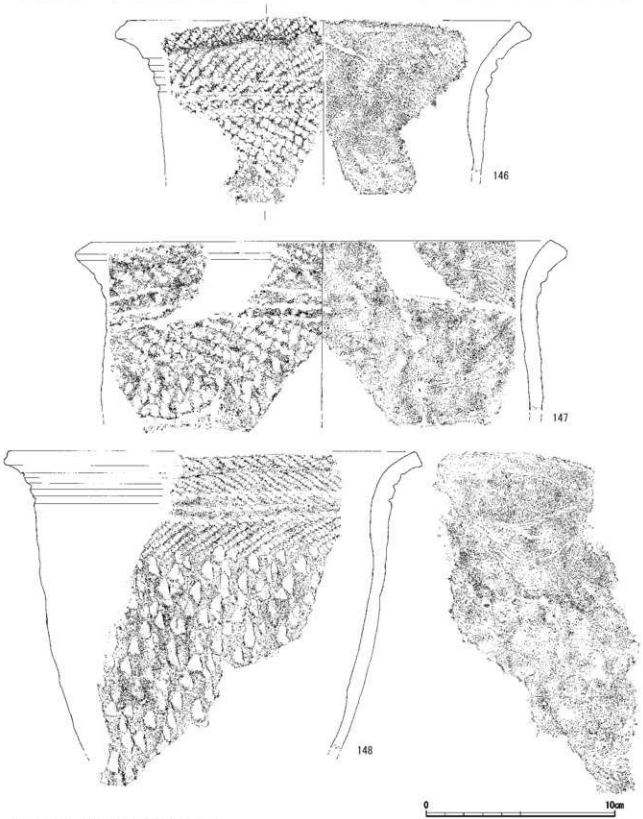


第Ⅳ-13図　SZ1出土土器実測図11(1:2)

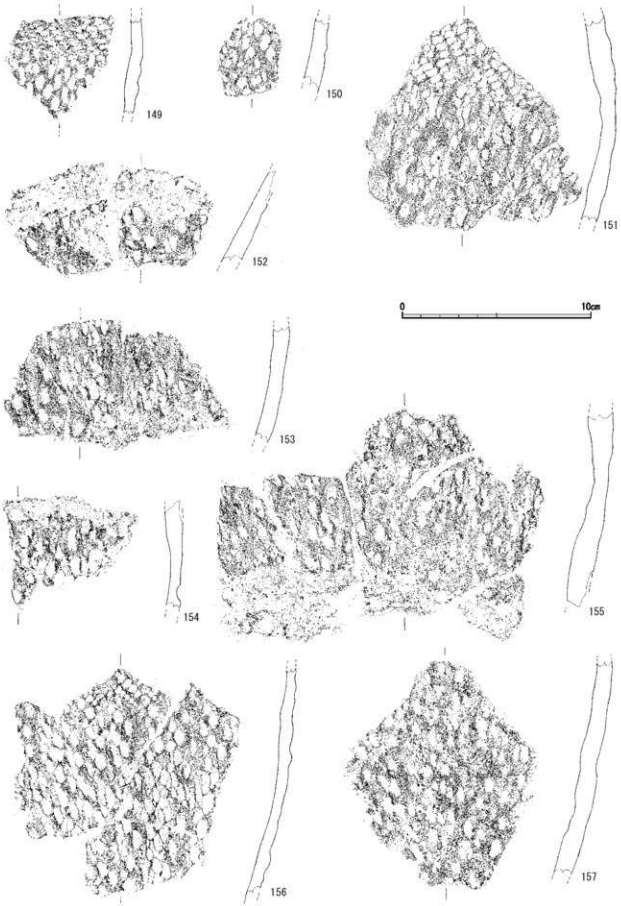


第Ⅳ-14図　SZ1出土土器実測図12(1:2)

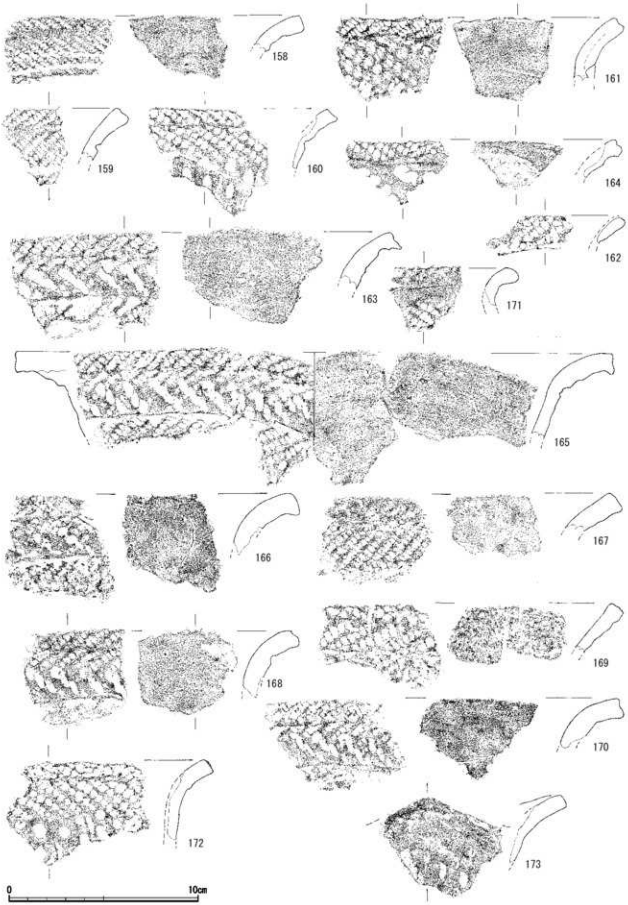
口縁部以下の外面にも縄文が施されている。外傾する口縁部と直立気味の頸部以下の境界には２段の側面圧痕が横方向に施されている。その側面圧痕最下部と重複する形で半弧状に連続する縄文原体による圧痕がみられる。その側面圧痕に重複する形で焼成後穿孔が１ケ所みられる。少し厚めの口唇部には縄文が施されている。側面圧痕の縄文原体と同じものであろうか。また、内面には指圧痕が明瞭に残る。



第Ⅳ-15図　SZ1出土土器実測図13(1:2)



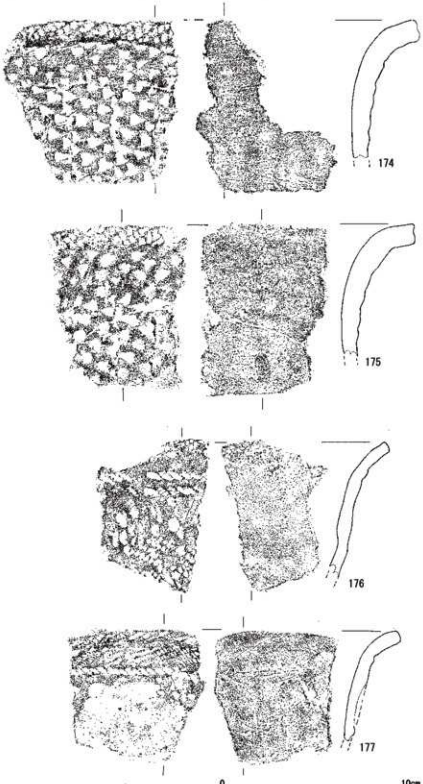
第Ⅳ-16図　SZ1出土土器実測図14(1:2)



第Ⅳ-17図　SZ1出土土器実測図15(1:2)

半弧状に連続する圧痕については、周辺地域では出土例がないため、位置づけが難しい。79は、口縁部が若干外傾し、口縁部外面は縄文、口縁部以下の外面にも縄文が施されている。外傾する口縁部と直立気味の体部の境界には2段の側面圧痕が横方向に施されている。その側面圧痕最下部と重複する形で半弧状に連続する縄文原体による圧痕がみられる。少し厚めの口唇部には縄文が施されている。側面圧痕の縄文原体と同じものであろうか。また、内面には指圧痕が明瞭に残る。80は、口縁部は若干外傾し、外面には縄文が施されている。少し厚めの口唇部には縄文が施されている。81は、外傾する口縁部外面には縄文が施され、縄文原体が違う押圧もみられる。内面には調査時に掘削の道具が当たって破損して判然としないが、縄文の施文はないと思われる。口縁部以下の内面には指圧痕が残る。少し厚めの口唇部には縄文が施されている。82は、口縁部は少し外反する。口縁部外面は、無文部があり、その下に縄文原体による半弧状の圧痕がみられ、その圧痕以下に縄文が施されている。口唇部は形成されていない。このような文様構成は、当遺跡ではあまりないものではあるが、ひとまずこの一群に含めておきたい。これらは、縄文系土器期のものといえよう。

83～86は、土器外面に横方向に側面圧痕や縄文が施され、内面には指圧痕及びナデがみられる頸部付近のものである。器厚は厚めである。83は、土器外面には縄文が施されており、割れた部分には縄文がみられる。側面圧痕と考えてよいだろう。84は、土器外面に横方向に側面圧痕が2段、以下に縄文が施されている体部片である。縄文原体は複節のものといえよう。85は、土器外面には、口縁部に近い方が細かく、それ以下に太い縄文が施さ

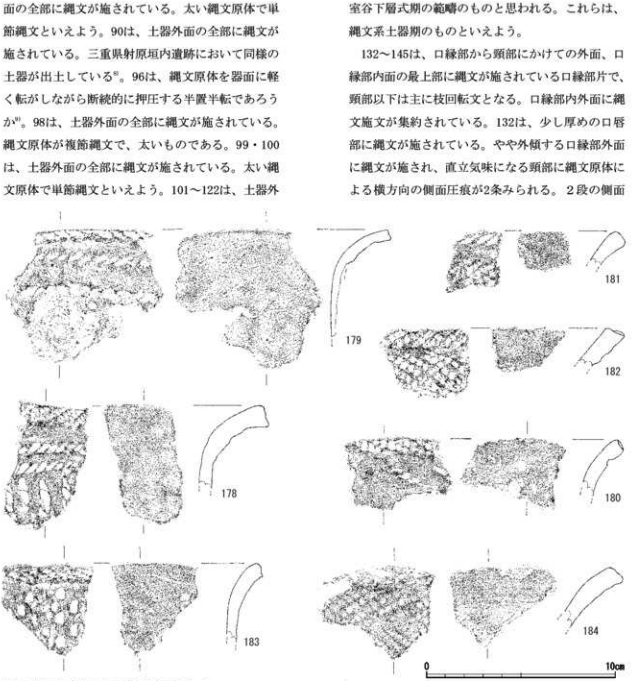


第Ⅳ-18図　SZ1出土土器実測図16(1:2)

れている。86は、口縁部直下付近のものといえる。外面には、横方向に側面圧痕が1段施され、以下には縄文が施されている。これらは、縄文系土器期のものといえよう。

87～131は、土器外面に縄文が施され、内面には指圧痕及びナデがみられる体部片である。87は、土器外面の全部に縄文が施されている。この太めの縄文原体は単節縄文と考えられる。88は、土器外面の全部に縄文が施されている。縄文原体としては、複節縄文といえ、太くなっている。89～97は、土器外面の全部に縄文が施されている。太い縄文原体で単節縄文といえよう。90は、土器外面の全部に縄文が施されている。三重県射原垣内遺跡において同様の土器が出土している[8]。96は、縄文原体を器面に軽く転がしながら断続的に押圧する半置半転であろうか[9]。98は、土器外面の全部に縄文が施されている。縄文原体が複節縄文で、太いものである。99・100は、土器外面の全部に縄文が施されている。太い縄文原体で単節縄文といえよう。101～122は、土器外面の全部に縄文が施されている。細い縄文原体で単節縄文と思われる。117は、三重県坂倉遺跡で類似の土器が出土している[10]。121・122は、底部付近のものといえよう。123・124は、土器外面の全部に縄文が施されている。細い縄文原体であるが複節縄文による施文であろうか。129～131は、土器外面の全部に縄文が施されている。より細い無節縄文の原体により施文がなされている。128は、室谷下層式といった多縄文系に連なるものか[11]。129は、大川式期や神宮寺式期にはあまりないものである。131は、室谷下層式期の範疇のものと思われる。これらは、縄文系土器期のものといえよう。

132～145は、口縁部から頸部にかけての外面、口縁部内面の最上部に縄文が施されている口縁部片で、頸部以下は主に枝回転文となる。口縁部内外面に縄文施文が集約されている。132は、少し厚めの口唇部に縄文が施されている。やや外傾する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる頸部に縄文原体による横方向の側面圧痕が2条みられる。2段の側面

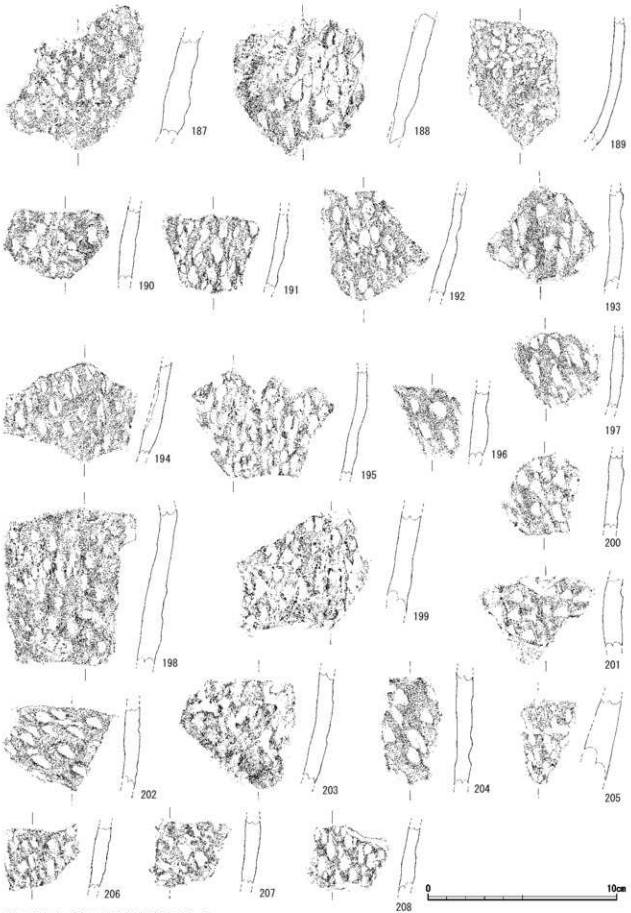


第Ⅳ-19図　SZ1出土土器実測図17(1:2)

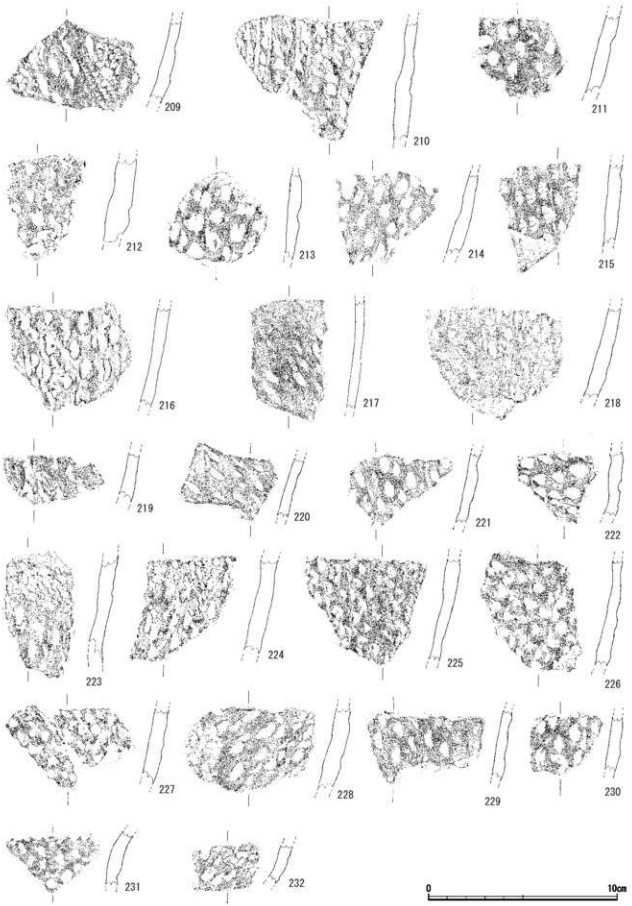
圧痕を区画するかのように一部に半弧状になる圧痕が施されている。残存破片から類推すると弧状の端が合流するものは２ないし４単位となるのではないだろうか。側面圧痕より下には全体的に枝回転文が施されている。また、側面圧痕直下に焼成後穿孔が２ケ所確認できる。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。また、口縁部より下の内面には指圧痕が明瞭に残る。133は、少し厚めの口唇部に縄文が施されている。やや外傾する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる頸部に縄文原体による横方向の側面圧痕が２段みられる。側面圧痕より下には全体的に枝回転文が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。また、口縁部より下の内面には指圧痕が明瞭に残る。

134は、少し厚めの口唇部に縄文が施されている。やや外傾する口縁部外面に縄文が施されている。縄文施文部を区画するかのように半弧状になる132と同様の圧痕が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。また、口縁部より下の内面には指圧痕が明瞭に残る。132～134では縄文と枝回転文の施文の境界が明瞭なことがわかる。135は、少し厚めの口唇部には縄文が施されている。やや外傾する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる頸部に縄文原体による横方向の側面圧痕が３段みられる。側面圧痕より下の体部上半まで縄文がみられる。それ以下には全体的に枝回転文が施されている。また、口縁部内面の最上部に縄文が施されている。136は、少し厚めの口唇部には縄文が施されている。やや外傾する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる頸部に縄文原体による横方向の側面圧痕が２段みられる。側面圧痕より下には全体的に枝回転文が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。また、口縁部より下の内面には指圧痕が明瞭に残る。135・136では縄文と枝回転文の施文の境界が曖昧になっていることがわかる。137は、口唇部直下が若干外傾し、以下は直立気味となる。口縁部以下の外面には縄文、外傾と直立する部分の境界付近に横方向の側面圧痕が３段施されている。その側面圧痕下にも縄文が施され、最下部に枝回転文がみられる。少し肥厚する口唇部には縄文が施されている。側面圧痕の縄文原体と同じものであろうか。また、内面の口縁部最上部にも縄文が施されている。138は、少し厚めの口唇部には縄文が施されている。やや外傾する口縁部外面に縄文が施されている。それより下は施文部分が剥落している。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。139は、少し厚めの口唇部には縄文が施されている。やや外傾する口縁部外面に縄文が施され、頸部付近に縄文原体による横方向の側面圧痕が１段みられる。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。140は、口唇部直下が若干外傾し、以下は直立気味となる。口縁部以下の外面には枝回転文がみられる。少し厚めの口唇部には縄文が施されている。また、内面の口縁部にも縄文が施されている。141は、少し厚めの口唇部には縄文が施されている。やや外反する口縁部外面に縄文が施され、頸部付近に縄文原体による横方向の側面圧痕が２段みられる。それより下は施文部分が剥落している。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。142は、少し厚めの口唇部には縄文が施され

第Ⅳ-20図　SZ1出土土器実測図18(1:2)



第Ⅳ-21図　SZ1出土土器実測図19(1:2)



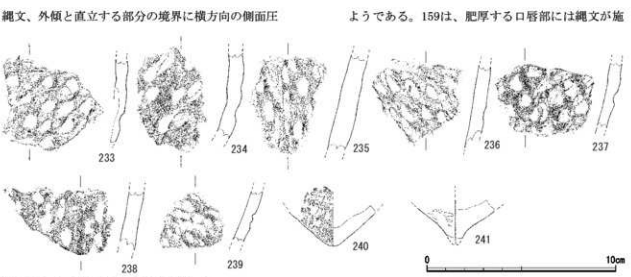
第Ⅳ-22図　SZ1出土土器実測図20(1:2)

ている。やや外反する口縁部外面に縄文が施されている。それより下は施文部分が剥落している。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。143は、少し厚めの口唇部には縄文が施されている。やや外反する口縁部外面に縄文が施されている。それより下は施文部分が剥落している。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。144は、少し厚めの口唇部には縄文が施されている。やや外反する口縁部外面に縄文が施されている。それより下は施文部分が剥落している。内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。145は、口唇部に縄文が施されている。少し外反する口縁部外面に縄文が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。これらは、縄文系土器期のものといえよう。

146～148は、土器外面の縄文と枝回転文との境界が曖昧で、口縁部内面に縄文施文がみられないものである。146は、少し厚めの口唇部には縄文が施されている。やや外傾する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる口縁部から頸部に縄文原体による横方向の側面圧痕が3段みられる。側面圧痕より下に縄文が施され、以下に全体的に三角形状の枝回転文が施されている。また、口縁部より下の内面には指圧痕が明瞭に残る。147は、口唇部直下がやや外傾し、以下は直立気味となる。口縁部以下の外面には縄文、外傾と直立する部分の境界に横方向の側面圧痕が3段施されている。その側面圧痕下にも縄文が施され、最下部に枝回転文がみられる。少し厚めの口唇部には縄文が施されている。側面圧痕の縄文原体と同じものであろうか。また、内面には指圧痕が明瞭に残る。148は、少し厚めの口唇部には縄文が施されている。やや外傾する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる口縁部から頸部に縄文原体による横方向の側面圧痕が3段みられる。側面圧痕より下に縄文が施され、以下に全体的に三角形状の枝回転文が施されている。また、口縁部より下の内面には指圧痕が明瞭に残る。これらは、縄文系土器期のものといえよう。

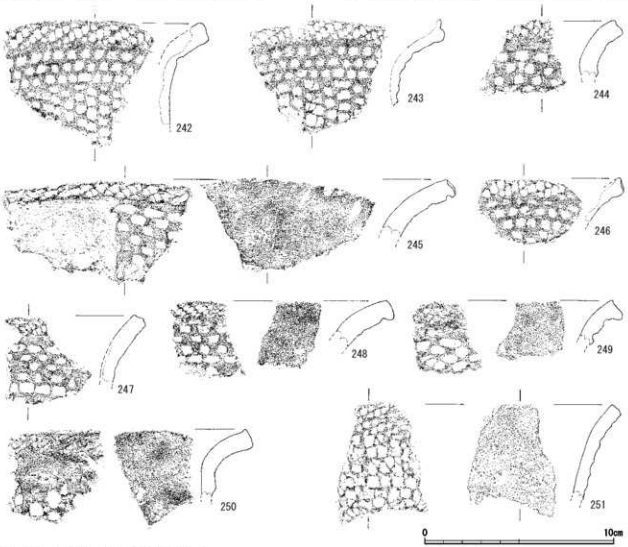
149～157は体部片で、土器内面は指圧痕とナデで、古い様相がみられるものである。149・151・156は、土器外面に枝回転文が施された体部片である。土器外面に縄文、以下に枝回転文が施されている。一部に縄文が施されている。土器内面には施文がない。150・152～155・157は、土器外面に枝回転文が施された体部片である。これらは、縄文系土器期のものといえよう。

158～184は、外反する口縁部から頸部にかけた破片で、一部は体部上半まで残るものもある。土器外面には縄文や枝回転文等が施され、内面はきれいにナデられなめらかといってよいものである。158は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる口縁部から頸部に縄文原体による横方向の側面圧痕が2段みられる。側面圧痕より下にも縄文が施されているようである。159は、肥厚する口唇部には縄文が施

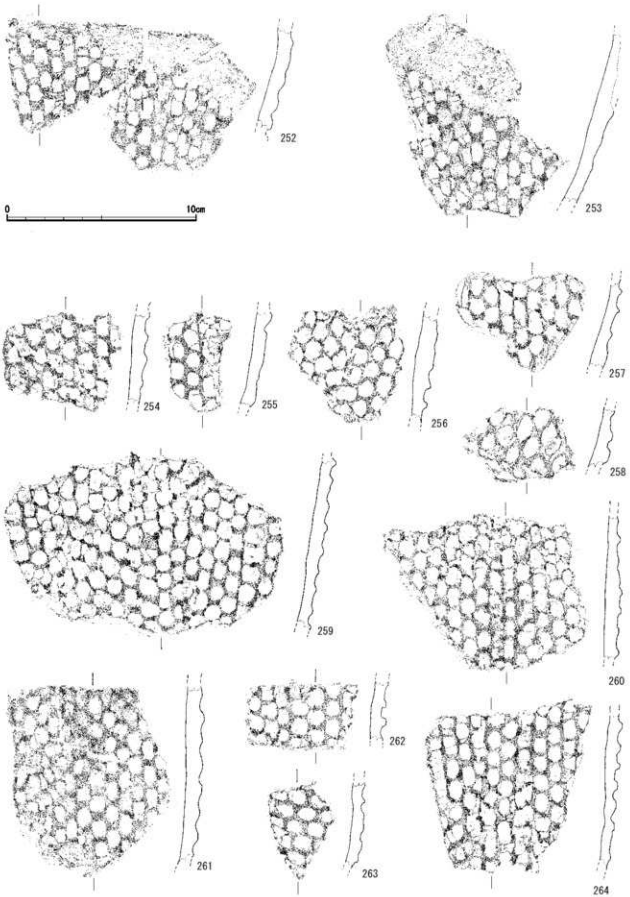


第Ⅳ-23図　SZ1出土土器実測図21(1:2)

されている。外反する口縁部外面に縄文が施され、縄文原体による側面圧痕1段がかすかに確認できる。160は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面に縄文が施され、それ以下に枝回転文がみられる。内面は表面が大きく剥落している。161は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる口縁部から頸部に縄文原体による圧痕がみられる。単節縄文といえよう。162は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面に縄文が施されている。内面は剥落している。163・165・166・168・170は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面に縄文が施されている。縄文原体端の押圧が羽状となっている。164は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面に縄文原体端の押圧がみられる。167・169は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面に縄文が施されている。171は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する短い口縁部外面に縄文が施されている。口唇部下は無文であろうか。172は、肥厚する口唇部に縄文が施され、外反する口縁部外面には上から縄文、頸部以下には枝回転文がみられる。土器内面には施文がなされていない。173は、少し外反する口縁部外面にはネガティブな押型文が施されている。枝回転文であろうか。波状口縁となるようである。174は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面、口唇部直下に扇様の枝回転文が施されている。しなる枝によるものであろうか。内面には指圧痕が残る。器厚が厚い。175は、口唇部直下が外反し、以下は直立気味となる。口縁部以下の外面には枝回転文がみられる。しなる枝により施文され

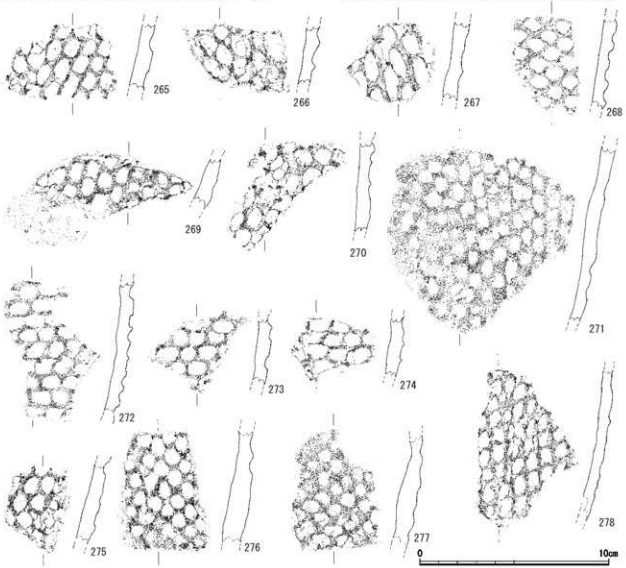


第Ⅳ-24図　SZ1出土土器実測図22(1:2)

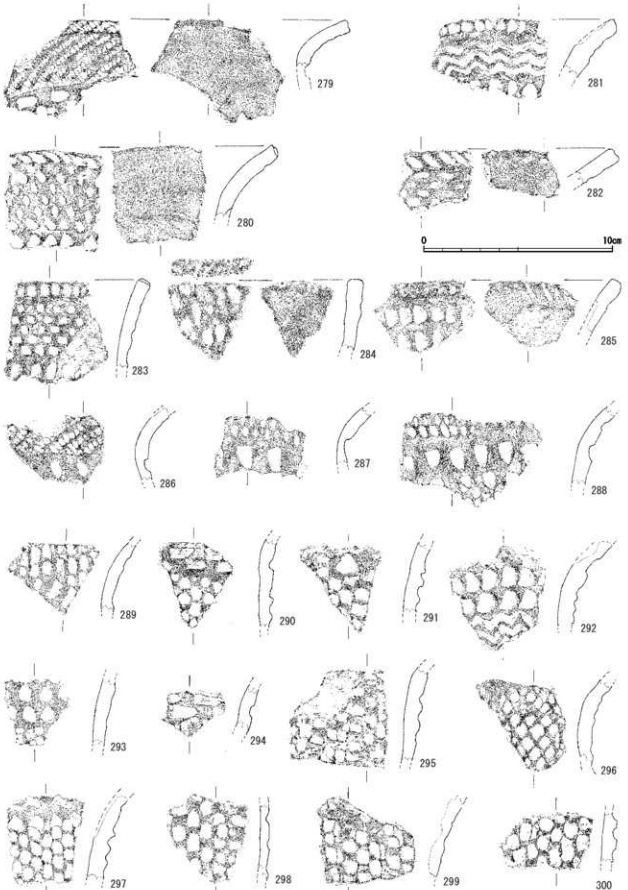


第Ⅳ-25図　SZ1出土土器実測図23(1:2)

ていたのだろう。角頭状の口唇部には縄文が施されている。また、内面には指圧痕がみられる。器厚が厚い。176は、口唇部には縄文が施されている。少し外反する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる口縁部から頸部に縄文原体による横方向の側面圧痕が２段みられる。側面圧痕より下に縄文が施され、以下に枝回転文が施されている。また、口縁部より下の内面には指圧痕が明瞭に残る。177は、口唇部には縄文が施されている。少し外反する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる口縁部から頸部に縄文原体による横方向の側面圧痕が２段みられる。側面圧痕より下は施文部分が薄く剥落している。ここには枝回転文が施されているものといえよう。また、口縁部より下の内面には指圧痕が明瞭に残る。178は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面、口唇部直下に縄文原体による側面圧痕が２段施されており、以下には縄文原体端による押圧、枝回転文がみられる。内面には指圧痕が残っている。179は、少し肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面、口唇部直下に縄文原体による横方向の側面圧痕が２段施され、圧痕間の間隔が広い。２段目の圧痕の下は表面が薄く大きく剥落している。内面には指圧痕が残っている。180は、少し肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面には縄文原体端による押圧がみられる。181・182は、少し肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面には縄文がみられる。183は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面、口唇部直下に枝回転文が施されている。内面には指圧痕が残る。



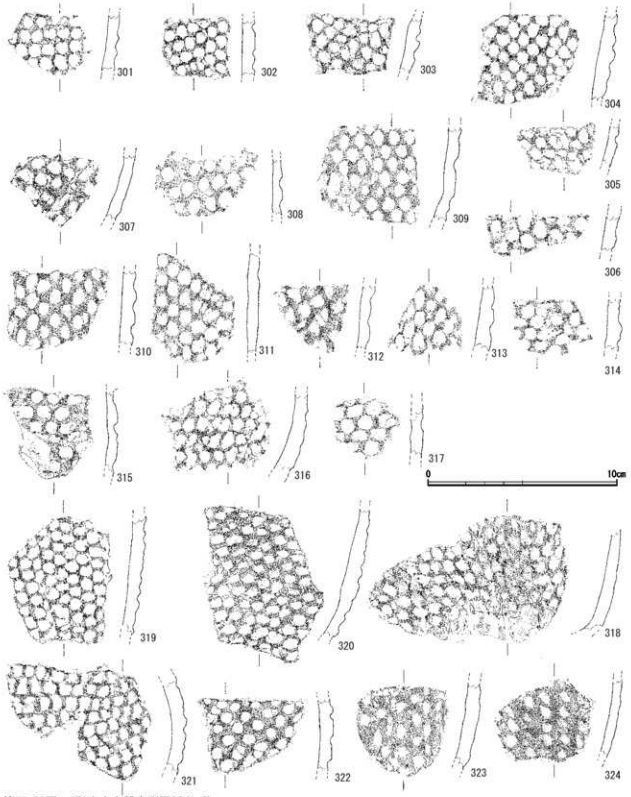
第Ⅳ-26図　SZ1出土土器実測図24(1:2)



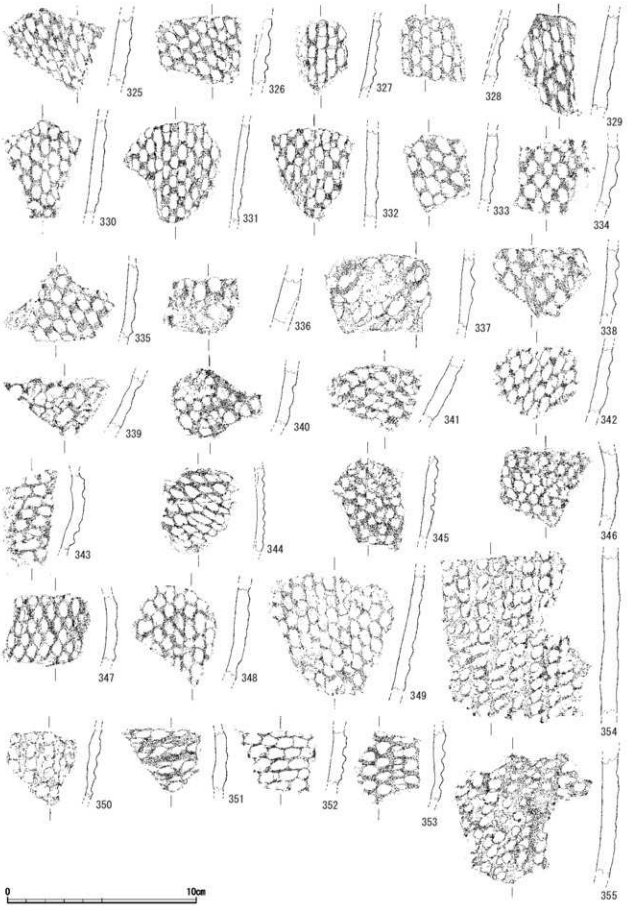
第Ⅳ-27図　SZ1出土土器実測図25(1:2)

184は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面に、羽状の縄文が施されている。これらは大鼻式期のものといえる。

185～239は体部片である。土器内面には指圧痕やナデがみられる。185・186は、土器外面に枝回転文が施されている。187～239は、土器外面に枝回転文が施されている。施文の重複が一部にみられる。209は一部縄文が施されているものか。240・241は、土器外面に枝回転文が施され、施文の重複がみられる尖底の底部片である。これらは大鼻式期のものと



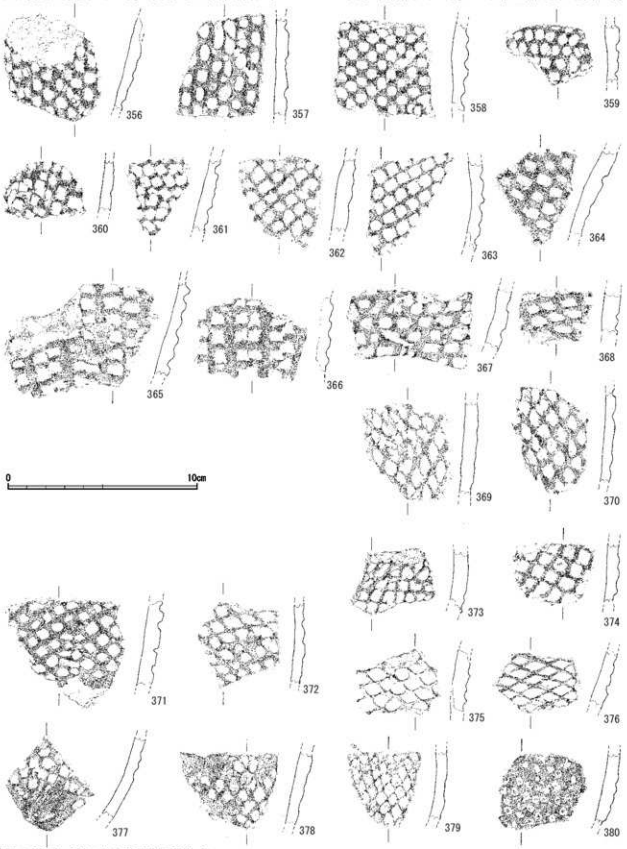
第Ⅳ-28図　SZ1出土土器実測図26(1:2)



第Ⅳ-29図　SZ1出土土器実測図27(1:2)

いえる。

242～251は口縁部片である。242～249は、口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面にネガティブな市松文が施されている。土器内面には施文がなされていない。242・243は、土器内面は薄く大きく剥落している。245は、土器外面の過半が薄

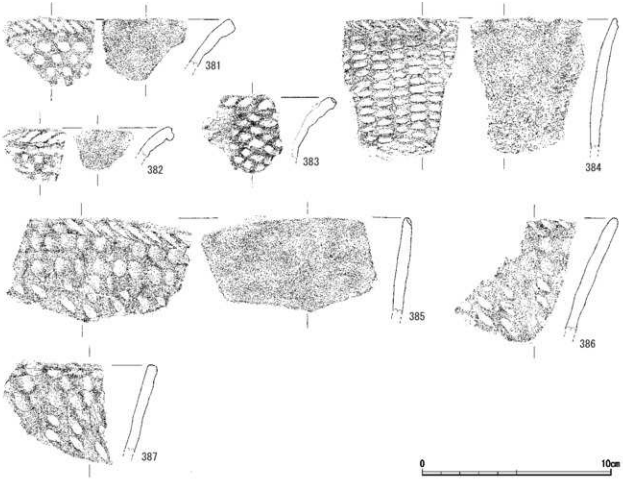


第Ⅳ-30図　SZ1出土土器実測図28(1:2)

く大きく剥落している。250は、口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面は無文帯がみられ、その下にネガティブな市松文が施されている。土器内面には施文がなされていない。251は、口唇部には縄文が施されている。直線的に外傾する口縁部外面にネガティブな市松文が施されているが、施文の重複がみられるのではないだろうか。土器内面には施文がなされていない。これらは大鼻式期のものといえる。

252～278は体部片である。252・253は、土器外面にネガティブな市松文が施されている。施文自体は深い。1つの文様が大振りなものである。器厚は厚めである。外面上部の施文部分が大きく薄く剥落している。254～274は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深い。1つの文様が大振りなものである。器厚は厚めである。269は、外面下部の施文部分が大きく薄く剥落している。275～277は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。278は、ネガティブな格子目文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。文様間の間隔があるもので市松文以外のものともいえそうだ。器厚は厚めである。これらは大鼻式期のものといえる。

279～285は口縁部片で、土器内面はきれいにナデられている。279は、口唇部に縄文が施され、外反する口縁部外面には上から縄文、刺突文がみられる。土器内面には施文がなされていない。280は、口唇部にはキザミが施されている。外反する口縁部外面にネガティブな市松文が施され、これらの下には刺突文の一部がみられる。281は、口唇部にキザミ、外反する口縁部外面に、上から山形文、疎らに楕円形のネガティブな押型文が施されている。282は、口唇部にはキザミが施されている。外反する口縁部外面にネガティブな市松文が施されている。283は、口唇部にはキザミが施されている。直線的に外傾す

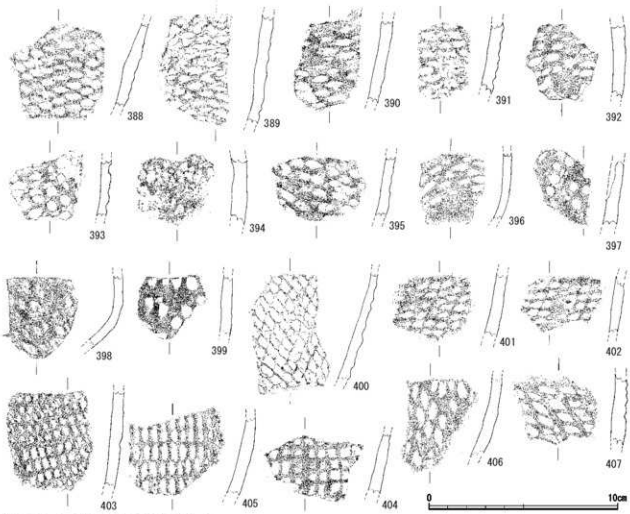


第Ⅳ-31図　SZ1出土土器実測図29(1:2)

る口縁部外面にネガティブな市松文が施され、頸部下部には刺突がみられる。284は、口唇部にはキザミが施されている。外傾する口縁部外面にネガティブな市松文が施されている。285は、口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部外面には浅い刺突が施されている。

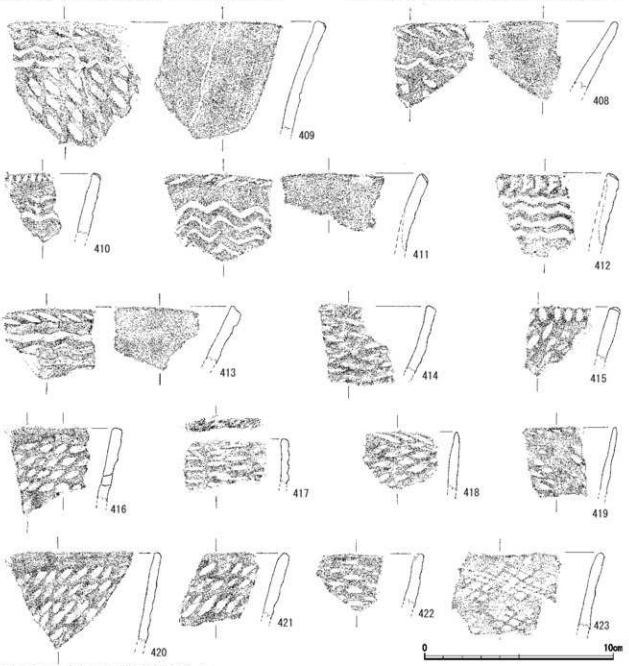
286～300は口縁部下、頸部から体部にかけての破片である。口縁部下端の屈曲部分である。286は、外反する口縁部以下の外面に縄文、縄文原体端の刺突が施されている。287・288は、外反する口縁部以下の外面に市松文、押型文原体による刺突文が施されている。289は、土器外面の上からネガティブな格子目文、刺突文が施されている。290・291は、土器外面に、上から押型文原体の刺突、市松文が施されている。292は、土器外面に、上から押型文原体端の刺突、山形文が施されている。口縁部下端の屈曲部分である。293は、土器外面に押型文原体端の刺突、市松文が施されている。294は、土器外面に押型文原体端の刺突文が施されている。295は、土器外面に市松文が施されたものである。２つの文様帯が近接したものであろうか。296は、土器外面に市松文が施されたものである。298～300は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深い。１つの文様が大振りなものである。器厚は厚めである。297は土器外面に、上から刺突文、市松文がみられる。これらは大川式期のものといえる。

301～380は体部片である。301は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深めで、１つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。302・303は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深めで、１つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。304は、ネガティブな格子目文が施されている。施文自体は深めで、１つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。



第Ⅳ-32図　SZ1出土土器実測図30(1:2)

305～321は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。318は、底部に近い部分である。322は、ネガティブな格子目文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。文様間の間隔がある。323・324は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。文様間の間隔がある。325～349、352・353は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。350は、ネガティブな格子目文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。351は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。施文が重複したものか。354・355は、刺突が施されている。押型文原体によるものであろうか。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。押型文の完成形を模倣したものか。356～361、363・364は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深めで、1

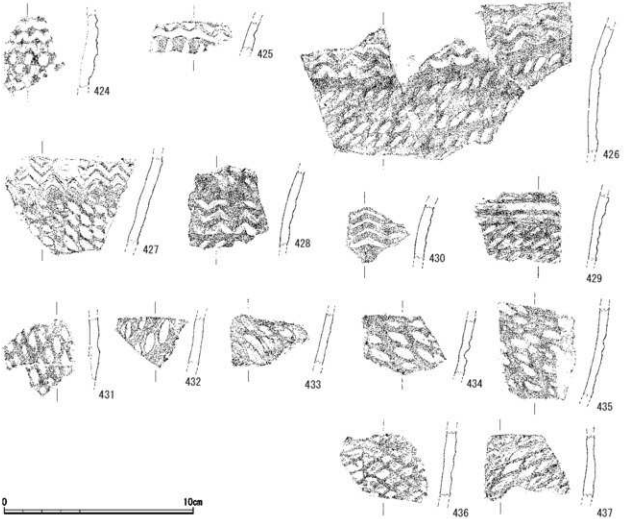


第Ⅳ-33図　SZ1出土土器実測図31(1:2)

つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。362は、ネガティブな格子目文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。365～379は、ネガティブな格子目文が施されている。377は底部に近い。380は、外面に細い植物の中空となった茎の部分で刺突したものであろうか。これらは大川式期のものといえる。

381～387は外反が緩やかになり、より直線的な様相を示す口縁部片である。381・382は、口唇部にはキザミが施されている。少し外反する口縁部外面にネガティブな市松文が施されている。383は、口唇部にはキザミが施されている。外反する口縁部外面にネガティブな格子目文が施されている。文様は斜傾気味となっている。384は、口唇部にキザミ、外反する口縁部外面にはネガティブな楕円状の格子目文が施されている。385～387は、口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部外面から頸部外面にかけて、上から浅い刺突文、疎らにネガティブな楕円文が施されている。387は、三重県射原垣内遺跡においても同様のものが出土している[12]。これらは大川式期のものといえる。

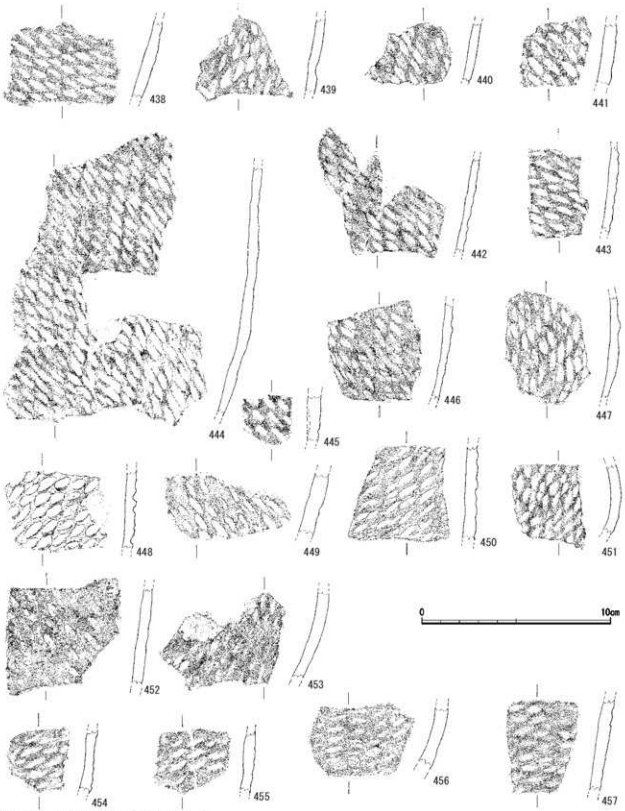
388～407は体部片で、器厚は薄い。388は、土器外面にネガティブな楕円に近い市松文が施されている。389・390は、土器外面にネガティブな楕円に近い市松文が施されている。施文が重複したものか。391は、土器外面に楕円状のネガティブな押型文が施されている。392～399は、土器外面に楕円状のネガティブな押型文が施されている。施文が重複したものか。400～407は、土器外面にネガティブなひとつの文様が小さい格子目文が施されている。405は楕円状になっている。これらは大川式期のものといえる。



第Ⅳ-34図　SZ1出土土器実測図32(1:2)

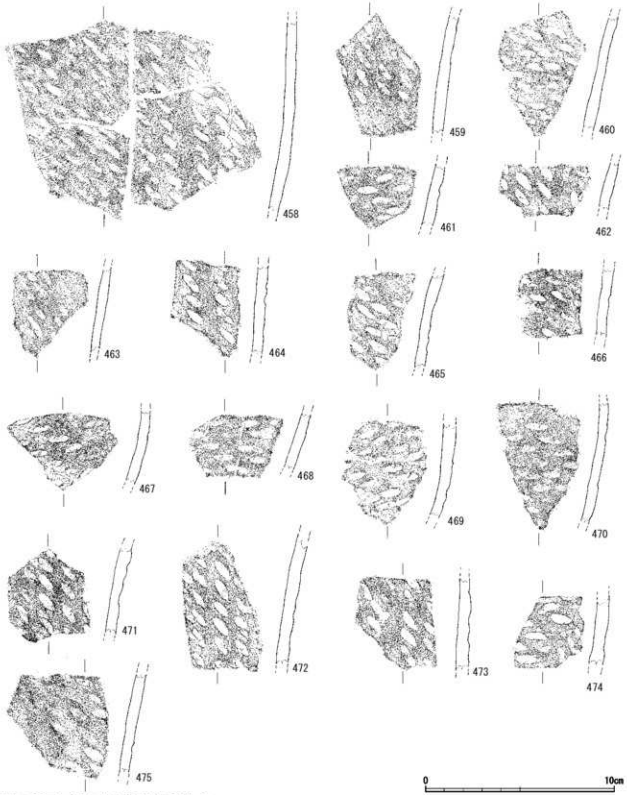
408～423は口縁部片である。器厚は薄くなる。408～413は口唇部にキザミ、少し外傾する口縁部外面に、上から山形文、疎らにネガティブな楕円文が施されている。414は、直線的に外傾する口縁部外面に、ネガティブな細い楕円文が施されている。415は口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部外面に、ネガティブな細い楕円文が施されている。

416・420・421は直線的に外傾する口縁部外面に、



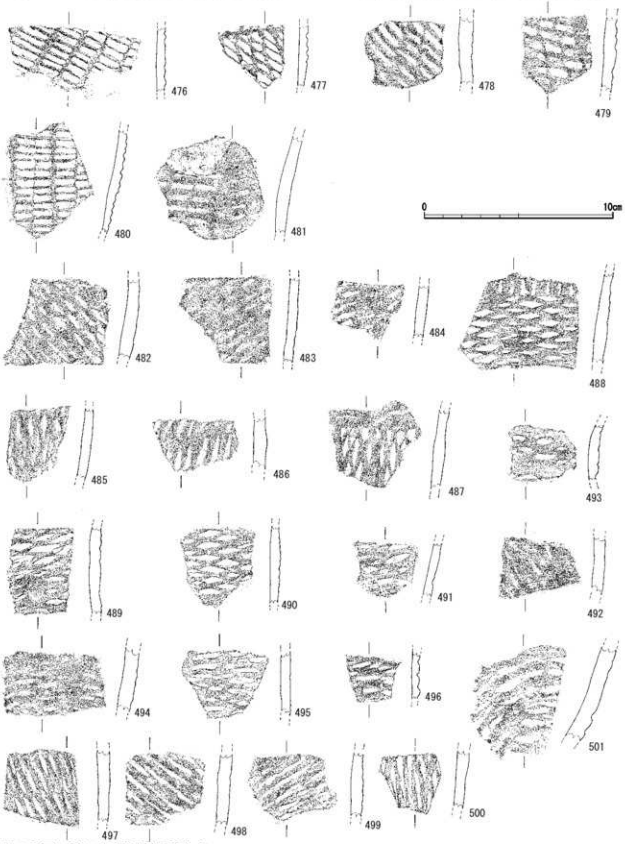
第Ⅳ-35図　SZ1出土土器実測図33(1:2)

少し硬らに斜傾したネガティブな楕円文が施されている。417・418は口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部外面に、ネガティブな横に細長い楕円文が施されている。419は口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部外面に、硬らなネガティブな楕円文が施されている。422は、直線的に外傾する口縁部外面に、ネガティブな横に細長い楕円文が施されている。423は直線的に外傾する口縁部外面に、格子目文が施されている。文様は斜傾化している。これらは神宮寺式期のものといえる。



第Ⅳ-36図　SZ1出土土器実測図34(1:2)

424～457は体部片である。器厚は薄めである。424は、土器外面には上から山形文、市松文が施されている。425～428は土器外面には上から山形文、斜傾する楕円文が施されている。429は、頸部外面には横位の直線文、以下斜傾した楕円文が施されている。430は、土器外面にネガティブな山形文が施された



第Ⅳ-37図　SZ1出土土器実測図35(1:2)

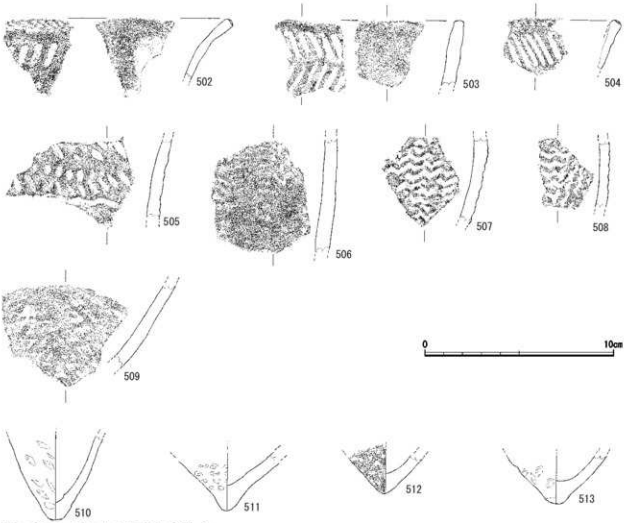
破片である。文様の間隔は狭い。431～435は、土器外面にネガティブな楕円文が施されている。文様自体は、浅く施文される。文様の間隔が疎らな状況である。436・437は、土器外面に格子目文が施されている。文様は斜傾している。438～451は、土器外面にネガティブな楕円文が施されている。文様の間隔も狭いものである。斜格子に近いものである。452・453は、土器外面にネガティブな楕円文が施されている。浅く施文されている。454～457は、土器外面にネガティブな少し細長い楕円文が施されている。浅く施文されている。これらは神宮寺式期のものといえる。

458～501は、体部片であり、一部は器厚が薄い。458～475は土器外面にネガティブなより細長い楕円文が施されている。文様自体は、浅く施文される。文様の間隔が疎らな状況である。これらは神宮寺式期のものといえる。

476～481は土器外面にネガティブなより細長い格子目文が施されている。文様の間隔は狭くなっている。482～491は、土器外面に細長い格子目文が施されている。浅く施文されている。492～501は土器外面に細長い直線状の押型文が施されている。格子目文の一種か。浅く施文されている。これらは神宮寺式期のものといえる。

502～504は口縁部片である。502は土器外面に長い楕円文が施されている。口唇部にキザミがみられる。503・504は土器外面に長い楕円文が施されている。長い楕円文が矢羽根状になっている。これらは神並上層式期のものといえる。

505～509は体部片である。505は土器外面に山形文、斜傾した楕円文が矢羽根状に施されている。施文は浅い。506～509は土器外面にネガティブな細かな山形文が施されている。文様間の間隔は狭い。507は静岡県若宮遺跡に類例がみられる[19]。これらは神並上層式期のものといえる。



第Ⅳ-38図　SZ1出土土器実測図36(1:2)

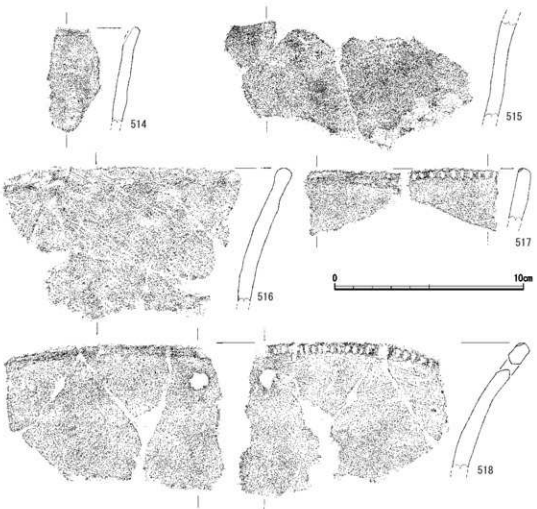
510～513は尖底となっている底部片である。文様が判然としない。押型文土器期の範疇といえよう。

514は、無文様の口縁部片である。515は、無文様の体部片である。縄文を回転施文後にナデ消し、平滑にしたものか。516は、無文様の口縁部片である。縄文を回転施文後ナデ消し平滑にしたものか。なお、土器外面には細い条線状のものがみられる。517は、無文様の口縁部片である。口唇部内側にキザミが施されている。518は、無文様の口縁部片である。縄文を回転施文後ナデ消し平滑にしたものか。口唇部内側にキザミが施されている。焼成後の穿孔が１ケ所確認できる。これらは、大鼻式期や大川式期においてあまり類例がない。ここでは、押型文土器期に位置づけておく。

519は、土器外面にポジティブな市松文が施されている体部片である。器厚が非常に厚い。520は、土器外面にポジティブな市松文が施されている体部片である。器厚が非常に厚い。521は、土器外面にポジティブな市松文が施されている体部片である。器厚が非常に厚い。522は、土器外面にポジティブな市松文が施されている体部片である。器厚が非常に厚い。523は、土器外面にポジティブな市松文が施されている体部片である。器厚が非常に厚い。524は、土器外面にポジティブな市松文が施されている体部片である。器厚が非常に厚い。525～527は、土器外面に細い直線の網目状文が施されている体部片である。器厚が非常に厚い。528は、丸底の底部片である。木葉痕が残る。529は、丸底の底部片である。文様等は確認できない。これらは概ね高山寺式[10]併行のものと思われる。

排土出土遺物

530は、芯棒を入れた痕が残る土製品である。土

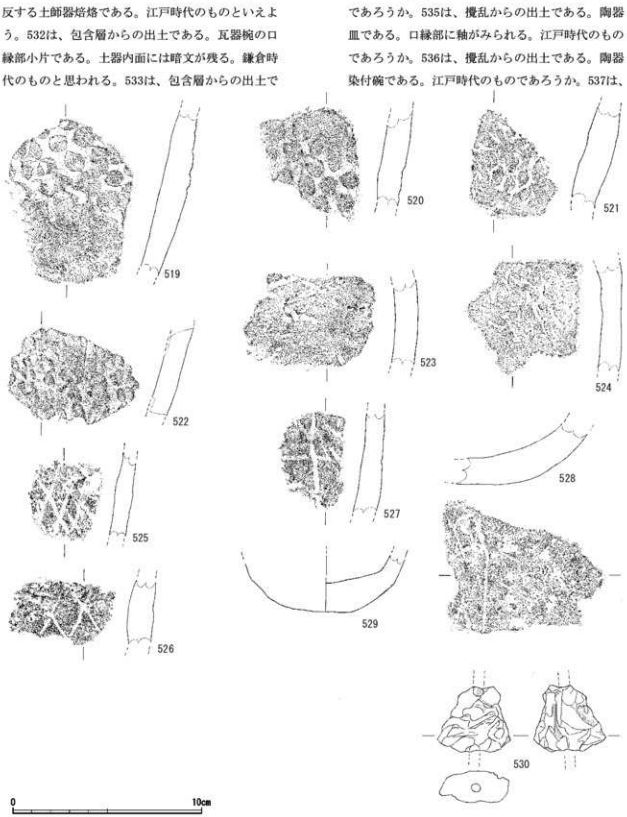


第Ⅳ-39図　SZ1出土土器実測図37(1:2)

偶の可能性もある。押型文期のものであろうか。

(2) 中世以降

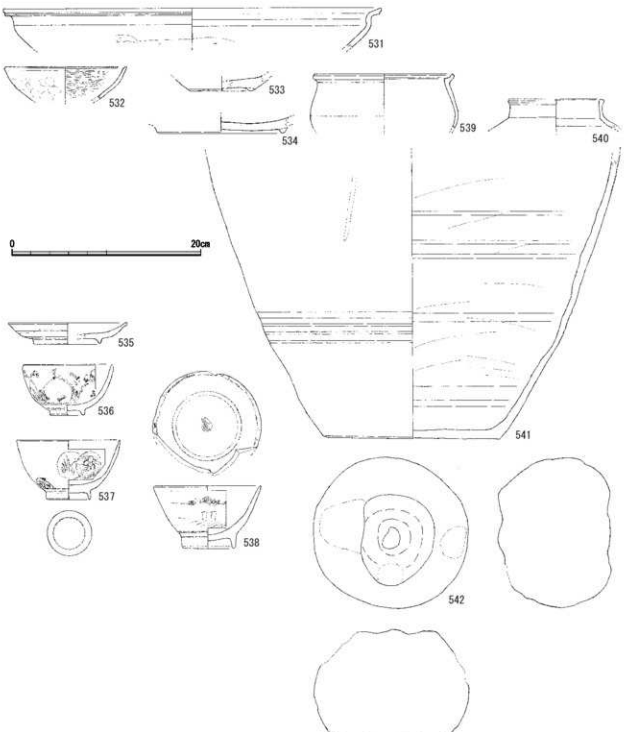
当該期の包含層、攪乱、表採を一括して報告する。531は、攪乱からの出土である。口縁部が大きく外反する土師器焙烙である。江戸時代のものといえよう。532は、包含層からの出土である。瓦器椀の口縁部小片である。土器内面には暗文が残る。鎌倉時代のものと思われる。533は、包含層からの出土である。陶器椀の底部片である。低い貼り付け高台が残る。いわゆる山茶椀である。鎌倉時代のものであろう。534は、攪乱からの出土である。陶器鉢の底部片である。貼り付け高台が残る。江戸時代のものであろうか。535は、攪乱からの出土である。陶器皿である。口縁部に釉がみられる。江戸時代のものであろうか。536は、攪乱からの出土である。陶器染付碗である。江戸時代のものであろうか。537は、



第Ⅳ-40図　SZ1出土土器実測図38及び排土出土遺物実測図(1:2)

攪乱からの出土である。磁器染付碗である。江戸時代のものであろうか。538は、磁器染付碗である。江戸時代のものであろうか。539は、包含層からの出土である。陶器鍋の口縁部片である。江戸時代のものであろうか。540は、攪乱からの出土である。陶器壺か。541は、施釉陶器甕の体部から底部にかけたものである。江戸時代のものであろうか。542は、表採資料である。五輪塔の水輪部分で一部表面が欠損している。戦国期以降か。

（小濱 学）



第Ⅳ-41図　包含層及び攪乱出土遺物実測図(1:4)

2　石器・石製品

(1)石器

石器は土器と同様、遺構からの出土はなく、二次堆積であるSZ1から出土したものである。埋土の篩掛けは行っていない。出土総数は173点である。器種別内訳[11]は、尖頭器２点、石鏃29点、石鏃未製品８点、石錐３点、削器22点、二次加工痕有剥片(RF)12点、使用痕有剥片(UF)16点、楔形石器38点、石核２点、打製石斧１点、礫核石器(礫器)７点、礫素材の削器２点、礫素材の楔形石器１点、磨石21点、敲石４点、石皿３点、台石２点である。この他に、小型剥片や砕片も多数出土した。

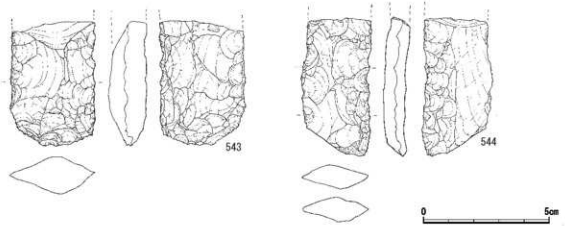
a 尖頭器(543・544)

２点出土した。543は尖頭器の中央部から基部とみられ先端部を欠失する。平面形は両側縁が直線的でほぼ平行、基部は丸みを帯びるものの窄まらない。折損面の形状から刺突具と推定し本器種とした。残存長4.9cmで大半を欠失するが、完形であれば長大なものと推測する。剥離が深く両面に施され、断面は菱形で厚い。階段状剥離が多く残り、調整加工は全体的に粗い。544は中央部のみ残存し、先端部基部ともに欠失する。平面形は左右非対称で一方の側縁がほぼ直線状であるのに対し、もう一方は緩やかな弧状を呈する。また、両面に剥離が深く施され、菱形の断面となる。腹面の片側は節理面を残し未調整であることから尖頭器の未製品と考えられる。いずれも押型文前半期の範疇として捉える。２点ともにサヌカイト製である。

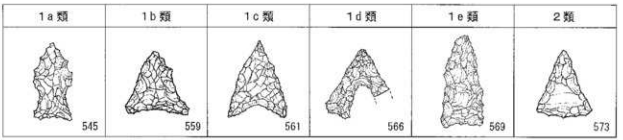
b 石鏃(545～581)

未製品も含めた37点が出土し、すべて図示した。以下のとおりに分類する。凹基無茎式を1類として、主に側縁の形態に注目しa～eと細分した[12]。平基無茎式を２類とした。

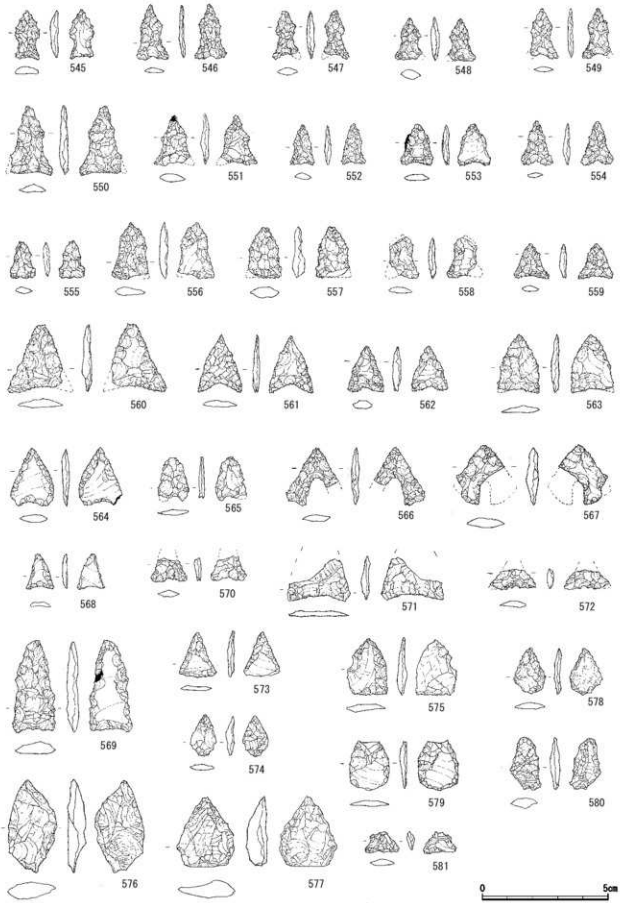
1a類(545～558)　側縁を凹線状に凹ませ五角形となるもの。いわゆる「五角形鏃」や「魚形鏃」などと呼称され早期前半の大鼻式・大川式期に特有な形状のもの。14点出土した。脚幅が辺縁上部屈折点の幅より狭いものは545のみで、その他は脚幅の方が広



第Ⅳ-42図　SZ1出土石器実測図1(2:3)



第Ⅳ-43図　SZ1出土石鏃分類図



第Ⅳ-44図　SZ1出土石器実測図2(2:3)

い。側縁の凹みが強いものは545～551で、弱いものは552～557と個体差がみられる。また、基部の抉りは概して浅い。558は先端部と片脚部を欠失しているため全体形が明確ではないが本類と考えた。546や547のように剥離調整が深く施され、中央に稜線をもつものが基本となるが、545や553、558のように一次剥離面を残し浅い剥離調整のものもある。すべてサヌカイト製である。

1b類(559・560)　側縁が内側に浅く彎曲するもの。２点出土した。２点ともほぼ正三角形で基部の抉りが浅く脚部が尖り、草創期から大川式期に盛行する三角鏃に近しい形状である。560は全長2.7cmと比較的大きく腹面に一次剥離面を残す。いずれもサヌカイト製である。

1c類(561～565)　側縁が外側に彎曲するもの。５点出土した。側縁の彎曲や基部の抉りの度合いにより脚部の形状が異なる。基部の抉りが比較的深い561は脚部が細く尖るのに対して、基部の抉りが浅い562や563は脚部が尖るが太い。また、564の側縁は脚部付近で彎曲の度合いが大きいため脚部が丸い。565は先端部や脚部の欠失により平面形が不明確である。561・563は腹面に、562・564は両面に一次剥離面を残す。すべてサヌカイト製である。

1d類(566・567)　側縁は直線的で、基部の中央のみが深く抉られ、幅のある角ばった脚部となるもの。いわゆる「銀形鏃」と呼称されるもの。２点出土した。566は全長の約半分が脚部となる長脚で、丁寧な剥離調整が施されている。567は破線復元で示すような脚部と推測し、566よりも太い脚部となろう。いずれもサヌカイト製である。

1e類(568・569)　側縁が左右非対称のもの。２点出土した。569は全長3.7cmを測り、石鏃の中では最長となる。腹面は一次剥離面を大きく残し未製品の可能性もある。568は両面に一次剥離面を残す。いずれもサヌカイト製である。

その他(570～572)　凹基無茎式であるが、大半を欠失し全形が不明なもの。３点出土し、すべてサヌカイト製である。

2類(573)　平基無茎式のもの。１点出土した。平面は左右対称で整い、基部は若干外側に彎曲するが、平基の範疇とした。両面に一次剥離面を残し、未製品の可能性がある。サヌカイト製である。

石鏃未製品(574～581)　剥片に二次調整が施されたものの内、製品には至らないが石鏃と推定するものを未製品とした。８点出土した。575や578・579は一次剥離面を多く残し薄い。576は先端部が尖るものの調整は不十分で、基部の作出がなく厚い。577は先端部が左右対称であるものの厚さが均一ではなく、基部の調整とともに不十分である。577はチャート製で、それ以外はサヌカイト製である。

c　石錐(582～584)

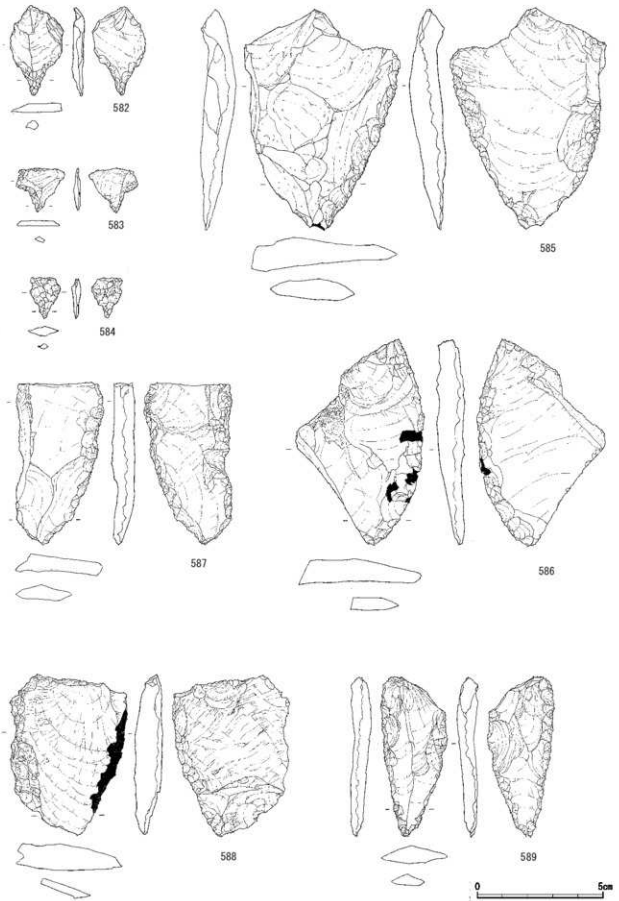
３点出土し、すべて図示した。582や583は素材剥片を横位に用いられている。582は刃部を丁寧な両面調整により作出し、剥片の大半をつまみ部として残している。石材は香川県金山産のサヌカイトとみられる。583は薄い剥片を素材とするもので、尖る側縁をそのまま利用し僅かな調整により刃部を作出している。584は剥片の両面全体に調整が施され、刃部はほぼ左右対称形となる。石鏃の可能性があるが、整う刃部の形状から石錐と考えた。583や584はサヌカイト製で二上山産のものとみられる。

d　削器(585～606)

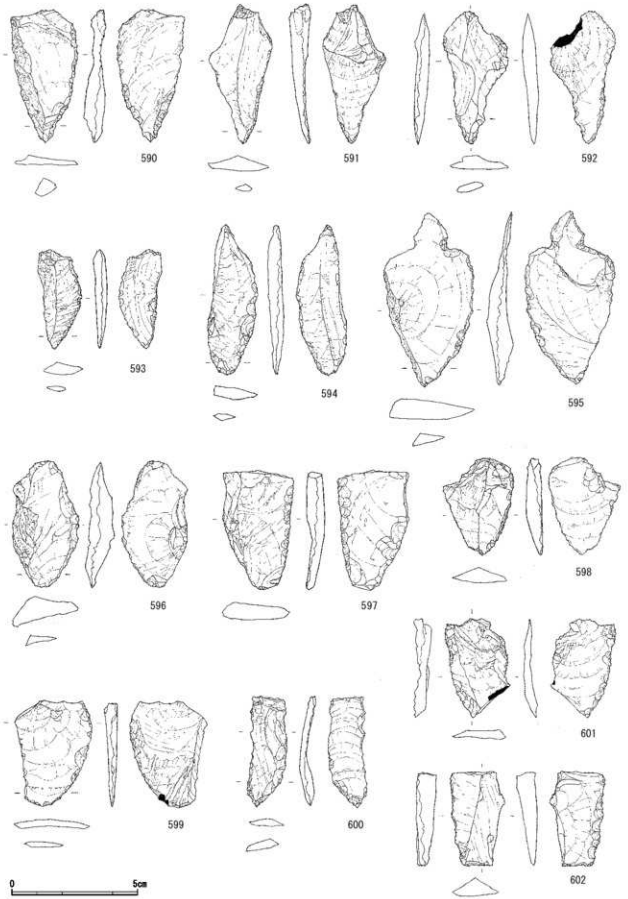
22点出土し、すべて図示した。素材剥片の厚いものや薄いものがあり、用途は全て同じとは言い切れないが、連続する剥離調整により長さのある刃部をもつことから削器の範疇としてとらえた。以下のとおりに分類する。

1類(585～588)　素材剥片が厚く、刃部の角度が比較的急なもの。585は最も大型の剥片が用いられたもので、片側縁に両面からの剥離調整が施されて刃部を形成している。586・588は自然面打面の剥片を素材とし、586は弧状の側縁に両面調整の刃部をもつ。588は片側縁に刃部がみられるものの表面は新欠失により不明な点が残る。587は片側縁に刃部をもち、両面からの丁寧な剥離調整が施される。また、上位両側縁に潰れた剥離がみられ、楔形石器を素材とした可能性がある。

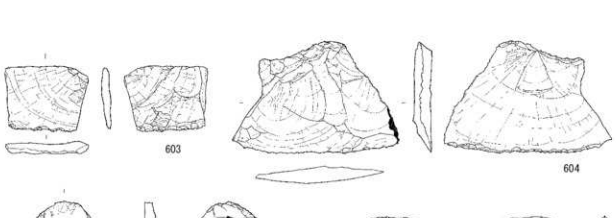
2類(589～600)　素材剥片が薄く平面形は概ね細長く、側縁は窄まり交点が尖るもの。刃部の角度は比較的緩やかであるため鋭く、剥離調整は微細なものや極微細なものがある。その中で589～594の６点はドリルとしての機能も有する可能性がある。589は



第Ⅳ-45図　SZ1出土石器実測図3(2:3)



第Ⅳ-46図　SZ1出土石器実測図4(2:3)



第Ⅳ-47図　SZ1出土石器実測図5(2:3)

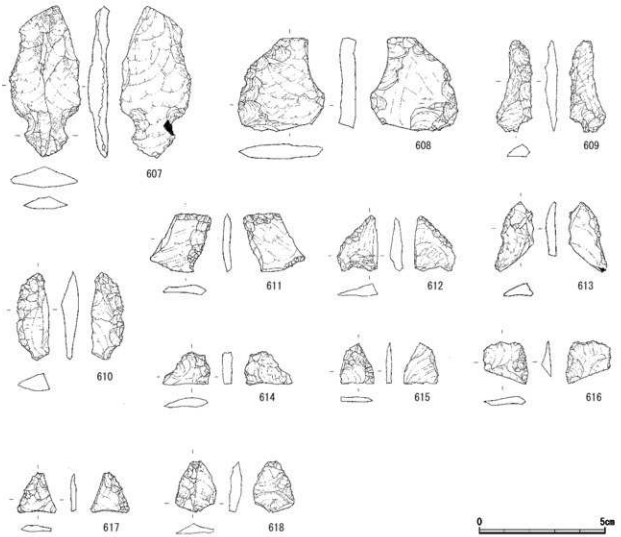
縦に細長い剥片を素材とし、両側縁に両面調整による刃部をもつ。尖る下端部がドリルの機能部としての可能性がある。590は自然面打面の剥片を素材とし、片側縁に連続した微細な剥離調整による刃部をもつ。また、下端部は意図的に尖らせたような剥離調整があるため、ドリルの機能部の可能性がある。591は自然面打面の縦長剥片を素材とし、片側縁に極微細な剥離調整による刃部をもつ。また、下端部はドリルとして使用可能な形状である。592も591と形状が類似し削器とドリルの併用の可能性がある。593は本器種では最小の横長剥片を素材とし、片面からの剥離調整による刃部を両側縁にもつ。また、下端部が尖る形状である。594は片側縁に弧状の刃部をもつ。裏面は微細な剥離調整が連続するが、表面は硬らである。また、上端部が尖る剥片を素材としていてドリルとして使用されたような摩滅が認められる。595は自然面打面の横長剥片を素材とし、薄い片側縁に両面からの微細な剥離調整による弧状の刃部をもつ。上部のつまみ状に見える部位周辺にも二次加工が施されているが、それを意図的に作出しているかは不明である。596は自然面打面の横長剥片を素材とし、腹面側から背面側に向かって剥離調整が施され、片面調整の刃部をもつ。597は全体的に風化が進み、剥離調整が不鮮明であるが、片側縁に両面からの剥離調整による刃部をもつ。また、刃部と反対側の側縁に階段状の剥離が認められ上面が両極打法による剪断面となり、楔形石器を素材としている。598・599は片側縁に極微細な片面調整の刃部をもつ。600は側縁に階段状剥離が認められ、楔形石器を素材とする。

3類(601～603)　楔形石器を素材とし、平面形は不定形および、四角形のもの。601・602は片側縁に背面からの剥離調整による片面調整の刃部をもつ。603は自然面打面の剥片を素材とし、極微細な剥離調整による刃部をもつ。

4類(604～606)　その他、横長剥片等を素材とするもの。604は大型の横長剥片を素材とし、背面からの極微細な剥離調整による片面調整の刃部をもつ。605は背面に自然面を残し、腹面からの微細な剥離調整による片面調整の刃部をもつ。606は横長の剥片を素材とし、平面形はアーモンド形である。片面調整の刃部を背面では上部に、腹面では下部にそれぞれもち、表裏合わせると刃部がおよそ一周する個体である。22点すべてサヌカイト製である。

e　二次加工痕有剥片(RF)(607～618)

剥片素材の周縁に二次加工が施された石器のうち、定型的な器種として認識できないものを二次加工痕有剥片(RF)とした。12点出土し、すべて図示した。607は縦長剥片を素材とし、下部両側縁に概ね左右対称の抉りを施しつまみ状に作出している。また、片側縁には微細な剥離調整がみられ、削器とも考えられるが、つまみ状の部位を有する特異な形状であ



第Ⅳ-48図　SZ1出土石器実測図6(2:3)

り器種が特定できないことからRFとした。608は自然面打面の剥片を素材とし、側縁に粗い剥離が施される。小型の剥片である609～618は、片面および両面に剥離調整が施されるものの、部分的な範囲にとどまる。剥片の大きさや厚み、調整の様子から、石鏃の製作を意図していたものが含まれると考えられよう。全てサヌカイト製である。

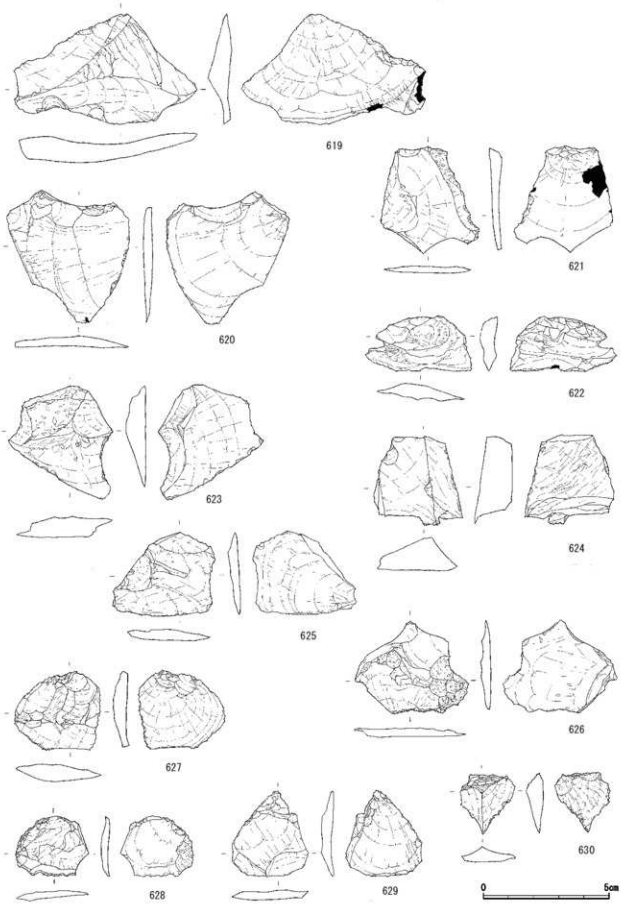
f　使用痕有剥片(UF)(619～634)

鋭い縁辺をもつ剥片が、二次加工を施されることなくそのまま使用された結果、刃こぼれをおこしたと考えられるものを使用痕有剥片(UF)とした。16点出土し、すべて図示した。素材剥片の形状に定型はなく、側縁や末端側など鋭い縁辺を選び使用している。619は最も大きな剥片を素材とし、横長剥片の片側縁に微細な剥離痕跡がみられる。623・626・628・633は自然面を残す剥片を素材としていて、623は二側縁に微細な剥離痕跡を有する。また633は剥片端部の形状が細長く尖りドリルとして使用された様な摩滅が認められる。すべてサヌカイト製である。

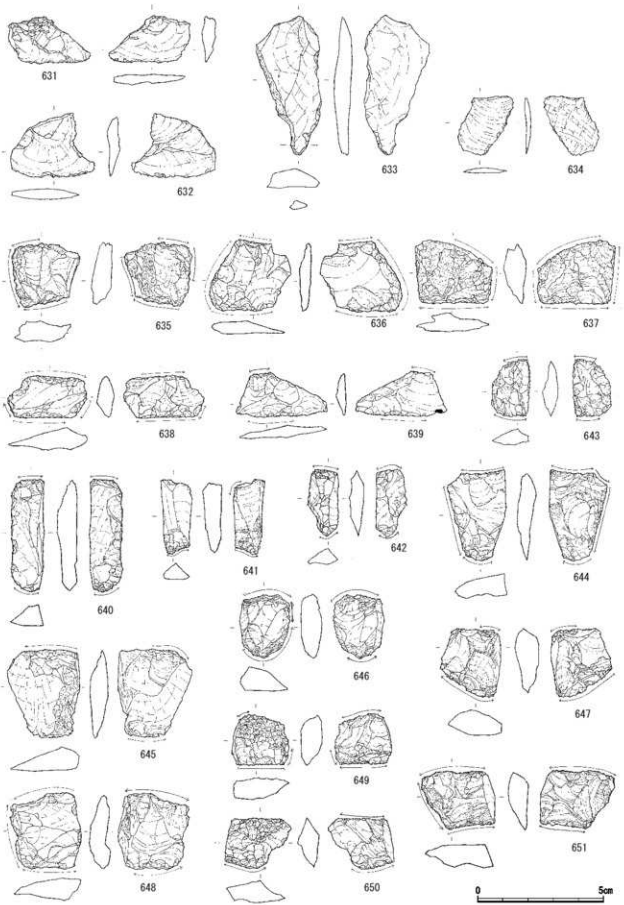
g　楔形石器(635～672)

38点出土し、すべて図示した。少なくとも対向する側縁2辺に両極打法による顕著な潰れ(階段状の剥離)をもつものを本器種とした[17]。出土した剥片石器の中で最も多くの割合を示し、以下のとおりに分類する。

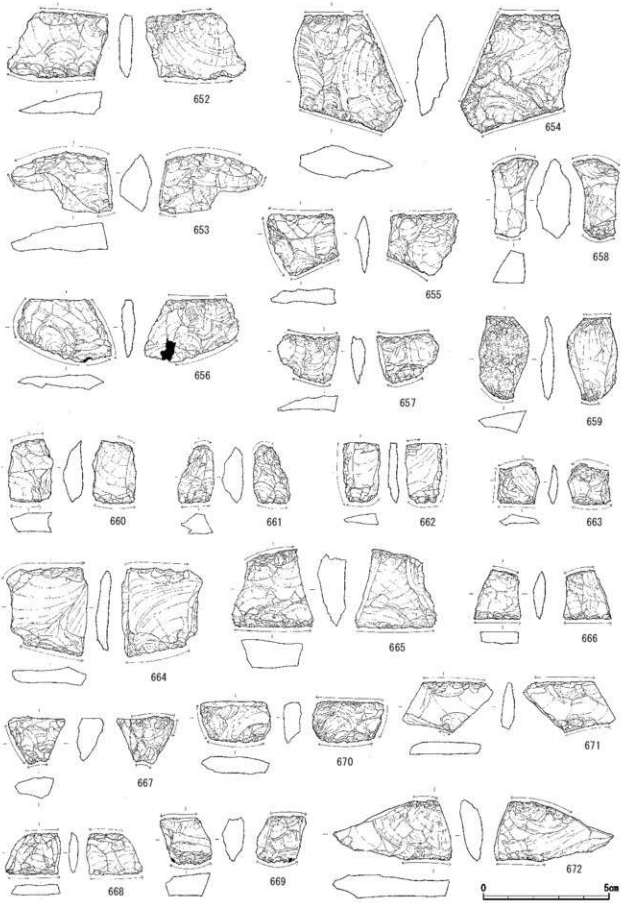
1類(635～639)　剪断面が認められないもの。5点出土した。635・636はおよそ長さと幅が同じで、637～639は横に長い。635・637は自然面を残す剥片を素材とし、4辺に潰れをもつ。638・639は上下に対向する側縁が平行し、潰れをもつ。すべてサヌカイ



第Ⅳ-49図　SZ1出土石器実測図7(2:3)



第Ⅳ-50図　SZ1出土石器実測図8(2:3)



第Ⅳ-51図　SZ1出土石器実測図9(2:3)

ト製である。

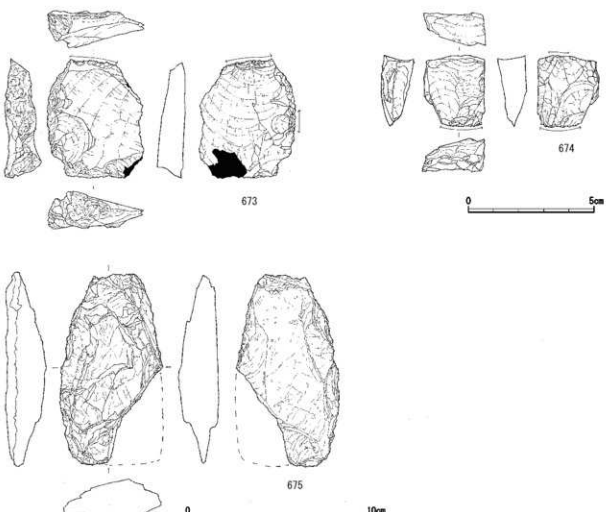
2類(640～657)　剪断面が1面認められるもの。18点出土した。640～647は縦に長く、648・649はおよそ正方形、650～657は横に長い。640・642・645・648・650・652・657は上下側縁に潰れをもち、645・650・652は自然面を僅かに残す。641は下側縁に潰れをもつが、対向する上側縁は欠失する。643・647は上下側縁に潰れをもち側縁は平行しない。644・646・649・651・653・655・656は上下側縁および、剪断面に対向する側縁にも潰れをもつ。649は自然面を僅かに残す。653の断面は厚くレンズ状であり、剪断面に対向する側縁は打撃によるためか大きく欠失する。654は最も大きいサイズを測り、3側縁に潰れをもちそれぞれが平行しない。すべてサヌカイト製である。

3類(658～671)　剪断面が2面認められるもの。14点出土した。剪断面が対向するもの(658～661・663～666・668・669・672)や、隣り合うもの(662・667・670・671)がある。平面形では658～662は縦に長く、663・664はおよそ正方形、665～668は台形、669は菱形、670・671は横に長い。剪断面が対向するもののうち658・659・661・665は部分的に自然面を残す。また、658や665は最終剥離面がネガティブな剪断面となり、石核の要素を持つ。663はチャート製でその他はサヌカイト製である。

4類(672)　剪断面が3面認められるもの。1点出土した。672の平面形は横に長く、左側に剪断面を2面持ち、略三角形を呈する。サヌカイト製である。

h 石核(673・674)

2点出土し、すべて図示した。2点ともに、両極打法により剥片が取られた残核である。673は自然面を有し、上端に潰れをもつ。また、打面については、背面(表面)では右側にあるのに対して、腹面



第Ⅳ-52図　SZ1出土石器実測図10(2:3　＊675,1:2)

(裏面)では上側となり、表裏で90度転移している。674は上下端に潰れをもつ。右側面の風化の度合いが他の面より古く、二重風化(パティナ)とみられる。右側面の形成は旧石器頃に及ぶ可能性がある。いずれもサヌカイト製である。

i 剥片・砕片

剥片・砕片はおよそ数百点にもおよび多量に出土しているが図示できなかった。15点がチャート製の剥片で、その他はすべてサヌカイト製である。

j 打製石斧(675)

1点出土し、図示した。675は泥質片岩を石材とし、刃部の1/2ほどを欠失する。基部から刃部にかけて凸線状に膨らむ剥離調整を施し、裏面の調整は疎らで素材面を大きく残す。

k 礫核石器(礫器)(676～682)

7点出土し、すべて図示した。676は平面が略三角形の自然礫がそのまま使用されたと考えられ、頂点側が基部で底辺側が刃部と推定する。使用により刃部が大きく弾け潰れている。677は扁平な隅丸方形の自然礫を素材とし、下端に片面調整で凹状の刃部をもつ。678は素材の自然礫が剥離により大きく変形し、原形をとどめない。下端に片面調整で凹状の刃部をもつ。679は厚みのある自然礫を素材とし、表側から裏側への片面調整の刃部と、裏側から表側への片面調整の刃部の両方をもつ。両刃部の交点は尖るが意図したものかどうかは計れない。680・681は厚い自然礫の縁辺に片面調整の刃部をもち、刃部が器体のおよそ半分を占める。刃部の形成は少なくとも2回以上の剥離によるものと考えられ、刃部の縁辺が角度をもち山形に尖る形状になる。680と681は素材の規模や剥離調整が類似する。682は自然礫の縁辺に5つの片面調整の刃部をもち、刃部は器体のおよそ全範囲にわたる。素材礫の裏面は剥離により失われ、礫の表面のみが残る結果となる。すべて斑レイ岩製である[18]。

l 礫素材の削器(683・684)

2点出土し、すべて図示した。683・684は自然礫から剥離された剥片を素材とし、片側縁に刃部をもつ。683の刃部は片面調整によるもので、684の刃部は両面調整によるものである。すべて斑レイ岩製である。

m 礫素材の楔形石器(685)

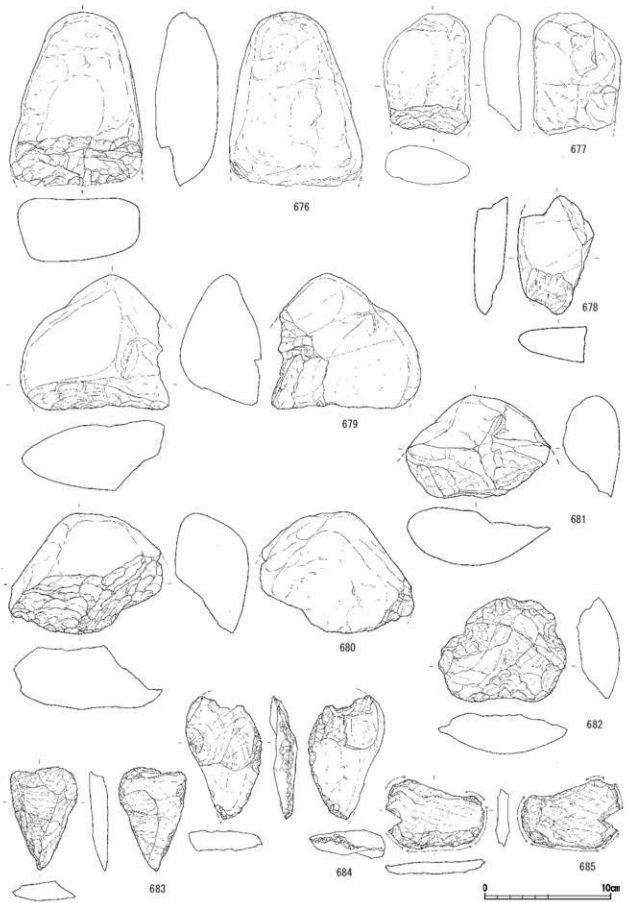
1点出土し、図示した。自然礫から剥離された剥片を素材とし、対向する上下の側縁に、階段状に剥離した潰れをもつ。左側縁の切れ込み状の剥離は意図的な加工ではないと思われる。斑レイ岩製である。

n 磨石(686～706)

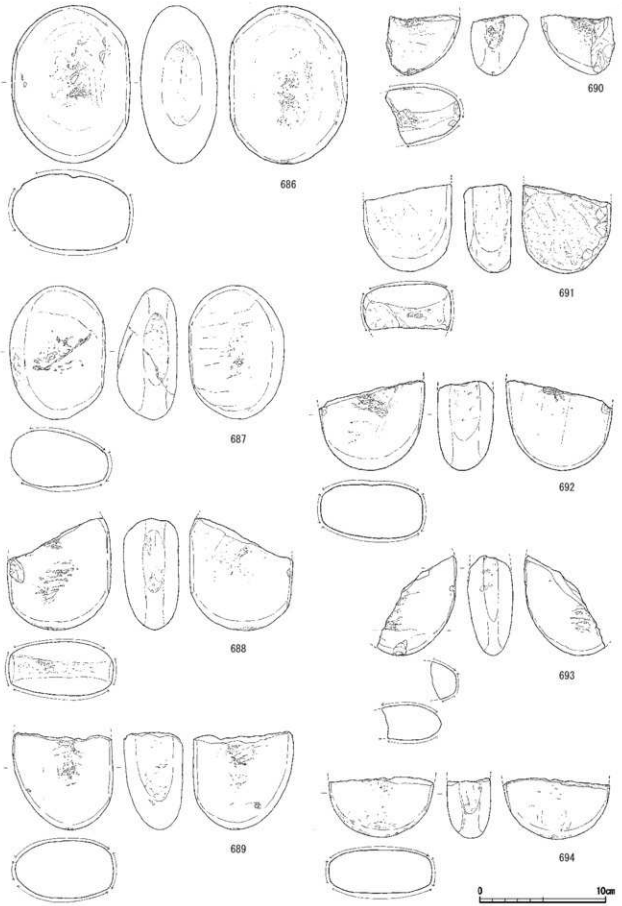
21点出土し、すべて図示した。比較的扁平で平面が楕円形の整った自然礫を使用し、素材の側縁に角ばった磨面が明瞭に形成され、早期前半にみられる「石鏃形」と称するものや、平面が円形や円に近い楕円形の自然礫を使用し、表面や側縁に磨痕が認められるものがある[19]。686～698が石鏃形である。686は表裏面および両側縁に磨痕が認められ、両側縁は稜を伴う磨面となる。完形であり典型的なものといえよう。また、表裏面中央には微細な敲打痕が確認できる。687は表裏面および片側面に磨痕が、各面中央に微細な敲打痕が認められる。完形である。688・689・692・694・695・698は両側縁に磨面をもち、表裏面を含め各面に磨痕が見られる。また、表裏面など複数個所に微細な敲打痕が認められる。698は扁平とはいえないものの対向する側縁の磨面が平行で整うことから石鏃形の範疇とした。690・691・693・696・697は対向する側縁の磨面や裏面等、大きく欠失するが各面に磨痕跡が認められることから、石鏃形と想定する。696は赤変し被熱の可能性がある。また表面には敲打痕が大きく残る。699・701は片側縁のみが磨面となる。700・702～705は表面または表裏面に磨痕が認められる。700は表面や下端側縁に敲打痕が大きくみられ敲石と併用する。また、702は表裏面中央に微細な敲打痕が集中する。705は丸い形状で裏面に敲打痕が大きく残る。706は表面の平滑な範囲に磨痕が認められる。素材は比較的大型な礫と推定でき、石皿の可能性もあろう。石材は、696・705は花崗岩、706は斑レイ岩、その他は砂岩である。

o 敲石(707～710)

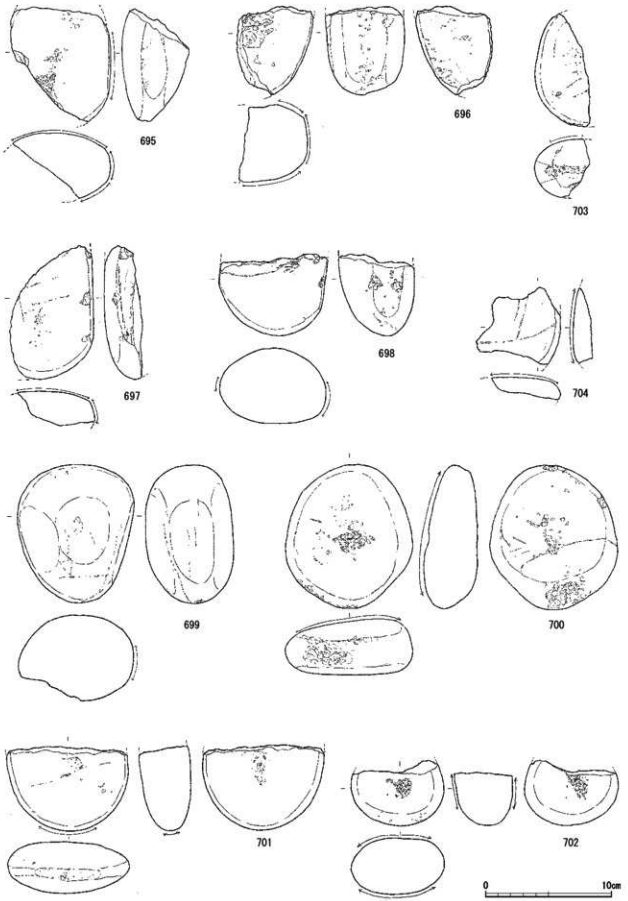
4点出土し、すべて図示した。磨痕がなく、敲打痕のみ明瞭に認められるものを敲石とした。素材となる自然礫の形状は棒状や不定形のものなど様々である。707は扁平な棒状の素材を使用し、表面中央よりやや上部に線状の敲打痕が横位に5～6本ほど



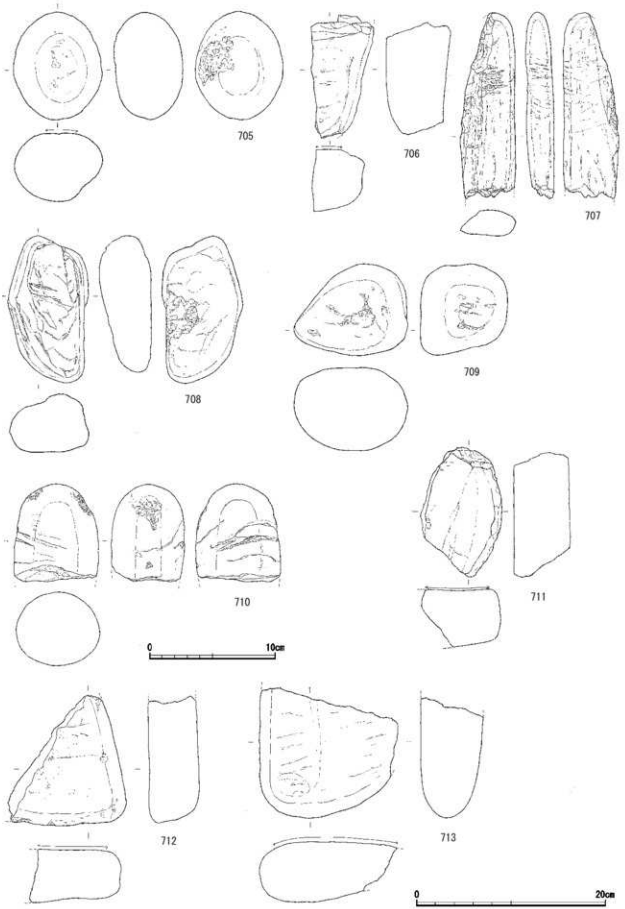
第Ⅳ-53図　SZ1出土石器実測図11(1:3)



第Ⅳ-54図　SZ1出土石器実測図12(1:3)



第Ⅳ-55図　SZ1出土石器実測図13(1:3)



第Ⅳ-56図　SZ1出土石器実測図14(1:3　＊711,712,713,1:4)

集中する。敲打痕の形状から、楔によるものと推測する。708は細長く不定形な礫を使用し、表面中央から上部にかけて、楔によると推測する線状の敲打痕が斜位に4～5本ほど認められる。また裏面中央左側には線状を含む敲打痕が集中する。709は拳大で厚みのある不定形な礫を使用し、表面および一側面に敲打痕が認められる。710は円柱状で先端部が丸い礫を使用し、先端部に2ヶ所、敲打痕が認められる。また、中央部には器体を半周するほどの線状の亀裂が認められる。敲打によるものかは不明である。石材は、707は緑泥片岩、708・709は斑レイ岩、710は花崗岩である。

p 石皿(711～713)

3点出土し、すべて図示した。磨石よりも大型の自然礫を使用し、磨面をもち、片手で持ち上げて作業をするよりは置いて作業する受け側のものを石皿とした。711・712は扁平な自然礫を使用し、表面には広範囲に及ぶ磨痕が認められ僅かに凹んでいる。713は平滑な表面に顕著な磨痕が認められる。礫の表面と裏面は平行ではなく右側に窄まる形状を呈する。石材はすべて斑レイ岩である。

q 台石(714・715)

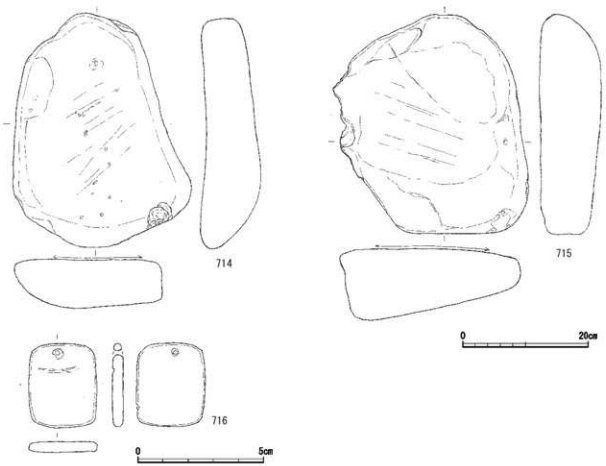
2点出土し、すべて図示した。石皿よりも大型の自然礫を使用し、磨面などの作業面をもち、地面に据え置くと推測するものを台石とした。714・715ともに扁平な礫を使用し、表面の広範囲に磨痕が認められる。714は表面中央が僅かに凹む。石材はすべて斑レイ岩である。

(2) 石製品

石製品は土器や石器と同様、SZ1から出土したものである。1点出土し、図示した。

石製品(垂飾)(716)

716は長さ3.3cm、幅2.7cm、厚さ0.4cmを測り、平面は隅丸方形で上下端および側縁は外側に僅かに膨



第Ⅳ-57図　SZ1出土石器実測図15及び石製品実測図(1:6　＊716,2:3)

らむ。上部中央やや左側に穿孔をもつ。孔は表裏からの穿つによるもので、径は外側が0.4cmで中心部は窄まり0.15cmを測る。穿孔の下には、長さ1.5cmほどで下側に弧状の線刻がみられる。石材は砂岩で、薄く割った剥片を使用したと考えられ、表面を平滑にしてさらに厚さを均一に整えている。平面は4隅を丸く加工した左右対称形であり、丁寧な作りである。石製品の規模や穿孔のある形状から、首などにぶら下げる装飾品、垂飾と推定する。

（中村法道）

註

1）関西縄文文化研究会三重例会(2022年11月20日開催)において、A～J類の10に分ける仮の土器分類・案を示した。その分類と例会での意見交換を参考に、整理を進めてきた。当報告において、Ⅰ～Ⅸ類に大別し、87に細分をした。これをもって正式なものとしたい。

2）以下の文献に詳細が述べられている。この文献より後年に、研究を深化させているが、本報告ではこの文献を基にして考察をしている。

山田 猛 1988 「押型文土器の型式学的再検討-三重県下の前半期を中心として」『三重県史研究4』三重県

あわせて、

矢野健一 2016 「第2部 第3章 前半期押型文土器の編年」『土器編年にみる西日本の縄文社会』同成社

も参考にしている。

3）以下の文献を基に報告を進めている。

矢野健一 2016 「第2部 第3章 前半期押型文土器の編年」『土器編年にみる西日本の縄文社会』同成社

4）註3） 文献を基に報告を進めている。

5）註3） 文献を基に報告を進めている。

6）以下の文献を基に報告を進めている。

矢野健一 2008 「押型文系土器(高山寺式・徳谷式)」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

7）滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会 1999 『粟津湖底遺跡自然流路(粟津湖底遺跡Ⅲ)』、三重県埋蔵文化財センター 1993 『研究紀要2』を参考とした。

8）松阪市教育委員会 1980『射原垣内遺跡発掘調査概報』と註3）文献を基にしている。

9）豊橋市美術・博物館 村上昇氏のご教示をえた。

10）以下の文献で確認をした。

山田 猛 2022 「阪倉遺跡 -縄文・弥生時代編- 』三重県埋蔵文化財センター

11）以下の文献を基に、報告を進めている。

宮崎朝雄 2008 「宝底回転縄文土器（宝谷上層系・表裏縄文系土器）」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

谷口康浩 2008 「多縄文系土器」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

12）立命館大学 矢野健一氏からご教示をえた。

13）富士宮市教育委員会 1983 『若宮遺跡 西富士道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書22』による。

14）註6） 文献と同じ。

15）石器器種の同定について、田部剛士氏にご教示を頂いた。

16）石鏃の分類については、以下の文献を参考にした。

奈良県立橿原考古学研究所『鶴山遺跡 －縄文時代早期遺跡の発掘調査報告書－』2006

17）楔形石器や後述する石核、礫素材の楔形石器の実測図において、階段状剥離の範囲を両端矢印線で示した。

18）礫石器および石製品の石材について、松田順一郎氏にご教示を頂いた。

19）磨石や後述する石皿や台石の実測図において、磨痕の範囲を両端矢印線で示した。

参考文献

坂下町教育委員会 1974『焼の湖遺跡調査報告書 岐阜県恵那郡坂下町』　＊刊行当時

松阪市教育委員会 1980『射原垣内遺跡発掘調査概報』

山添村教育委員会 1989『奈良県山辺郡山添村 大川遺跡 縄文時代早期遺跡の発掘調査報告書』

三重県埋蔵文化財センター 1990『西出遺跡・井之広遺跡』

立教学院三の原遺跡調査団 1991『静岡県伊東市 三の原遺跡』

二上山博物館 1992『よみがえる二上山の３つの石』

松澤 修「栗津遺跡の縄文早期の土器について」 1993『研究紀要２』三重県埋蔵文化財センター

矢野健一 1993「押型文土器の起源と変遷に関する新視点」『研究紀要２』三重県埋蔵文化財センター

山田 猛 1993 「大鼻式・大川式の再検討」『研究紀要２』三重県埋蔵文化財センター

三重県埋蔵文化財センター 1993『多気遺跡群発掘調査報告』

三重県埋蔵文化財センター 1994『大鼻遺跡 －本文編－』

宮崎朝雄・金子直行 1995「回転文様系土器群の研究 －表裏縄文系・撚糸文系・密谷上層系・押型文系土器群の関係－」『日本考古学 第２号』 日本考古学協会

上松町教育委員会・木曽郡町村会 1995『お宮の森裏遺跡 一般国道19号上松バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』

三重県埋蔵文化財センター 1998 『鴻ノ木遺跡（下層編）』

縄文時代文化研究会 1999 『縄文時代 10』

矢野健一 1999 「出土土器に関する考察」『栗津湖底遺跡自然流路（栗津湖底遺跡Ⅲ）』 滋賀県教育委員会・(財) 滋賀県文化財保護協会）

滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会 1999『栗津湖底遺跡自然流路(栗津湖底遺跡Ⅲ)』

三重県埋蔵文化財センター 2002『研究紀要 第11号 －特集 三重の縄文時代-』

奈良県立橿原考古学研究所 2002『桐山和田遺跡』

三重県 2005『三重県史 資料編 考古１』

奈良県教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所 2006『鶴山遺跡 －縄文時代早期遺跡の発掘調査報告書-』

原田昌幸 2008「燃糸文系土器」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

中島 宏 2008「押型文系土器(沢式・鵜沢式・細久保式土器)」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

兵頭 勲 2008「押型文系土器(貴島式土器)」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

三重県埋蔵文化財センター 2014 『野添大辻遺跡(第１次)発掘調査報告』

岡田憲一 2014「大鼻式成立覚書」『第10回東海縄文研究会 研究会 東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題 発表要旨集・研究論文集』 東海縄文研究会

守屋豊人 2014「大川式土器に見られる主要類型の展開とその理解」『第10回東海縄文研究会 研究会 東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題 発表要旨集・研究論文集』 東海縄文研究会

村上 昇 2014「愛知県を中心とする草創期末から早期前葉にかけての土器編年」『第10回東海縄文研究会 研究会 東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題』東海縄文研究会

山田猛 2014「大川式について」『第10回東海縄文研究会 研究会 東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題』東海縄文研究会

関西縄文文化研究会 2015『第16回関西縄文文化研究会研究集会 縄文研究と美術・縄文時代の装身具 発表要旨・資料集』

矢野健一 2016『上器編年にみる西日本の縄文社会』同成社

岡本東三 2017『縄紋時代早期 押型紋土器広域編年研究』 雄山閣

中村法道 2022「Ⅰ 多気北畠氏遺跡第39次調査の概要」『関西縄文研究会三重県例会2022資料』

小濱学 2022『Ⅱ 多気北畠氏遺跡第39次調査の縄文土器』『関西縄文研究会三重県例会2022資料』

田部剛士 2022「Ⅲ 大鼻式前後の石器群」『関西縄文研究会三重県例会2022資料』

山田猛 2023『平等と定住の縄文社会』同成社

縄文時代文化研究会 2023『縄文時代 34』

報告番号	実測番号	大中地区	小地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	外、頸部	内、頸部	外、体部	内、体部	外、底部	内、底部	推存、口径(cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	055 01	G21	G20	S23	I a1	縄文土器	深鉢	縄文LR押	縄文LR	縄文LR	撚糸L	撚糸L　ナデ	撚糸L	撚糸L　ナデ				中小砂礫、微砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR6/3 灰褐 7.5YR5/2	
2	088 05	G21	F20	S23	I a2	縄文土器	深鉢	縄文RL押	縄文RL	縄文RL	撚糸L	ナデ						中小砂礫、砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR7/3, 7.5YR5/6, 黒褐 3/2, 7.5YR3/2	
3	089 02	G21	F20	S23	I a2	縄文土器	深鉢	縄文LR押	縄文LR	縄文RL	撚糸L	撚糸L　ナデ	撚糸L	撚糸L　ナデ				中小砂礫、砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR6/3	
4	088 04	G21	F19	S23	I a3	縄文土器	深鉢	縄文LR押	撚糸L	縄文LR	撚糸L	撚糸L　ナデ	撚糸L	撚糸L　ナデ				中小粗、砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR6/3 灰黄褐 10YR5/2	
5	045 06	G21	F19	S23	I a3	縄文土器	深鉢	縄文LR押	撚糸L	撚糸L								密　微砂粒含	良	黒褐 10YR3/2 にぶい橙 7.5YR7/4	
6	001 02	G21	G20	S23	I b1	縄文土器	深鉢	撚糸無節押	撚糸無節押	撚糸無節押	撚糸L	撚糸L　ナデ	撚糸LR	撚糸L　ナデ				中小密	良	にぶい橙 7.5YR6/3	
7	011 01	G21	G20	S23	I b2	縄文土器	深鉢	撚糸無節押引	撚糸無節押引	撚糸無節押引	撚糸無節押引	撚糸L　ナデ	調整	撚糸L　ナデ				密、砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR6/3	
8	011 02	G21	G20	S23	I b2	縄文土器	深鉢	撚糸無節押引	撚糸無節押引	撚糸無節押引	撚糸無節押引	撚糸無節押引						密、砂粒含	良	灰褐 7.5YR5/2	
9	016 01	G21	F19	S23	I b2	縄文土器	深鉢		撚糸L	撚糸L押	撚糸L	撚糸L　ナデ	調整	撚糸L　ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR6/3 灰黄橙 10YR4/2	
10	021 06	G21	G20	S23	I c1	縄文土器	深鉢	ナデ	撚糸L	ナデ	撚糸L	調整						中小密	良	にぶい橙 7.5YR6/4	
11	031 02	G21	F20	S23	I c1	縄文土器	深鉢	ナデ	撚糸L	ナデ	撚糸L	ナデ						密、砂粒含	良	灰黄褐 10YR5/2	
12	033 03	G21	G20	S23	I d1	縄文土器	深鉢				縄文LR	調整	撚糸R	調整				中小密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	
13	023 03	G21	F21	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	ナデ				密　砂粒含	良	灰黄褐 10YR4/2	
14	019 01	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	指圧痕　ナデ	撚糸L	指圧痕　ナデ		中小密、微砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR6/3 灰黄褐 10YR6/2	
15	018 06	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	ナデ				中小密、微砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR7/4	
16	027 05	G21	F21	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	ナデ				中小密、砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR7/3	
17	065 08	G21	G20	S23	I d3	縄文土器	深鉢						撚糸L	ナデ				中小密　砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR7/3	
18	030 08	G21	F19	S23	I d3	縄文土器	深鉢						撚糸R	ナデ				密、砂粒含	良	灰黄褐 10YR5/2	
19	062 02	G21	G20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	指圧痕　ナデ				密　砂粒含	良	灰褐 7.5YR4/2	
20	062 01	G21	G20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	指圧痕　ナデ				密　砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR6/3	
21	040 04	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	ナデ				中小密、微砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR6/3	
22	050 01	G21	G20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	指圧痕　ナデ				密　砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR5/3	
23	068 01	G21	G20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	調整				密　微砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR6/3	
24	027 01	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	ナデ				中小密、微砂粒含	良	灰黄褐 10YR6/2	
25	052 08	G21	G20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	指圧痕　ナデ				密　砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR6/3 灰黄褐 10YR5/2	
26	062 03	G21	G20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	指圧痕　ナデ				密　砂粒含	良	にぶい黄褐 10YR5/3	
27	038 03	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	ナデ				中小密、砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR6/4 灰褐 7.5YR5/2	
28	041 01	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	ナデ				密　砂粒含	良	にぶい黄褐 10YR5/3	
29	022 03	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	ナデ				中小密	良	灰黄褐色 10YR6/2	

報告番号	実測番号	大中地区	小地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外.口縁部	内.口縁部	外.頸部	内.頸部	外.体部	内.体部	外.底部	内.底部	推存.口径(cm)	胎土	焼成	色調	備考
30	017-07	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	ナデ				やや密、砂粒含	良	灰褐	7.5YR4/2
31	035-06	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	横圧痕　ナデ				密、砂粒含	良	灰黄褐	10YR4/2
32	057-03	G21	G20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	横圧痕　ナデ				密　砂粒多含	良	にぶい黄橙	10YR6/3
33	012-04	G21	G20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	横圧痕　ナデ				密、微砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3
34	017-08	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸RL	ナデ				やや密、微砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR5/3 10YR5/2
35	030-07	G21	F19	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸RL	横圧痕　ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/4
36	077-01	G21	B17	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸LR	ナデ				密　微砂粒含	良	灰黄褐	10YR6/2
37	008-04	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	ナデ				やや密　微砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR7/4
38	035-05	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	横圧痕　ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐 黒褐	7.5YR5/4 7.5YR5/2
39	067-01	G21	G21	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	ナデ				やや密　微砂粒含	良	暗褐	7.5YR3/2
40	019-04	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	ナデ				やや密、砂粒含	良	にぶい赤褐	5YR5/4
41	009-01	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	横圧痕　ナデ				やや粗、砂粒含	良	にぶい黄橙、黒褐、灰黄褐	10YR7/2, 7.5YR5/1, 10YR6/2
42	010-05	G21	G20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	横圧痕　ナデ				やや密、砂粒含	良	にぶい橙 灰褐色 灰黄褐	7.5YR6/3, 7.5YR4/2, 10YR5/2
43	073-07	G21	G20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸無節	ナデ				やや密　砂粒含	良	橙 黒褐	2.5YR6/8 7.5YR3/2
44	017-02	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	ナデ				やや密、砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR7/3
45	010-03	G21	F19	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	横圧痕　ナデ				やや密、微砂粒含	良	にぶい橙	5YR6/4
46	071-08	G21	G20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	ナデ				やや密	良	黒褐	7.5YR3/2
47	012-01	G21	G20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR6/3
48	016-08	G21	F19	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	横圧痕　ナデ				密　砂粒多含	良	褐灰 灰黄褐	7.5YR4/1 10YR5/2
49	028-05	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	横圧痕　ナデ				密　砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐	10YR6/2 10YR5/2
50	032-06	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	ナデ				やや密、砂粒含	良	にぶい橙 灰褐	7.5YR7/3 7.5YR5/2
51	037-06	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	横圧痕　ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR5/3
52	037-03	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR5/4
53	013-04	G21	G21	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	横圧痕　ナデ				密、微砂粒含	良	にぶい橙 褐灰	5YR6/4 5YR4/1
54	023-02	G21	F21	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	ナデ				密、砂粒含	良	黒褐	7.5YR3/1
55	014-05	G21	G21	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3
56	043-08	G21	F20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	ナデ				密　砂粒・小砂粒含	良	にぶい黄褐	10YR5/3
57	025-03	G21	F21	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸L	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR7/2
58	076-05	G21	G20	S23	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	ナデ				密　砂粒含	良	にぶい黄橙 黒	10YR6/4 10YR2/1

報告番号	実測番号	大中地区	小地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外.口縁部	内.口縁部	外.頸部	内.頸部	外.体部	内.体部	外.底部	内.底部	残存.口径(cm)	胎土	焼成	色調		備考
59	023-05	G21	G20	S21	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸無節	ナデ				やや密	良	にぶい橙 黒褐	7.5YR7/4 7.5YR3/2	
60	017-01	G21	G20	S21	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	ナデ				やや密	良	褐灰 橙	10YR4/1 5YR6/6	
61	062-01	G21	G20	S21	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	ナデ				密　砂粒含	良	灰褐 にぶい褐	7.5YR4/2 7.5YR6/3	
62	032-05	G21	G20	S21	I d2	縄文土器	深鉢						撚糸R	ナデ				やや密，微砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/4	
63	036-02	G21	F20	S21	I e1	縄文土器	深鉢								撚糸L	回転		密，砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3	
64	067-06	G21	E19	S23	II a4	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	縄文RL	縄文RL	撚圧痕　ナデ	縄文RL	撚圧痕　ナデ				やや粗，砂粒含	良	灰褐 灰黄褐	5YR4/2 10YR6/2	側面圧痕縄文LR
65	054-03	G21	G20	S21	II a2	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	縄文RL	縄文RL	撚圧痕　ナデ	縄文RL	撚圧痕　ナデ				やや粗，砂粒含	良	灰黄褐 黄灰	10YR6/2 2.5Y4/1	
66	051-05	G21	G20	S21	II a4	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	縄文LR	縄文LR	撚圧痕　ナデ	縄文LR	撚圧痕　ナデ				密，小石，砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR6/3，10YR6/2，10YR5/2	側面圧痕縄文LR
67	007-03	G21	G20	S21	II a4	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	縄文LR	縄文LR	撚圧痕　ナデ	縄文LR	撚圧痕　ナデ				やや粗，砂粒含	良	にぶい黄橙 褐灰	10YR6/3 10YR4/2	側面圧痕縄文RL
68	056-05	G21	G20	S21	II a4	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	縄文LR	縄文LR	撚圧痕　ナデ	縄文LR	撚圧痕　ナデ			2/12　18.8	密　砂粒多含	良	灰黄褐 褐灰	10YR6/2 2.5Y5/1	側面圧痕縄文RL
69	038-01	G21	F20	S23	II a4	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	縄文RL	縄文RL	撚圧痕　ナデ						やや密，微砂粒含	良	にぶい黄橙 褐灰	10YR7/3 10YR5/1	側面圧痕縄文LR
70	020-05	G21	F20	S23	II a4	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	縄文LR	回線	撚圧痕　ナデ						やや密	良	にぶい橙 黒褐	7.5YR7/4 7.5YR3/2	側面圧痕縄文LR
71	008-02	G21	F19	S23	II a4	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	縄文RL	縄文RL	撚圧痕　ナデ						やや密，砂粒含	良	にぶい褐 褐灰	7.5YR6/3 10YR5/1	側面圧痕縄文LR
72	023-05	G21	F21	S21	II a2	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	縄文RL	縄文RL	ナデ						密，微砂粒含	良	黒褐	2.5YR3/1	
73	078-03	G21	F19	S21	II a2	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	縄文LR	縄文LR	撚圧痕　ナデ						密　砂粒多含	良	にぶい黄橙	10YR6/3	
74	043-03	G21	F20	S21	II a2	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	縄文RL	縄文RL	撚圧痕　ナデ						密　砂粒含	良	灰褐	7.5YR4/2	
75	032-04	G21	F20	S21	II a2	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	縄文RL	回線	撚圧痕　ナデ						やや密，微砂粒含	良	黒褐 褐灰	7.5YR3/1 10YR5/1	
76	039-01	G21	F20	S21	II a2	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	縄文RL	回線	撚圧痕　ナデ						やや密，砂粒含	良	にぶい褐 褐灰	7.5YR6/3 10YR4/1	
77	074-02	G21	F20	S21	II a2	縄文土器	深鉢		縄文RL	縄文RL	縄文RL	ナデ						密　砂粒含	良	灰褐	7.5YR4/2	
78	004-02	G21	F20	S21	II a4	縄文土器	深鉢	縄文LR,RL押	縄文LR,	撚圧痕　ナデ	縄文LR,	撚圧痕　ナデ	縄文LR	撚圧痕　ナデ			2/12，23.6	密，砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR7/2，6/2 10YR4/2	側面圧痕縄文LR
79	008-01	G21	F19	S21	II a4	縄文土器	深鉢	縄文LR,RL押	縄文LR,	撚圧痕　ナデ	縄文LR,	撚圧痕　ナデ	縄文LR	撚圧痕　ナデ				やや密，砂粒含	良	にぶい褐 暗灰 浅黄橙	7.5YR5/3 N3/0 10YR8/3	側面圧痕縄文LR
80	026-09	G21	F20	S21	II b2	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	縄文RL	縄文RL	ナデ						やや密	良	褐灰 褐灰	10YR4/1 10YR5/1	側面圧痕縄文RL
81	030-06	G21	F19	S21	II b2	縄文土器	深鉢	縄文LR,	縄文LR,	撚圧痕　ナデ	縄文LR,	撚圧痕　ナデ	回線	撚圧痕　ナデ				密，砂粒含	良	灰褐	7.5YR4/2	側面圧痕縄文LR
82	034-06	G21	F20	S21	II a4	縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ　縄文LR,	撚圧痕　ナデ	縄文LR,	撚圧痕　ナデ	縄文LR,	撚圧痕　ナデ				やや密	良	黒褐 にぶい黄橙	5YR3/1 10YR7/2	側面圧痕縄文LR
83	033-05	G21	F20	S21	II a4	縄文土器	深鉢				縄文LR	ナデ	縄文LR	ナデ				やや密	良	にぶい黄橙 灰褐	10YR6/3 7.5YR4/2	側面圧痕縄文LR
84	044-02	G21	F20	S21	II a4	縄文土器	深鉢				縄文LR	ナデ	縄文LR	ナデ				密　砂粒多含	良	灰黄褐 にぶい黄橙	10YR5/2 10YR6/3	側面圧痕縄文LR
85	026-05	G21	F20	S21	II a4	縄文土器	深鉢				縄文RL	ナデ	縄文LR,RL押	ナデ				やや密，砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR6/3	側面圧痕縄文
86	028-02	G21	F21	S21	II a4	縄文土器	深鉢				縄文RL	ナデ	縄文LR,	ナデ				密，砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR6/3	側面圧痕縄文RL
87	045-02	G21	F20	S21	II a4	縄文土器	深鉢						縄文LR	ナデ				密	良	褐灰 灰黄褐	7.5YR6/1 10YR5/2	

第IV-5表　土器等観察表4

報告番号	実測番号	大中地区	小地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外.口縁部	内.口縁部	外.頸部	内.頸部	外.体部	内.体部	外.底部	内.底部	残存.口径(cm)	胎土	焼成	色調	備考
88	037-01	G21	F19	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RL	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい-橙 7.5YR5/3	
89	038-07	G21	F20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RL	ナデ				やや密、微砂粒含	良	にぶい-橙 褐灰 7.5YR6/3 7.5YR4/1	
90	045-08	G21	F19	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RL	ナデ				密　微砂粒含	良	黒褐 灰黄褐 7.5YR3/2 10YR5/2	
91	038-01	G21	F20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RL	ナデ				やや粗、砂粒含	良	黒褐 灰白 7.5YR3/2 10YR7/1	
92	011-01	G21	G20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文R	ナデ				密、砂粒含	良	黒褐 灰黄褐 7.5YR3/2 10YR6/2	
93	015-03	G21	G21	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RL	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい-黄橙 10YR4/3	
94	016-02	G21	E19	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RL	ナデ				密、砂粒含	良	灰褐 7.5YR6/2	
95	013-05	G21	G21	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RL	撫圧痕　ナデ				密、微砂粒含	良	灰黄褐 褐灰 10YR6/2 10YR5/1	
96	012-03	G21	G20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	撫圧痕　ナデ				密、砂粒含	良	にぶい-黄橙 灰黄褐 10YR7/3 10YR6/2	
97	016-03	G21	E19	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RL	撫圧痕　ナデ				密、砂粒含	良	にぶい-黄橙 にぶい-黄橙 10YR6/4 10YR6/3	
98	049-07	G21	F19	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RL	ナデ				やや密　微砂粒含	良	灰黄褐 黒褐 10YR6/2 5YR2/1	
99	016-06	G21	F19	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	ナデ				密、砂粒含	良	灰黄褐 10YR4/2	
100	075-01	G21	G20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RL	ナデ				密　砂粒含	良	灰褐 7.5YR5/2, 4/2	
101	021-01	G21	F20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	ナデ				やや密、微砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐 10YR6/2 10YR5/2	
102	030-02	G21	F19	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい-黄橙 灰黄褐 10YR5/3 10YR4/2	
103	048-05	G21	G20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	ナデ				やや密	良	黒褐 灰黄褐 7.5YR3/2 10YR6/2	
104	049-08	G21	F19	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	ナデ				やや粗　微砂粒含	良	褐灰 灰黄褐 7.5YR4/1 10YR6/2	
105	043-01	G21	F20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	撫圧痕　ナデ				密　砂粒多含	良	にぶい-黄橙 にぶい-黄橙 10YR6/3 10YR4/3, 5/3	
106	039-06	G21	F20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	ナデ				やや密	良	にぶい-橙 灰褐 7.5YR6/3 7.5YR5/3	
107	039-05	G21	F20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	ナデ				やや粗、砂粒含	良	灰褐 にぶい-褐 7.5YR4/2 7.5YR6/3	
108	029-02	G21	F21	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい-黄橙 灰褐 10YR6/3 7.5YR4/2	
109	053-03	G21	G20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	ナデ				やや密	良	にぶい-橙 灰褐 7.5YR7/4 7.5YR4/2	
110	039-03	G21	F20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	ナデ				やや密	良	灰黄褐 10YR5/2	
111	027-06	G21	F21	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	ナデ				やや密、砂粒含イ	良	褐灰 褐灰 7.5YR4/1 7.5YR6/1	
112	043-05	G21	F20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	ナデ				密　砂粒多含	良	にぶい-黄褐 にぶい-褐 10YR5/3 7.5YR5/3	
113	042-06	G21	G20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	ナデ				密　砂粒含	良	にぶい-褐 7.5YR5/4	
114	041-03	G21	G20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	ナデ				密　砂粒含	良	にぶい-褐 7.5YR6/3	
115	074-01	G21	G20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	ナデ				密　砂粒含	良	黒褐 10YR3/2	
116	075-03	G21	G20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RL	撫圧痕　ナデ				密　砂粒含	良	灰黄 7.5YR5/2, 6/2	

報告番号	実測番号	大中地区	小地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	外、頸部	内、頸部	外、体部	内、体部	外、底部	内、底部	残存、口径(cm)	胎土	焼成	色調		備考
117	072-07	G21	G20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RL	ナデ				やや密 砂粒含	良	明褐灰 褐灰	7.5YR7/2 5YR4/1	
118	075-07	G21	G20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RL	撫圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3	
119	075-01	G21	G20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	ナデ				密 砂粒含	良	黒褐 灰黄褐	7.5YR3/2 10YR5/2	
120	037-08	G21	F19	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RL	ナデ				密、砂粒含	良	灰褐 にぶい黄橙	7.5YR5/2 10YR5/3	
121	047-01	G21	F19	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RL	ナデ	縄文RL	ナデ		やや粗 砂粒含	良	にぶい黄橙 褐灰 か	10YR6/3 10YR4/1	
122	023-01	G21	F20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RL	ナデ	縄文RL	ナデ		密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR5/3	
123	013-08	G21	G21	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RLR	ナデ				密、微砂粒含	良	灰黄褐	10YR6/2	
124	049-01	G21	F19	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RLR	ナデ				やや密 微砂粒含	良	灰褐 褐灰	5YR4/2 10YR5/1	
125	040-05	G21	F19	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LRF	ナデ				やや密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3	
126	037-06	G21	F19	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文RF	ナデ				やや密 砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐	10YR5/2 10YR5/2	
127	006-02	G21	G20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	撫圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3	
128	025-05	G21	F20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文LR	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR5/3	
129	049-04	G21	F20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文R	ナデ				やや密 砂粒含	良	橙 にぶい橙	5YR7/6 5YR6/4	
130	027-02	G21	F20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文R	ナデ				やや密、微砂粒含	良	灰褐 褐灰	5YR4/1 7.5YR4/1	
131	039-01	G21	F20	S23	Ⅱ-a1	縄文土器	深鉢						縄文R	ナデ				やや密	良	灰褐	5YR4/2	
132	001-01	G21	G20	S23	Ⅱ-f1	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	縄文RL	結束縄文	撫圧痕 ナデ	結束縄文	撫圧痕 ナデ			3/12、19.6	砂粒含	良	黒褐 にぶい黄橙	7.5YR3/2 10YR7/3	側面圧痕縄文RL
133	015-06	G21	F19	S23	Ⅱ-f1	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	縄文RL	結束縄文	撫圧痕 ナデ	結束縄文	撫圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	褐灰 灰褐	7.5YR4/1 7.5YR4/2	側面圧痕縄文RL
134	079-06	G21	G20	S23	Ⅱ-f1	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	縄文RL	結束縄文	撫圧痕 ナデ	結束縄文	撫圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐	10YR5/2 10YR6/2	側面圧痕縄文RL
135	005-02	G21	F20	S23	Ⅱ-f1	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	縄文LR	縄文LR	撫圧痕 ナデ	縄文LR、結束縄文	撫圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	灰褐	10YR4/2	側面圧痕縄文LR
136	035-05	G21	F19	S23	Ⅱ-f1	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	縄文LR	縄文LR	撫圧痕 ナデ	縄文LR、結束縄文	撫圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	黒褐 にぶい黄橙	2.5YR3/1 10YR7/3	側面圧痕縄文RL
137	007-05	G21	F20	S23	Ⅱ-f1	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	縄文RL	縄文RL							やや密、微砂粒含	良	灰褐 褐灰 にぶい橙	5.5YR5/1 10YR5/1 7.5YR7/4	側面圧痕縄文LR
138	040-03	G21	F20	S23	Ⅱ-f1	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	縄文RL	縄文RL	撫圧痕 ナデ						やや密	良	褐灰	10YR5/1	
139	051-02	G21	G20	S23	Ⅱ-f1	縄文土器	深鉢	縄文RL	結束縄文	縄文RL								密 砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR4/3、5/3	側面圧痕縄文RL
140	008-02	G21	G20	S23	Ⅱ-f1	縄文土器	深鉢	縄文RL	結束縄文	縄文RL	結束縄文	ナデ	結束縄文	ナデ				やや密、砂粒含	良	褐灰	7.5YR4/1	
141	011-03	G21	G20	S23	Ⅱ-f1	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	縄文RL	刻目	撫圧痕 ナデ						密、砂粒含	良	褐灰 褐灰	7.5YR4/1 7.5YR5/1	側面圧痕縄文RL
142	036-04	G21	F20	S23	Ⅱ-f1	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	縄文LR								密、砂粒含	良	灰褐	7.5YR4/2	
143	016-08	G21	F20	S23	Ⅱ-f1	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	縄文LR								密、砂粒含	良	灰黄褐	10YR5/2	
144	037-07	G21	F20	S23	Ⅱ-f1	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	縄文RL								密、砂粒含	良	灰黄褐	10YR4/2	
145	025-06	G21	F20	S23	Ⅱ-f1	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	縄文RL								密、砂粒含	良	褐灰	7.5YR5/1	

報告書号	実測番号	大中地区	小地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外.口縁部	内.口縁部	外.頸部	内.頸部	外.体部	内.体部	外.底部	内.底部	残存.口径(cm)	胎土	焼成	色調	備考
146	004-01	G21	F19	S23	Ⅱ-f6	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	撫圧痕 ナデ	縄文LR	撫圧痕 ナデ	縄文LR.、横回転文	撫圧痕 ナデ			3/12、20.6	密、砂粒含	良	灰黄褐	側面圧痕縄文LR
147	008-01	G21	G20	S23	Ⅱ-f6	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	撫圧痕 ナデ	縄文RL	撫圧痕 ナデ	縄文RL、横回転文	撫圧痕 ナデ			3/12、24.4	密、砂粒多含	良	にぶい黄橙 褐灰	10YR/3 10YR/4	側面圧痕縄文RL
149	002-01	G21	F19	S23	Ⅱ-f6	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	撫圧痕 ナデ	縄文LR	撫圧痕 ナデ	縄文LR、横回転文	撫圧痕 ナデ			1/12、21.4	やや粗、砂粒含	良	灰褐	7.5YR/2	側面圧痕縄文
149	012-09	G21	G20	S23	Ⅱ-g5	縄文土器	深鉢				縄文LR	撫圧痕 ナデ	横回転文	撫圧痕 ナデ				密、微砂粒含	良	にぶい褐 灰黄褐	7.5YR/3、5/3 10YR/2
150	021-01	G21	G20	S23	Ⅱ-g5	縄文土器	深鉢						横回転文	撫圧痕 ナデ				やや密、微砂粒含	良	灰褐、黒褐	7.5YR/2、5/1 7.5YR/1
151	003-02	G21	F20	S23	Ⅱ-g5	縄文土器	深鉢				縄文RL	撫圧痕 ナデ	横回転文	撫圧痕 ナデ				やや粗、小石含	良	褐灰 にぶい黄橙	7.5YR/1 10YR/3
152	002-02	G21	F20	S23	Ⅱ-g5	縄文土器	深鉢						横回転文	撫圧痕 ナデ				やや粗、砂粒含	良	にぶい褐黄橙	10YR/3
153	002-03	G21	F20	S23	Ⅱ-g5	縄文土器	深鉢						横回転文	撫圧痕 ナデ				やや粗、小石含	良	にぶい黄橙 にぶい褐	10YR/3 7.5YR/3
154	018-04	G21	F20	S23	Ⅱ-g5	縄文土器	深鉢						横回転文	撫圧痕 ナデ				やや密、砂粒含	良	明褐灰	7.5YR/2
155	003-01	G21	F20	S23	Ⅱ-g5	縄文土器	深鉢						横回転文	撫圧痕 ナデ				やや粗、小石含	良	にぶい黄橙	10YR/3
156	003-04	G21	F20	S23	Ⅱ-g5	縄文土器	深鉢				縄文RL	撫圧痕 ナデ	横回転文	撫圧痕 ナデ				やや密、砂粒含	良	にぶい褐 にぶい黄橙 黒褐	7.5YR/3 10YR/3 7.5YR/2
157	003-03	G21	F20	S23	Ⅱ-g5	縄文土器	深鉢						横回転文	撫圧痕 ナデ				やや粗、小石含	良	にぶい黄橙	10YR/3
158	077-05	G21	F19	S23	Ⅲa-1	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	撫圧痕 ナデ								密、砂粒含	良	灰褐	7.5YR/2	側面圧痕縄文LR
159	069-05	G21	F19	S23	Ⅲa-1	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	ナデ								やや密、砂粒含	良	灰黄褐	10YR/2	側面圧痕縄文LR
180	055-04	G21	G20	S23	Ⅲa-1	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	刻目	横回転文	刻目						やや密	良	灰褐	5YR4/2
181	041-02	G21	G20	S23	Ⅲa-2	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR押	撫圧痕 ナデ	横回転文	撫圧痕 ナデ						密、砂粒含	良	褐灰	7.5YR/1
182	031-01	G21	F19	S23	Ⅲa-1	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	刻目								密、砂粒含	良	褐灰	7.5YR/1
183	007-01	G21	G20	S23	Ⅲa-2	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL押	撫圧痕 ナデ								やや密、砂粒含	良	灰褐 褐灰	5YR4/2 10YR/3
184	035-02	G21	F20	S23	Ⅲa-2	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL押	ナデ								密、砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR/4
185	014-01	G21	G20	S23	Ⅲa-2	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR、LR押	撫圧痕 ナデ	縄文RL	撫圧痕 ナデ					1/12、31.4	やや密、砂粒含	良	灰褐 にぶい黄褐	7.5YR/2 10YR/3
186	057-05	G21	G20	S23	Ⅲa-2	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR押	撫圧痕 ナデ	刻目	撫圧痕 ナデ						密、砂粒多含	良	灰褐 にぶい橙	7.5YR/2 10YR/3
187	077-06	G21	F19	S23	Ⅲa-1	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	撫圧痕 ナデ								密、砂粒含	良	灰褐 褐灰	7.5YR/2 7.5YR/1
188	055-05	G21	G20	S23	Ⅲa-2	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR、LR押	撫圧痕 ナデ	刻目	撫圧痕 ナデ						やや密、微砂粒含	良	灰褐 にぶい黄橙	7.5YR/2 10YR/3
189	051-06	G21	G20	S23	Ⅲa-1	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	ナデ								密、微砂粒含	良	褐灰 灰黄褐	7.5YR/1 10YR/2
170	037-06	G21	G20	S23	Ⅲa-2	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR、LR押	撫圧痕 ナデ	刻目	撫圧痕 ナデ						密、砂粒含	良	灰褐 にぶい黄褐	7.5YR/2 10YR/3
171	052-01	G21	G21	S23	Ⅲa-3	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	ナデ	縄文RL	刻目						密、砂粒含	良	にぶい黄褐	10YR/3
172	052-05	G21	G20	S23	Ⅲa-4	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	ナデ	横回転文	刻目						密、砂粒含	良	灰褐	7.5YR/2
173	078-01	G21	G20	S23	Ⅲa-5	縄文土器	深鉢	ナデ	横回転文	ナデ								密、砂粒含	良	灰黄褐 褐灰	10YR/2 10YR/3
174	060-01	G21	F20	S23	Ⅲa-6	縄文土器	深鉢	縄文LR	横回転文	撫圧痕 ナデ	横回転文	撫圧痕 ナデ	横回転文	撫圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR/3

第Ⅳ-7表 土器等観察表6

報告番号	実測番号	大中地区	小地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	外、頸部	内、頸部	外、体部	内、体部	外、底部	内、底部	残存、口径(cm)	胎土	焼成	色調		備考
175	009-01	G21	F19	S23	第a6	縄文土器	深鉢	縄文LR	撚回転文	撚圧痕 ナデ	撚回転文	撚圧痕 ナデ	撚回転文	撚圧痕 ナデ				中や密、砂粒含	良	浅黄橙 7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR7/4		
176	072-01	G21	G20	S23	第a4	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR ナデ	撚圧痕 ナデ	縄文原体端押圧、縄文LR、撚回転文	撚圧痕 ナデ	縄文原体端押圧、縄文LR、撚回転文	撚圧痕 ナデ				中や密 微砂粒含	良	暗赤褐 5YR3/2	側面圧痕縄文LR	
177	055-02	G21	G20	S23	第a4	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL	撚圧痕 ナデ	縄文RL	撚圧痕 ナデ	縄文RL、撚回転文	撚圧痕 ナデ				中や密 砂粒含	良	灰褐、黒褐 10YR5/1、7.5YR3/1、10YR6/2	民黄褐	側面圧痕縄文LR
178	072-05	G21	G20	S23	第a4	縄文土器	深鉢	縄文LR	ナデ	撚圧痕 ナデ	縄文RL押、撚回転文	撚圧痕 ナデ	縄文RL押、撚回転文	撚圧痕 ナデ				中や密	良	にぶい橙 7.5YR6/4		側面圧痕縄文RL
179	054-05	G21	G20	S23	第a7	縄文土器	深鉢	縄文RL	ナデ	撚圧痕 ナデ	ナデ	撚圧痕 ナデ	調整	撚圧痕 ナデ				中や密 砂粒含	良	灰褐 7.5YR5/2 にぶい褐 7.5YR6/3	側面圧痕縄文RL	
180	027-04	G21	F20	S23	第a8	縄文土器	深鉢	縄文RL	縄文RL押、ナデ	撚圧痕 ナデ								中や密	良	にぶい褐 7.5YR6/3 褐灰 7.5YR5/1		
181	012-05	G21	G20	S23	第a4	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	ナデ								密、細砂粒含	良	にぶい赤褐 5YR5/2		
182	045-05	G21	F19	S23	第a4	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	ナデ								密	良	黒褐 10YR3/1 褐灰 10YR6/1		
183	026-06	G21	F20	S23	第a6	縄文土器	深鉢	縄文LR	撚回転文	撚圧痕 ナデ	撚回転文	撚圧痕 ナデ						中や密	良	黒褐 5YR3/1		
184	029-08	G21	F21	S23	第a6	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	撚圧痕 ナデ								中や密、砂粒含	良	褐灰 10YR5/1 にぶい橙 7.5YR6/3		
185	016-04	G21	E19	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文	撚圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR6/3		
186	029-05	G21	F20	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文	撚圧痕 ナデ				密、砂粒、小石粒含	良	灰黄褐 10YR4/2		
187	006-03	G21	F20	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄褐 10YR5/3		
188	010-02	G21	F19	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文	ナデ				中や粗、砂粒、小石含	良	にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい褐 7.5YR6/3		
189	036-06	G21	F20	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文	ナデ				中や密、砂粒含	良	にぶい褐 7.5YR6/3		
190	013-07	G21	G21	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文	撚圧痕 ナデ				密、微砂粒含	良	灰黄褐 褐灰 10YR5/2 10YR5/1		
191	017-01	G21	F20	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文	ナデ				中や密、砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR6/3		
192	014-06	G21	G23	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文	撚圧痕 ナデ				密	良	にぶい黄橙 灰黄褐 10YR6/3 10YR4/3		
193	028-01	G21	F21	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文	ナデ				中や密、砂粒含	良	にぶい黄橙 褐灰 10YR7/2 5YR4/1		
194	015-01	G21	G23	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐 7.5YR5/4		
195	019-01	G21	F20	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文	工具ナデ?				中や密、微砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙 灰褐 10YR6/3 7.5YR4/2		
196	036-06	G21	F20	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文	オサエ				密、砂粒含	良	にぶい黄褐 10YR5/3		
197	029-08	G21	F21	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文	ナデ				密、砂粒含	良	灰褐 7.5YR5/2		
198	022-06	G21	F20	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文?	ナデ				中や粗、砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR7/3		
199	022-07	G21	F20	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文?	ナデ				中や粗、砂粒含	良	にぶい黄橙 褐灰 10YR7/3 10YR5/1		
200	031-06	G21	F20	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR5/3		
201	034-01	G21	F20	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文	ナデ				中や密	良	褐灰 橙 7.5YR5/1 5YR7/6		
202	038-05	G21	F20	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文?	ナデ				中や密、砂粒含	良	黒褐 7.5YR3/1		
203	040-07	G21	E19	S23	第b1	縄文土器	深鉢						撚回転文	ナデ				中や密、微砂粒含	良	浅黄橙 7.5YR8/4		

報告番号	実測番号	大中地区	小地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外.口縁部	内.口縁部	外.頸部	内.頸部	外.体部	内.体部	外.底部	内.底部	残存.口径(cm)	胎土	焼成	色調		備考
204	029-01	G21	F21	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	撚糸痕 ナデ				密 砂粒含	良	灰褐	7.5YR4/2	
205	040-02	G21	F20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	工具ナデヲ				やや密	良	黒褐 にぶい橙	5YR3/1 7.5YR7/3	
206	041-08	G21	G20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	ススイ付着ナデ				密 砂粒含	良	にぶい橙 褐灰	7.5YR6/4 7.5YR4/1	
207	041-06	G21	F19	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR6/3	
208	040-01	G21	F20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	ナデ				やや密. 砂粒含	良	にぶい褐 褐灰	7.5YR6/3 7.5YR4/1	
209	065-02	G21	G20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄文LR 横回転文	ナデ				やや密 微砂粒含	良	にぶい橙. 褐灰 にぶい黄橙	5YR6/4. 5/3 10YR7/2	
210	039-07	G21	F20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	ナデ				やや密	良	灰褐 にぶい褐	5YR4/2 7.5YR5/3	
211	042-03	G21	F19	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	撚糸痕 ナデ				密 砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR6/4 10YR4/2	
212	044-04	G21	F20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	撚糸痕 ナデ				密 砂粒多含	良	灰黄褐	10YR6/2.5/2	
213	049-03	G21	F20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	ナデ				やや密	良	にぶい橙 にぶい黄橙	5YR7/4 10YR6/3	
214	050-08	G21	G20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	撚糸痕 ナデ				密 砂粒含	良	褐灰 灰黄褐	10YR4/1 10YR5/2	
215	063-03	G21	G20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	撚糸痕 ナデ				密 砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR5/3	
216	053-07	G21	G20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	ナデ				やや密 砂粒含	良	にぶい黄橙 褐灰	10YR7/2 7.5YR4/1	
217	060-07	G21	G20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/4	
218	061-02	G21	G20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	撚糸痕 ナデ 炭化物付着				密 砂粒多含	良	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR6/3 10YR4/2	
219	051-04	G21	G20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	ナデ ススイ付着				密 砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR5/3 10YR4/2	
220	060-05	G21	G20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/4	
221	061-03	G21	G20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	撚糸痕 ナデ				密 砂粒含	良	灰褐	7.5YR4/2	
222	079-08	G21	F20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	撚糸痕 ナデ				密 微砂粒含	良	灰褐 灰黄褐	7.5YR5/2 10YR6/2	
223	062-09	G21	G20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄文LR押 横回転文	撚糸痕 ナデ				密 砂粒含	良	灰黄褐	10YR5/2	
224	064-08	G21	G20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	ナデ				密 砂粒含	良	灰黄褐	10YR4/2	
225	044-01	G21	F20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	撚糸痕 ナデ				密 微砂粒含	良	灰褐 にぶい褐	7.5YR4/2 7.5YR6/3	
226	044-03	G21	F20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	撚糸痕 ナデ				密 微砂粒含	良	灰黄褐 にぶい橙	10YR4/2 5YR6/4	
227	040-06	G21	F20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	ナデ				やや密 砂粒含	良	にぶい黄橙 橙	10YR6/3 5YR6/6	
228	028-04	G21	F19	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	撚糸痕 ナデ				密 砂粒含	良	灰黄褐 灰褐	10YR6/2 7.5YR5/2	
229	065-03	G21	G20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	撚糸痕 ナデ				やや密 砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR5/3	
230	079-02	G21	F20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	ナデ				密 微砂粒含	良	にぶい黄橙 黒褐	10YR6/3 7.5YR3/2	
231	080-01	G21	G20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR5/3	
232	074-03	G21	F20	S23	縄14	縄文土器	深鉢						縄回転文	撚糸痕 ナデ				密 砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐	10YR4/2 10YR6/2	

報告番号	実測番号	大地区	中地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外.口縁部	内.口縁部	外.頸部	内.頸部	外.体部	内.体部	外.底部	内.底部	残存.口径(cm)	胎土	焼成	色調		備考
233	066-03	G21	G20	S23	器14	縄文土器	深鉢						縄回転文	ナデ				やや密	良	黒褐 褐灰	7.5YR3/1 7.5YR5/1	
234	069-07	G21	G20	S23	器14	縄文土器	深鉢						縄回転文	側圧痕　ナデ				密　砂粒含	良	灰黄褐 褐灰	10YR6/2 7.5YR5/1	
235	073-01	G21	G20	S23	器14	縄文土器	深鉢						縄回転文	ナデ				やや粗　砂粒、小石含	良	灰褐 灰黄褐	5YR4/2 10YR6/2	
236	072-03	G21	G20	S23	器14	縄文土器	深鉢						縄回転文？	ナデ				やや密　微砂粒含	良	にぶい黄橙 褐灰	10YR6/3 10YR4/1	
237	077-08	G21	F19	S23	器14	縄文土器	深鉢						縄回転文	側圧痕　ナデ				密　微砂粒含	良	にぶい橙 灰褐	5YR6/3 5YR5/2	
238	078-07	G21	G20	S23	器14	縄文土器	深鉢						縄回転文	ナデ				密　微砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR6/3 10YR4/2	
239	079-05	G21	F20	S23	器14	縄文土器	深鉢						縄回転文	ナデ				密　微砂粒含	良	灰黄褐 黒褐	10YR6/2 10YR3/1	
240	037-01	G21	F19	S23	器14	縄文土器	深鉢								縄回転文	ナデ		密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3	
241	029-07	G21	F20	S23	器14	縄文土器	深鉢								縄回転文	ナデ		密、砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR5/4	
242	065-03	G21	G20	S23	器40	縄文土器	深鉢	縄文LR	赤彩文	刻目	赤彩文	刻目						密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3	
243	054-02	G21	G20	S23	器40	縄文土器	深鉢	縄文LR	赤彩文	刻目	赤彩文	刻目						やや密	良	褐灰	7.5YR4/1	
244	057-06	G21	F20	S23	器40	縄文土器	深鉢	縄文LR	赤彩文	ナデ	赤彩文	ナデ						やや密	良	にぶい橙 褐灰	7.5YR6/3 5YR4/1	
245	076-04	G21	G20	S23	器40	縄文土器	深鉢	縄文RL	赤彩文	ナデ								密　砂粒含	良	褐 にぶい橙	7.5YR4/3 7.5YR6/4	
246	028-06	G21	F21	S23	器40	縄文土器	深鉢	縄文LR	赤彩文	刻目								やや密	良	にぶい褐	7.5YR5/3	
247	043-04	G21	G20	S23	器40	縄文土器	深鉢	縄文LR	赤彩文	ナデ								密　砂粒含	良	灰黄褐 にぶい黄橙	10YR4/2 10YR6/4	
248	077-03	G21	R17	S23	器40	縄文土器	深鉢	縄文LR	赤彩文	ナデ								密　微砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3	
249	044-05	G21	F20	S23	器40	縄文土器	深鉢	縄文RL	赤彩文	ナデ								密　微砂粒含	良	褐灰 灰黄褐	7.5YR5/1 10YR6/2	
250	057-04	G21	G20	S23	器40	縄文土器	深鉢	縄文RL	赤彩文	側圧痕　ナデ								密　微砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR5/3	
251	066-02	G21	G20	S23	器40	縄文土器	深鉢	縄文LR	赤彩文	側圧痕　ナデ								やや密	良	にぶい橙 黒褐	7.5YR7/3 7.5YR3/1	
252	006-01	G21	G20	S23	器41	縄文土器	深鉢						赤彩文	側圧痕　ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3	
253	071-01	G21	G20	S23	器41	縄文土器	深鉢						赤彩文	側圧痕　ナデ				やや密　砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3	
254	069-03	G21	G21	S23	器41	縄文土器	深鉢						赤彩文	側圧痕　ナデ				密　砂粒含	良	灰褐 にぶい褐	7.5YR6/2 7.5YR6/3	
255	066-08	G21	G20	S23	器41	縄文土器	深鉢						赤彩文	側圧痕　ナデ				やや密　微砂粒含	良	暗赤褐 にぶい橙	5YR3/2 7.5YR6/4	
256	068-04	G21	G20	S23	器41	縄文土器	深鉢						赤彩文	側圧痕　ナデ				密　砂粒含	良	褐灰 にぶい褐	7.5YR4/1 7.5YR5/3	
257	073-03	G21	G20	S23	器41	縄文土器	深鉢						赤彩文	側圧痕　ナデ				やや密　微砂粒含	良	にぶい橙	5YR6/4	
258	070-03	G21	G20	S23	器41	縄文土器	深鉢						赤彩文	側圧痕　ナデ				密　砂粒含	良	灰褐 灰黄褐	5YR5/2 10YR5/2	
259	055-06	G21	G20	S23	器41	縄文土器	深鉢						赤彩文	側圧痕　ナデ				やや密　微砂粒含	良	黒褐　に ぶい橙 にぶい橙	7.5YR3/2, 5YR6/4 7.5YR6/4	
260	057-07	G21	G20	S23	器41	縄文土器	深鉢						赤彩文	側圧痕　ナデ				密　砂粒多含	良	褐灰 にぶい褐	5YR4/1 7.5YR6/3	
261	056-04	G21	G20	S23	器41	縄文土器	深鉢						赤彩文	側圧痕　ナデ				密　砂粒多含	良	橙	7.5YR6/6	

報告番号	実測番号	大地区	中地区	小地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	外、頸部	内、頸部	外、体部	内、体部	外、底部	内、底部	残存、口径(cm)	胎土	焼成	色調	備考
262	056-02	G21	G20	S23	層x1	縄文土器	深鉢							赤松文	撚圧痕 ナデ				密 微砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR5/3	
263	056-03	G21	G20	S23	層x1	縄文土器	深鉢							赤松文	撚圧痕 ナデ				密 小石、砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR6/3	
264	055-03	G21	G20	S23	層x1	縄文土器	深鉢							赤松文	撚圧痕 ナデ				やや密	良	にぶい橙 7.5YR5/3 にぶい橙 7.5YR6/3	
265	050-05	G21	G20	S23	層x1	縄文土器	深鉢							赤松文	撚圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	灰黄褐 10YR4/2 灰黄褐 10YR5/2	
266	064-02	G21	G20	S23	層x1	縄文土器	深鉢							赤松文	撚圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	灰褐 7.5YR5/2 にぶい橙 7.5YR6/3	
267	023-08	G21	G21	S23	層x1	縄文土器	深鉢							赤松文	撚圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR6/3 にぶい橙 7.5YR6/3	
268	070-07	G21	G20	S23	層x1	縄文土器	深鉢							赤松文	撚圧痕 ナデ				密 微砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR7/3	
269	066-07	G21	G20	S23	層x1	縄文土器	深鉢							赤松文	撚圧痕 ナデ				やや密 砂粒含	良	灰褐 にぶい赤褐 5YR4/2 5YR5/3	
270	061-05	G21	G20	S23	層x1	縄文土器	深鉢							赤松文	撚圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	灰褐 7.5YR5/2 にぶい黄橙 10YR5/3	
271	076-01	G21	G20	S23	層x1	縄文土器	深鉢							赤松文	撚圧痕 ナデ				密 砂粒多含	良	にぶい橙 7.5YR6/4 黒褐 10YR3/2	
272	064-06	G21	G20	S23	層x1	縄文土器	深鉢							赤松文	撚圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR5/3, 4/3	
273	063-05	G21	G20	S23	層x1	縄文土器	深鉢							赤松文	撚圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR5/3	
274	063-08	G21	G20	S23	層x1	縄文土器	深鉢							赤松文	撚圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	灰褐 7.5YR5/2 にぶい橙 7.5YR5/3	
275	051-08	G21	G20	S23	層x1	縄文土器	深鉢							赤松文	撚圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR5/3	
276	052-07	G21	G21	S23	層x1	縄文土器	深鉢							赤松文	撚圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR6/4	
277	014-07	G21	G21	S23	層x1	縄文土器	深鉢							赤松文	撚圧痕 ナデ				密	良	にぶい黄橙 10YR6/3	
278	013-01	G21	G20	S23	層x1	縄文土器	深鉢							赤松文	撚圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	灰黄褐 10YR5/2	
279	050-07	G21	G20	S23	IVx1	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	オサエ ナデ	刺突	オサエ ナデ							密 砂粒含	良	橙 5YR6/6	
280	074-01	G21	F20	S23	IVx2	縄文土器	深鉢	キザミ	赤松文	ナデ	刺突 スス付着	ナデ							密 砂粒含	良	灰黄褐, 褐灰 10YR5/2, 5/1	
281	054-01	G21	G21	S23	IVx3	縄文土器	深鉢	キザミ	山形文	ナデ	刺突	ナデ							やや密 砂粒含	良	褐灰 7.5YR4/1	
282	060-04	G21	G20	S23	IVx2	縄文土器	深鉢	キザミ	赤松文	ナデ									密 砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR6/4	
283	021-08	G21	F20	S23	IVx2	縄文土器	深鉢	キザミ	赤松文	ナデ	刺突 スス付着	ナデ							やや密、砂粒含	良	橙 5YR7/6	
284	057-01	G21	G20	S23	IVx4	縄文土器	深鉢	キザミ	ナデ	ナデ	刺突								密 微砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR7/4	
285	082-01	G21	F19	S23	IVx4	縄文土器	深鉢	キザミ	ナデ	キザミ ナデ	刺突	ナデ							密 砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR5/4	
286	028-07	G21	F23	S23	IVx4	縄文土器	深鉢		縄文LR	ナデ	刺突	ナデ							やや密	良	灰褐 褐灰 7.5YR5/2 10YR4/1	
287	027-03	G21	F20	S23	IVx4	縄文土器	深鉢		赤松文	ナデ	刺突	ナデ							やや密	良	にぶい黄橙 褐灰 10YR7/4 10YR4/1	
288	017-05	G21	F20	S23	IVx4	縄文土器	深鉢		赤松文	ナデ	刺突	ナデ							やや密、微砂粒含	良	黒褐 にぶい橙 7.5YR3/2 7.5YR6/4	
289	011-01	G21	F20	S23	IVx2	縄文土器	深鉢		格子目文	ナデ	刺突	ナデ	刺突	ナデ					密 砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR5/4	
290	018-07	G21	F20	S23	IVx4	縄文土器	深鉢				刺突	ナデ	赤松文	ナデ					やや密	良	橙 5YR7/6	

第IV-11表 土器等観察表10

報告番号	実測番号	大地区	中地区	小地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外.口縁部	内.口縁部	外.頸部	内.頸部	外.体部	内.体部	外.底部	内.底部	残存.口径(cm)	胎土	焼成	色調	備考
291	046-06	G21	F19	S23	IV56	縄文土器	深鉢					刺突	ナデ	赤松文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい橙 にぶい黄橙	5YR7/4 10YR6/3
292	048-01	G21	G23	S23	IV53	縄文土器	深鉢					刺突	ナデ	赤松文	ナデ				やや密 砂粒含	良	褐灰 にぶい橙	7.5YR4/1 10YR7/3
293	079-01	G21	F20	S23	IV54	縄文土器	深鉢					刺突	ナデ	赤松文	ナデ				密 微砂粒含	良	褐灰	7.5YR4/1
294	075-06	G21	G20	S23	IV54	縄文土器	深鉢					刺突	ナデ	赤松文?					密 砂粒含	良	にぶい橙	5YR6/4
295	070-08	G21	G20	S23	IV56	縄文土器	深鉢					赤松文	ナデ	赤松文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい褐 にぶい黄橙	7.5YR6/4 7.5YR7/3
296	032-02	G21	F19	S23	IV55	縄文土器	深鉢					赤松文	ナデ	赤松文	ナデ				やや密	良	灰黄褐	10YR5/2
297	042-05	G21	G20	S23	IV54	縄文土器	深鉢					刺突	ナデ	赤松文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい黄褐	10YR5/3
298	014-02	G21	G23	S23	IV55	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				密, 砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/2
299	052-02	G21	G20	S23	IV56	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				密, 小石, 砂粒含	良	灰黄褐	10YR6/2
300	068-06	G21	G20	S23	IV56	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				密 微砂粒含	良	にぶい褐 灰黄褐	7.5YR5/3 10YR4/2
301	035-03	G21	F20	S23	IV43	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				密, 微砂粒含,	良	にぶい橙	7.5YR6/4
302	034-02	G21	F20	S23	IV43	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				やや密	良	灰褐 橙	5YR4/2 5YR7/6
303	046-03	G21	F19	S23	IV43	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				密	良	にぶい黄橙	10YR6/3
304	057-02	G21	G20	S23	IV43	縄文土器	深鉢							格子目文	ナデ				密	良	灰黄褐	10YR6/2
305	045-01	G21	F20	S23	IV43	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				密 微砂粒多含	良	にぶい赤褐 褐灰	2.5YR5/4 10YR4/1
306	064-01	G21	G20	S23	IV43	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				密 砂粒含	良	灰黄褐 にぶい褐	10YR4/2 7.5YR5/3
307	051-03	G21	G20	S23	IV43	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/4
308	013-01	G21	G20	S23	IV43	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				密, 微砂粒含	良	灰黄褐 にぶい黄橙	10YR5/2 10YR7/3
309	079-06	G21	G20	S23	IV43	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				密 微砂粒含	良	灰褐 灰黄褐	7.5YR5/2 10YR5/2
310	019-03	G21	F20	S23	IV43	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				やや密	良	にぶい黄橙	10YR6/3
311	031-07	G21	F20	S23	IV43	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				密, 砂粒含	良	にぶい褐 にぶい褐	7.5YR6/3 7.5YR5/3
312	061-07	G21	G20	S23	IV43	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR5/4
313	030-04	G21	F20	S23	IV43	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				密, 砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/4
314	030-03	G21	F20	S23	IV43	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				密, 砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/4
315	017-03	G21	F20	S23	IV43	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				やや密, 微砂粒含	良	灰褐 にぶい橙	7.5YR4/2 7.5YR6/4
316	023-06	G21	F21	S23	IV43	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				密, 砂粒含	良	にぶい橙 褐灰	7.5YR6/3 7.5YR4/1
317	036-05	G21	F20	S23	IV43	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				密, 砂粒含	良	にぶい橙 灰褐	7.5YR7/4 7.5YR5/2
318	047-07	G21	G20	S23	IV43	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ	押型文	工具ナデ		やや密	良	にぶい橙	7.5YR7/3
319	053-08	G21	G20	S23	IV43	縄文土器	深鉢							赤松文	ナデ				やや密 砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3

報告番号	実測番号	大中地区	小地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外.口縁部	内.口縁部	外.頸部	内.頸部	外.体部	内.体部	外.底部	内.底部	残存.口径(cm)	胎土	焼成	色調		備考
320	012-06	G21	G20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密、微砂粒含	良	にぶい橙 灰褐	7.5YR6/4 7.5YR5/2	
321	053-01	G21	G20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				中小密 微砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR6/3	
322	028-04	G21	F23	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				中小密	良	褐灰 にぶい黄橙	7.5YR5/1 10YR7/3	
323	069-08	G21	G20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密 微砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR6/3 10YR5/2	
324	046-07	G21	F19	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密 微砂粒含	良	にぶい黄橙 褐灰	10YR6/3 10YR4/1	
325	070-04	G21	G20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密 微砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3	
326	066-01	G21	G20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				中小密	良	黒褐 にぶい橙	7.5YR3/1 7.5YR7/3	
327	073-02	G21	G20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				中小密	良	灰黄褐	10YR5/2	
328	044-07	G21	F20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密 微砂粒含	良	灰褐 にぶい橙	7.5YR5/2 10YR6/4	
329	073-06	G21	G20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				中小密	良	にぶい橙、黒褐 褐灰	7.5YR7/3,3/1 10YR4/1	
330	069-06	G21	G20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密 微砂粒含	良	にぶい橙 にぶい黄橙	5YR6/4 10YR6/3	
331	049-02	G21	F20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				中小密	良	黒褐 橙	7.5YR3/1 5YR6/8	
332	032-01	G21	F19	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				中小密	良	暗赤褐 橙	5YR3/2 5YR6/8	
333	045-03	G21	F20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密	良	にぶい褐 灰褐	7.5YR6/3 7.5YR5/2	
334	064-03	G21	G20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい橙 褐灰	7.5YR7/4 7.5YR4/1	
335	029-03	G21	F23	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				中小密、砂粒含	良	黒褐 褐灰	7.5YR3/1 10YR5/1	
336	074-06	G21	F20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密 砂粒含	良	灰褐	7.5YR5/2	
337	071-05	G21	G20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				中小密 砂粒含	良	灰黄褐 にぶい黄橙	10YR5/2 10YR6/3	
338	070-02	G21	G20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密	良	灰黄褐 褐灰	10YR5/2 10YR5/1	
339	050-06	G21	G20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR5/3	
340	041-07	G21	G20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい褐 黒褐	7.5YR6/3 7.5YR3/1	
341	035-01	G21	F20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密、砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐	10YR6/2 10YR4/2	
342	064-04	G21	G20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3	
343	068-03	G21	G20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密 微砂粒含	良	灰黄褐 褐灰	10YR4/2 10YR4/1	
344	072-04	G21	G20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				中小密	良	褐灰 灰黄褐	7.5YR4/1 10YR5/2	
345	033-02	G21	F20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				中小密	良	灰白 にぶい黄橙	10YR8/2 10YR7/3	
346	033-07	G21	F20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				中小密	良	灰褐	7.5YR4/2	
347	034-03	G21	F20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				中小密	良	にぶい橙 にぶい黄橙	7.5YR6/4 10YR6/3	
348	069-04	G21	G20	S23	IVc1	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密 微砂粒含	良	褐灰 にぶい黄橙	7.5YR4/1 10YR5/3	

第IV-12表 土器等観察表12

報告番号	実測番号	大地区	中地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外.口縁部	内.口縁部	外.頸部	内.頸部	外.体部	内.体部	外.底部	内.底部	残存.口径(cm)	胎土	焼成	色調	備考
349	079-07	G21	F20	S23	Ⅳc3	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密 微砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR6/3 灰褐 7.5YR5/2	
350	055-07	G21	F19	S23	Ⅳc3	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密 微砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR7/2	
351	060-01	G21	G20	S23	Ⅳc3	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				やや密 微砂粒含	良	灰黄褐 10YR6/2 にぶい黄橙 10YR6/2	
352	043-07	G21	F20	S23	Ⅳc4	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR5/3	
353	036-01	G21	F20	S23	Ⅳc4	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密 砂粒含	良	灰黄褐 10YR6/2 灰黄褐 10YR5/2	
354	015-04	G21	E19	S23	Ⅳc5	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR6/3	
355	016-05	G21	E19	S23	Ⅳc5	縄文土器	深鉢						刺突	ヨコナデ				密 砂粒含	良	灰褐 灰黄褐 7.5YR5/2 10YR6/2, 5/2	
356	066-06	G21	G20	S23	Ⅳc2	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				やや密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	
357	017-04	G21	F20	S23	Ⅳc2	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				やや密. 微砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR6/3	
358	027-07	G21	F20	S23	Ⅳc2	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				やや密. 砂粒含	良	灰褐 7.5YR4/2	
359	053-04	G21	G20	S23	Ⅳc2	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				やや密	良	灰褐 5YR4/2 にぶい褐 7.5YR5/4	
360	068-05	G21	G20	S23	Ⅳc2	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密	良	灰黄褐 10YR5/2 にぶい橙 7.5YR6/4	
361	053-07	G21	G20	S23	Ⅳc2	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい褐 7.5YR5/3	
362	064-07	G21	G20	S23	Ⅳc4	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい褐 7.5YR6/3	
363	015-02	G21	G21	S23	Ⅳc2	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密. 砂粒含	良	灰褐 灰褐 7.5YR6/2 7.5YR4/2	
364	046-01	G21	F19	S23	Ⅳc2	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密 微砂粒含	良	褐灰 7.5YR5/1	
365	070-05	G21	G20	S23	Ⅳc4	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密 砂粒多含	良	にぶい黄橙 10YR6/3	
366	069-05	G21	G20	S23	Ⅳc4	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密 微砂粒含	良	灰褐 7.5YR6/2	
367	066-01	G21	G20	S23	Ⅳc4	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				やや密	良	にぶい橙 5YR6/4 にぶい赤褐 5YR5/4	
368	042-04	G21	F19	S23	Ⅳc4	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密 砂粒含	良	灰褐 7.5YR4/2 にぶい褐 7.5YR5/3	
369	016-07	G21	F20	S23	Ⅳc4	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密. 砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR7/2	
370	024-04	G21	F21	S23	Ⅳc4	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密. 砂粒含	良	灰黄褐 10YR6/2, 5/2	
371	021-04	G21	F20	S23	Ⅳc4	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				やや密	良	褐灰 7.5YR4/1	
372	029-06	G21	F20	S23	Ⅳc4	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密. 砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR5/3	
373	034-08	G21	F20	S23	Ⅳc4	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				やや密. 微砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR6/3 灰黄褐 10YR5/2	
374	025-02	G21	F21	S23	Ⅳc4	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密. 砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR7/2	
375	063-07	G21	G20	S23	Ⅳc4	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい褐 褐灰 7.5YR5/4 7.5YR5/1	
376	022-05	G21	F20	S23	Ⅳc4	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				やや密. 微砂粒含	良	褐灰 7.5YR4/1	
377	077-07	G21	F19	S23	Ⅳc4	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密 砂粒含	良	灰黄褐 10YR6/2	

報告番号	実測番号	大中地区	小地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	外、頸部	内、頸部	外、体部	内、体部	外、底部	内、底部	残存、口径(cm)	胎土	焼成	色調	備考
378	073-01	G21	G20	S23	IV-c4	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				やや密	良	にぶい橙 10YR/4 褐灰 7.5YR/1	
379	013-06	G21	G21	S23	IV-c4	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密、微砂粒含	良	にぶい橙 2.5YR/3 褐灰 10YR/1	
380	016-02	G21	F19	S23	IV-c6	縄文土器	深鉢						刺突	ナデ				密	良	にぶい黄橙 10YR/3 にぶい黄橙 10YR/3	
381	005-04	G21	F20	S23	IV-d3	縄文土器	深鉢	キザミ	市松文	ナデ	市松文	ナデ						密、砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR/3	
382	069-01	G21	G20	S23	IV-d3	縄文土器	深鉢	キザミ	市松文	ナデ								密、微砂粒含	良	灰黄褐 10YR/2	
383	018-02	G21	F20	S23	IV-d3	縄文土器	深鉢	キザミ	斜格子目文	ナデ								やや密	良	にぶい橙 7.5YR/4	
384	009-03	G21	F20	S23	IV-d3	縄文土器	深鉢	キザミ	格子目文	ナデ	格子目文	ナデ						やや密、砂粒含	良	にぶい褐 7.5YR/3 にぶい橙 5YR/4	
385	007-01	G21	G20	S23	IV-d4	縄文土器	深鉢	キザミ	刺突、楕円文	ナデ	楕円文	ナデ						やや密、微砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR/4	
386	074-07	G21	F20	S23	IV-d4	縄文土器	深鉢	キザミ	刺突、楕円文	ナデ								密、砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR/4	
387	019-06	G21	F20	S23	IV-d4	縄文土器	深鉢	キザミ	刺突、楕円文	ナデ								やや密	良	にぶい橙 7.5YR/4	
388	063-01	G21	G20	S23	IV-e4	縄文土器	深鉢						市松文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐 7.5YR/3	
389	063-04	G21	G20	S23	IV-e4	縄文土器	深鉢						市松文	ナデ				密、砂粒含	良	灰褐 7.5YR/2	
390	062-07	G21	G20	S23	IV-e4	縄文土器	深鉢						市松文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐 7.5YR/3	
391	070-01	G21	G20	S23	IV-e2	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密	良	にぶい橙 2.5YR/4 灰褐 7.5YR/2	
392	067-02	G21	G21	S23	IV-e2	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				やや密	良	にぶい橙 5YR/4	
393	072-02	G21	G20	S23	IV-e2	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				やや密	良	明褐灰 7.5YR/2 黄 2.5YR/1	
394	071-02	G21	G20	S23	IV-e2	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				やや密	良	浅黄橙 褐灰 7.5YR/3 7.5YR/1	
395	081-06	G21	G20	S23	IV-e2	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐 7.5YR/4	
396	068-02	G21	G20	S23	IV-e2	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密	良	にぶい褐 10YR/3 にぶい黄橙 10YR/3	
397	076-03	G21	G20	S23	IV-e2	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密、砂粒含	良	灰黄褐 10YR/5.4/2	
398	065-01	G21	G20	S23	IV-e2	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ	押型文	ナデ		やや密	良	にぶい黄橙 10YR/3	
399	065-03	G21	G20	S23	IV-e2	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				やや密	良	にぶい褐 7.5YR/3	
400	079-06	G21	F20	S23	IV-e3	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密、微砂粒含	良	灰黄褐 10YR/2	
401	075-02	G21	G20	S23	IV-e3	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙 褐灰 10YR/5 10YR/2	
402	036-08	G21	F20	S23	IV-e3	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐 褐 7.5YR/3 7.5YR/3	
403	032-08	G21	F20	S23	IV-e3	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				やや密、砂粒含	良	にぶい褐 褐灰 7.5YR/3 7.5YR/1	
404	063-02	G21	G20	S23	IV-e3	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密、砂粒含	良	灰褐 灰黄褐 7.5YR/2 10YR/2	
405	062-06	G21	G20	S23	IV-e3	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐 7.5YR/3	
406	044-06	G21	F20	S23	IV-e3	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密、微砂粒含	良	灰褐 灰黄褐 7.5YR/2 10YR/2	

報告番号	実測番号	大中地区	小地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外.口縁部	内.口縁部	外.頸部	内.頸部	外.体部	内.体部	外.底部	内.底部	残存.口径(cm)	胎土	焼成	色調	備考
607	029-01	G21	F21	S23	IVa3	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密、砂粒含	良	褐灰	10YR4/1
608	051-06	G21	G20	S23	Va1	縄文土器	深鉢	キザミ	山形文	ナデ	楕円文	ナデ						密 砂粒含	良	にぶい褐 灰黄褐	7.5YR5/3 10YR5/2
609	007-02	G21	G20	S23	Va1	縄文土器	深鉢	キザミ	山形文	ナデ	楕円文	ナデ	押型文	ナデ	押型文	ナデ		やや密、微砂粒含	良	にぶい橙 褐灰	7.5YR6/4 10YR5/1
610	021-07	G21	F20	S23	Va1	縄文土器	深鉢	キザミ	山形文	ナデ								やや密、微砂粒含	良	にぶい赤褐	5YR5/4
611	004-03	G21	F20	S23	Va1	縄文土器	深鉢	キザミ	山形文	ナデ								密、砂粒含	良	灰褐	7.5YR5/2
612	004-05	G21	G20	S23	Va1	縄文土器	深鉢	キザミ	山形文	ナデ								密 砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR5/3
613	061-08	G21	G20	S23	Va1	縄文土器	深鉢	キザミ	山形文	ナデ								密 砂粒含	良	灰褐 にぶい褐	7.5YR4/2 7.5YR5/3
614	066-05	G21	G21	S23	Va2	縄文土器	深鉢	ナデ	楕円文	ナデ								やや密 砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい橙	10YR7/2 7.5YR7/3
615	052-02	G21	G21	S23	Va3	縄文土器	深鉢	キザミ	楕円文	ナデ								密 砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3
616	026-04	G21	F20	S23	Vb2	縄文土器	深鉢	ナデ	楕円文	ナデ								やや密	良	明赤褐 にぶい褐	2.5YR5/6 7.5YR6/3
617	067-03	G21	G21	S23	Vb3	縄文土器	深鉢	キザミ	楕円文	ナデ								やや密	良	にぶい橙	7.5YR6/4
618	019-05	G21	F20	S23	Vb3	縄文土器	深鉢	キザミ	楕円文	ナデ	楕円文	ナデ						やや密	良	にぶい橙 褐灰	7.5YR7/4 10YR4/1
619	049-06	G21	F20	S23	Vb4	縄文土器	深鉢	キザミ	楕円文	ナデ								やや密	良	にぶい褐 にぶい橙	7.5YR6/3 7.5YR7/4
620	021-03	G21	F20	S23	Vb2	縄文土器	深鉢	キザミ	楕円文	ナデ	楕円文	ナデ						やや密	良	にぶい褐	7.5YR6/3
621	025-01	G21	F20	S23	Vb2	縄文土器	深鉢	ナデ	楕円文	ナデ								密、砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR5/3
622	050-03	G21	G20	S23	Vb2	縄文土器	深鉢	ナデ	楕円文	ナデ								密 砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3
623	024-06	G21	G20	S23	Vb3	縄文土器	深鉢	ヨコナデ	斜格子目文	ナデ	斜格子目文	ナデ						密、砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR6/3
624	029-03	G21	F21	S23	Vc1	縄文土器	深鉢						山形文	ナデ				密、砂粒含	良	褐	7.5YR4/3
625	031-05	G21	F20	S23	Vc1	縄文土器	深鉢						山形文、楕円文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR6/3
626	020-03	G21	F20	S23	Vc1	縄文土器	深鉢						山形文、楕円文	ナデ				やや密	良	黒褐 にぶい褐	7.5YR3/2 7.5YR6/3
627	025-04	G21	F20	S23	Vc1	縄文土器	深鉢						山形文、楕円文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3
628	021-06	G21	F20	S23	Vc1	縄文土器	深鉢						山形文、楕円文	ナデ				やや密	良	灰褐	7.5YR4/2
629	046-04	G21	F19	S23	Vc2	縄文土器	深鉢						底縁文、楕円文	ナデ				密	良	にぶい黄橙 黄灰	10YR6/3 2.5Y5/1
630	071-03	G21	G20	S23	Vc3	縄文土器	深鉢						山形文	ナデ				やや密	良	にぶい褐	7.5YR5/3
631	067-04	G21	G21	S23	Vc4	縄文土器	深鉢						楕円文	ナデ				やや密	良	にぶい褐	7.5YR6/3
632	073-05	G21	G20	S23	Vc4	縄文土器	深鉢						楕円文	ナデ				密 微砂粒含	良	にぶい褐 にぶい橙	7.5YR5/3 7.5YR6/4
633	042-08	G21	G20	S23	Vc4	縄文土器	深鉢						楕円文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/4
634	054-08	G21	G21	S23	Vc4	縄文土器	深鉢						楕円文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/6
635	012-07	G21	G20	S23	Vc4	縄文土器	深鉢						楕円文	ナデ				密、微砂粒含	良	にぶい橙 灰黄褐	7.5YR6/4 10YR6/2

報告番号	実測番号	大地区	中地区	小地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外.口縁部	内.口縁部	外.頸部	内.頸部	外.体部	内.体部	外.底部	内.底部	残存.口径(cm)	胎土	焼成	色調		備考
436	052-01	G21	F20	S23	V-15	縄文土器	深鉢							斜格子目文	ナデ				密　砂粒含	良	黒褐	7.5YR3/1	
437	018-02	G21	F20	S23	V-15	縄文土器	深鉢							斜格子目文	ナデ				やや密、微砂粒含	良	にぶい橙	5YR6/4	
438	012-08	G21	G20	S23	V-16	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密、微砂粒含	良	灰黄褐 褐灰	10YR6/2 10YR4/1	
439	021-05	G21	F20	S23	V-16	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				やや密	良	にぶい赤褐	5YR5/4	
440	026-02	G21	F20	S23	V-16	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				やや密	良	褐灰 にぶい褐	7.5YR4/1 7.5YR5/3	
441	063-06	G21	G20	S23	V-16	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密　砂粒含	良	灰褐 にぶい橙	7.5YR4/2 7.5YR6/4	
442	029-01	G21	F20	S23	V-16	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				やや密	良	黒褐	5YR3/1	
443	022-02	G21	F20	S23	V-16	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				やや密	良	にぶい橙	5YR6/4	
444	020-04	G21	F20	S23	V-16	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ	押型文	オサエ、ナデ		やや密	良	にぶい橙	7.5YR6/4	
445	036-07	G21	F20	S23	V-16	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR5/3	
446	026-03	G21	F20	S23	V-16	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				やや密	良	にぶい橙	7.5YR6/4	
447	026-01	G21	F20	S23	V-16	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				やや密	良	にぶい橙	7.5YR6/4	
448	018-02	G21	F20	S23	V-16	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				やや密、砂粒含	良	灰褐 灰黄褐	7.5YR4/2 10YR6/2	
449	030-01	G21	F19	S23	V-16	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄褐	10YR5/3	
450	016-04	G21	F20	S23	V-16	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				やや密	良	灰褐 にぶい橙	7.5YR4/2 2.5YR7/4	
451	019-02	G21	F20	S23	V-16	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				やや密	良	にぶい橙	7.5YR6/4	
452	061-04	G23	G20	S23	V-17	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密　砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR5/4	
453	022-01	G21	F20	S23	V-17	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				やや密、砂粒含	良	にぶい褐 黒 にぶい橙	7.5YR6/3 N2/0 2.5YR7/4	
454	034-05	G21	F20	S23	V-18	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				やや密	良	橙	2.5YR6/6	
455	033-06	G21	F20	S23	V-18	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				やや密、微砂粒含	良	にぶい橙	5YR6/4	
456	011-05	G21	F19	S23	V-18	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密　砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/4	
457	038-08	G21	F20	S23	V-18	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				やや密、微砂粒含	良	にぶい橙	5YR6/4	
458	056-01	G21	G20	S23	V-21	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密　微砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい橙	10YR6/4 7.5YR6/4	
459	060-01	G21	G20	S23	V-21	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密　砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/4	
460	059-01	G21	G20	S23	V-21	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密　砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/4	
461	061-01	G21	G20	S23	V-21	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密　微砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR6/3	
462	059-03	G21	G20	S23	V-21	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密　砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR5/3	
463	059-05	G21	G20	S23	V-21	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密　砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/4	
464	060-08	G21	G20	S23	V-21	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密　砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/4	

報告番号	実測番号	大地区	中地区	小地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外.口縁部	内.口縁部	外.頸部	内.頸部	外.体部	内.体部	外.底部	内.底部	残存.口径(cm)	胎土	焼成	色調		備考
065	059-06	G21	G20	S23	V-01	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/4	
066	060-03	G21	G20	S23	V-01	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい橙	2.5YR6/4	
067	060-02	G21	G20	S23	V-01	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい褐	2.5YR6/3	
068	060-06	G21	G20	S23	V-01	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/4	
069	059-07	G21	G20	S23	V-01	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/4	
070	059-01	G21	G20	S23	V-01	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい橙	2.5YR6/4	
071	013-03	G21	G20	S23	V-01	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密、微砂粒含	良	にぶい褐	2.5YR6/3	
072	075-08	G21	G20	S23	V-01	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密 砂粒含	良	灰褐、褐灰 にぶい褐	7.5YR5/2, 4/1 7.5YR6/3	
073	013-02	G21	G20	S23	V-01	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密、微砂粒含	良	灰褐 にぶい橙	7.5YR5/2 7.5YR6/4	
074	014-04	G21	G23	S23	V-01	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐 にぶい橙	7.5YR5/3 7.5YR6/4	
075	076-02	G21	G20	S23	V-01	縄文土器	深鉢							楕円文	ナデ				密 砂粒含	良	明褐 にぶい橙	7.5YR5/8 7.5YR6/4	
076	018-05	G21	F20	S23	V-02	縄文土器	深鉢							格子目文	ナデ				中々密	良	灰褐	7.5YR4/2	
077	038-02	G21	F20	S23	V-02	縄文土器	深鉢							格子目文	ナデ				中々密	良	にぶい褐 褐灰 灰	7.5YR6/3 N4/0 N4/0	
078	018-08	G23	F20	S23	V-02	縄文土器	深鉢							格子目文	ナデ				中々密 微砂粒含	良	にぶい橙	2.5YR6/4	
079	033-01	G21	F20	S23	V-02	縄文土器	深鉢							格子目文	ナデ				中々密、微砂粒含	良	にぶい褐 にぶい褐	2.5YR5/3 7.5YR6/3	
080	028-05	G21	F23	S23	V-02	縄文土器	深鉢							格子目文	ナデ				中々密	良	にぶい橙 黒褐	2.5YR7/4 2.5YR3/2	
081	062-05	G21	G20	S23	V-02	縄文土器	深鉢							格子目文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3	
082	014-03	G21	G23	S23	V-03	縄文土器	深鉢							格子目文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR6/3	
083	023-07	G21	F23	S23	V-03	縄文土器	深鉢							格子目文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄褐	10YR5/3	
084	013-06	G21	F20	S23	V-03	縄文土器	深鉢							格子目文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい黄褐	10YR5/3	
085	032-03	G21	F19	S23	V-03	縄文土器	深鉢							格子目文	ナデ				中々密	良	にぶい橙	7.5YR7/4	
086	065-06	G21	G20	S23	V-03	縄文土器	深鉢							格子目文	ナデ				中々密	良	灰褐	7.5YR4/2	
087	079-04	G21	F20	S23	V-03	縄文土器	深鉢							格子目文	ナデ				密、微砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐	10YR5/2 10YR6/2	
088	021-02	G21	F20	S23	V-03	縄文土器	深鉢							格子目文	ナデ				中々密	良	灰褐	5YR4/2	
089	018-08	G21	F20	S23	V-03	縄文土器	深鉢							格子目文	ナデ				中々密	良	にぶい褐	7.5YR6/3	
090	039-02	G21	F20	S23	V-03	縄文土器	深鉢							格子目文	ナデ				中々密、微砂粒含	良	黒褐 にぶい橙	7.5YR3/1 7.5YR7/4	
091	042-02	G21	F19	S23	V-03	縄文土器	深鉢							格子目文	ナデ				密 砂粒含	良	10YR3/2 にぶい褐	7.5YR5/4	
092	047-03	G21	G20	S23	V-03	縄文土器	深鉢							格子目文	ナデ				中々密 微砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/4	

第IV-18表 土器等観察表17

報告番号	実測番号	大中地区	小地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	外、頸部	内、頸部	外、体部	内、体部	外、底部	内、底部	残存、口径(cm)	胎土	焼成	色調	備考
493	033-01	G21	F20	S23	V-d3	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密	良	にぶい橙 5YR6/4	
494	059-02	G21	G20	S23	V-d3	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR5/4	
495	048-09	G21	F20	S23	V-d3	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				やや密、微砂粒含	良	にぶい赤褐 5YR5/4 にぶい橙 7.5YR6/4	
496	053-06	G21	G20	S23	V-d3	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				やや密	良	にぶい橙 5YR6/4	
497	065-07	G21	G20	S23	V-d3	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				やや密、微砂粒含	良	にぶい橙 5YR6/4	
498	078-02	G21	G20	S23	V-d3	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密、微砂粒含	良	にぶい褐 7.5YR6/3 灰黄褐 10YR6/2	
499	048-07	G21	F20	S23	V-d3	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				やや密	良	にぶい橙 7.5YR6/4 橙 5YR6/6	
500	072-06	G21	G20	S23	V-d3	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				やや密	良	灰褐 7.5YR5/2 にぶい橙 7.5YR7/4	
501	033-08	G21	F20	S23	V-d3	縄文土器	深鉢						格子目文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR6/4	
502	045-01	G21	F20	S23	VIa1	縄文土器	深鉢	キザミ	楕円文	ナデ								密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	
503	079-03	G21	F20	S23	VIa2	縄文土器	深鉢	ナデ	楕円文	ナデ								密、微砂粒含	良	灰黄褐 10YR6/2 にぶい黄橙 10YR7/2	
504	053-02	G21	G20	S23	VIa1	縄文土器	深鉢	キザミ	楕円文	斜縄								やや密、微砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR7/4 褐灰 7.5YR5/1	
505	059-08	G21	G20	S23	VIb1	縄文土器	深鉢						楕円文、山形文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐 7.5YR5/4	
506	068-07	G21	G20	S23	VIb2	縄文土器	深鉢						山形文	ナデ				密、微砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR7/2 黒褐 2.5YR3/1	
507	067-05	G21	G20	S23	VIb2	縄文土器	深鉢						山形文	ナデ				やや密	良	灰褐 7.5YR4/2	
508	053-05	G21	F20	S23	VIb2	縄文土器	深鉢						山形文	ナデ				やや密	良	灰褐 7.5YR4/2 黒褐 2.5YR3/1	
509	031-01	G21	F20	S23	VIb2	縄文土器	深鉢						山形文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄褐 10YR5/3	
510	026-07	G21	F20	S23	IXa1	縄文土器	深鉢								押型文	ナデ		やや密	良	にぶい橙 10YR7/4 暗灰 10YR3/1 暗灰 10YR4/1	
511	044-08	G21	F20	S23	IXa1	縄文土器	深鉢								押型文	ナデ		密、砂粒含	良	暗灰 10YR5/1, 4/1	
512	035-09	G21	F20	S23	IXa1	縄文土器	深鉢								押型文	ナデ		密、砂粒含	良	にぶい黄褐 10YR5/3	
513	020-02	G21	F20	S23	IXa1	縄文土器	深鉢								押型文	ナデ		やや密	良	にぶい褐色 黒褐 7.5YR5/3 10YR3/1	
514	073-07	G21	G20	S23	VIIa1	縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ						やや密、微砂粒含	良	灰黄褐 10YR6/2	
515	024-03	G21	F21	S23	VIIb1	縄文土器	深鉢						ナデ	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐 7.5YR5/3	
516	024-01	G21	F21	S23	VIIa2	縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR6/3	
517	024-05	G21	F21	S23	VIIa3	縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	キザミ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐 7.5YR5/3	
518	024-02	G21	F21	S23	VIIa3	縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	キザミ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐 7.5YR6/3, 5/3	
519	010-04	G21	G21	S23	VIIa4	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				やや粗、砂粒、小石含	良	明赤褐 2.5YR5/6	
520	023-01	G21	F21	S23	VIIa4	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい赤褐 褐 5YR5/4 7.5YR4/3	
521	014-09	G21	G21	S23	VIIa4	縄文土器	深鉢						赤松文	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐 灰褐 7.5YR5/4 7.5YR5/2	

報告番号	実測番号	大地区	中地区	小地区	遺構	分類	種類	器種	口唇部	外.口縁部	内.口縁部	外.頸部	内.頸部	外.体部	内.体部	外.底部	内.底部	残存.口径(cm)	胎土	焼成	色調	備考
522	067-01	G21	F29	S23	VM43	縄文上部	深鉢							赤松文	ナデ				やや密 砂粒含	良	明赤褐	2.5YR5/6
523	067-07	G21	G23	S23	VM43	縄文上部	深鉢							赤松文	ナデ				やや密 砂粒含	良	明赤褐 灰褐	2.5YR5/6 5YR4/2
524	067-08	G21	G23	S23	VM43	縄文上部	深鉢							赤松文	ナデ				やや密 粗砂粒含	良	橙	5YR6/6
525	069-02	G23	G29	S23	VM42	縄文上部	深鉢							網目状文	ナデ				密 砂粒含	良	橙 灰褐	2.5YR6/2 2.5YR6/3
526	077-01	G21	H23	S23	VM42	縄文上部	深鉢							網目状文	ナデ				密 砂粒多含	良	にぶい橙	5YR6/4
527	077-02	G23	F29	S23	VM42	縄文上部	深鉢							網目状文	ナデ				密 砂粒含	良	にぶい赤褐	5YR5/4
528	040-08	G21	F29	S23	VM43	縄文上部	深鉢									木葉痕	ナデ		やや粗. 小石含	良	橙	5YR6/6
529	006-04	G21	G29	S21	VM43	縄文上部	深鉢									ナデ	ナデ		密. 砂粒含	良	灰黄褐	10YR5/2
530	074-05			排土		土製品	土偶?												密 砂粒含	良	橙 褐灰	7.5YR6/6 7.5YR5/1
531	083-01	G22	H7	焼丘		土師部	坑壁		ヨコナデ, ナデ, ヘラケズリ	ヨコナデ, ナデ, ヘラケズリ								口11/12 底6.0	密	良	にぶい黄橙	7.5YR6/4
532	084-03	G11	V17	包		瓦部	桶		ヨコナデ, ナデ, オサエ	ヨコナデ, ミガキ					切文			口11/12 底13.0	密	良	灰白	2.5YR/1
533	084-06	G21	G21	包		陶器部	桶									ロクロナデ, 高切糸	ロクロナデ, ナデ	底6/12 6.8	密	良	灰黄	2.5Y6/2
534	083-02	G22	S8	焼丘		陶器部	鉢									施釉, ロクロケズリ	施釉	底2/12 13.4	密	良	釉:にぶい黄 胎:にぶい黄	2.5Y6/3 2.5Y6/3
535	082-05	G22	W4	焼丘		陶器部	鉢		施釉	施釉						ロクロケズリ	施釉	底4/12 6.0	密	良	釉:灰白 胎:にぶい黄	10YR7/2 2.5Y6/3
536	082-01	G22	S8	焼丘		磁器	染付碗		施釉	施釉				施釉	施釉	施釉	施釉	口6/12 9.3, 5.3	密	良	釉:白 胎:灰黄	N9/0 2.5Y7/2
537	081-01	G22	H7	焼丘		磁器	染付碗							施釉	施釉	施釉	施釉	口6/12 10.9, 6.3	密	良	釉:灰白 胎:灰白	N8/0 N8/0
538	081-02			焼丘		磁器	染付碗		施釉	施釉				施釉	施釉	施釉	施釉	口4/12 11.2, 5.4	密	良	釉:灰白 胎:灰白	N8/0 N8/0
539	083-01	G22	H7	包		陶器部	鍋							ロクロケズリ	施釉			口11/12 14.8	密	良	釉:淡黄 胎:灰黄褐	2.5Y8/3 10YR6/2
540	083-03	G22	S7	焼丘		陶器部	壺		施釉	施釉								口12/12 16.0	密	良	釉:にぶい黄 胎:褐/赤褐	10YR6/3 5YR5/2
541	080-01			焼丘		磁器陶器部	壺							施釉	工具ナデ	工具ナデ	工具ナデ	口/12 底19.0	密	良	釉:灰白 胎:にぶい赤褐	10YR/2 2.5YR4/4
542	085-01	G21	G23	表採		石製品	水輪															

報告番号	実測番号	器種	分類	地区名	出土遺構	石質	残存状態	器長(cm)	器幅(cm)	器厚(cm)	重量(g)	その他
543	508-01	未製品		21G521-G20	SZ1	サヌカイト	中央部から基部	4.9	3.4	1.45	28.15	
544	508-02	未製品未製品		21G521-E19	SZ1	サヌカイト	中央部	5.5	2.75	0.96	17.25	
545	501-01	石鏃	1a	21G521-G20	SZ1	サヌカイト	完形	1.9	0.9	0.3	0.56	
546	501-05	石鏃	1a	25K	SZ1排土	サヌカイト	完形	2.2	1.3	0.19	0.43	
547	501-03	石鏃	1a	21G521-F20	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	1.9	1.0	0.3	0.49	
548	501-04	石鏃	1a	21G521-G20	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	1.7	1.1	0.35	0.49	
549	501-06	石鏃	1a	21G521-F19	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	2.0	1.1	0.19	0.38	
550	503-01	石鏃	1a	21G521-G20	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	2.8	1.7	0.3	1.12	
551	501-07	石鏃	1a	21G521-F20	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	2.0	1.5	0.33	0.78	
552	501-02	石鏃	1a	21G521-F19	SZ1	サヌカイト	完形	1.6	1.0	0.25	0.31	
553	502-05	石鏃	1a	21G521-G20	SZ1	サヌカイト	側縁欠損あり	1.6	1.3	0.22	0.46	
554	502-02	石鏃	1a	21G521-F20	SZ1	サヌカイト	完形	1.7	1.3	0.25	0.38	
555	502-01	石鏃	1a	21G521-F20	SZ1	サヌカイト	完形	1.95	1.0	0.25	0.31	
556	504-03	石鏃	1a	21G521-F19	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	2.3	1.4	0.34	0.99	
557	504-04	石鏃	1a	21G521-G20	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	2.0	1.3	0.4	1.18	
558	505-02	石鏃	1a	21G521-G21	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	1.6	1.2	0.3	0.41	
559	502-04	石鏃	1b	25K	SZ1排土	サヌカイト	完形	1.4	1.3	0.23	0.35	
560	504-01	石鏃	1b	21G521-G21	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	2.7	2.2	0.34	1.47	
561	503-03	石鏃	1c	21G521-G20	SZ1	サヌカイト	完形	2.3	1.7	0.23	0.72	
562	502-03	石鏃	1c	21G521-G20	SZ1	サヌカイト	完形	1.8	1.4	0.31	0.76	
563	504-02	石鏃	1c	21G521-G20	SZ1	サヌカイト	片脚端部欠失	2.3	1.7	0.3	0.93	
564	503-05	石鏃	1c	21G521-G20	SZ1	サヌカイト	完形	2.3	1.7	0.28	1.06	
565	505-04	石鏃	1c	25K	SZ1排土	サヌカイト	片脚端部欠失	1.75	1.2	2.0	0.44	
566	501-08	石鏃	1d	21G521-F20	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	2.3	2.1	0.25	0.74	
567	504-05	石鏃	1d	21G521-G20	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	2.3	1.9	0.35	1.04	
568	503-04	石鏃	1e	21G521-F20	SZ1	サヌカイト	完形	1.4	1.1	0.2	0.22	
569	503-02	石鏃	1e	21G521-G20	SZ1	サヌカイト	完形	3.7	1.7	0.48	2.86	
570	504-06	石鏃		21G521-F19	SZ1	サヌカイト	先端部欠失	0.9	1.4	0.25	0.29	
571	505-01	石鏃		21G521-G20	SZ1	サヌカイト	下部1/3残存	1.7	2.4	3.2	0.79	
572	505-03	石鏃		21G521-G20	SZ1	サヌカイト	先端部、片脚端部欠失	0.8	1.8	0.28	0.3	
573	507-01	石鏃	2	21G521-G20	SZ1	サヌカイト	完形	1.8	1.4	0.3	0.41	

第Ⅳ-21表　石器及び石製品観察表1

報告番号	実測番号	器種	分類	地区名	出土遺構	石質	残存状態	最長(cm)	最幅(cm)	最厚(cm)	重量(g)	その他
574	507-03	石鏃未製品		21G21-F20	SZ1	サヌカイト		1.6	1.0	0.3	0.39	
575	506-04	石鏃未製品		21G21-F20	SZ1	サヌカイト		2.3	1.6	4.0	1.05	
576	506-02	石鏃未製品		21G21-F20	SZ1	サヌカイト		3.6	1.8	7.5	4.24	
577	505-05	石鏃未製品		21G21-F21	SZ1	チャート		2.8	2.3	0.8	3.99	
578	506-03	石鏃未製品		25K	SZ1排土	サヌカイト		1.8	1.3	0.3	0.47	
579	505-06	石鏃未製品		21G21-G21	SZ1	サヌカイト		1.9	1.6	0.3	0.87	
580	507-04	石鏃未製品		21G21-G20	SZ1	サヌカイト		2.1	1.2	0.4	0.8	
581	507-02	石鏃未製品		21G21-F20	SZ1	サヌカイト		1.85	1.3	0.3	0.24	
582	506-01	石錐		21G21-G20	SZ1	サヌカイト	完形	3.5	2.1	0.5	2.76	香川県金山産
583	506-05	石錐		21G21-G20	SZ1	サヌカイト	完形	1.7	1.9	2.5	0.51	
584	507-05	石錐		25K	SZ1排土	サヌカイト	完形	1.6	1.2	3.5	0.44	
585	511-01	削器	1	21G21-G20	SZ1	サヌカイト		8.8	6.2	1.4	60.4	
586	513-01	削器	1	21G21-F19	SZ1	サヌカイト		8.2	5.1	1.1	38.9	
587	510-01	削器	1	21G21-F20	SZ1	サヌカイト		6.5	3.5	0.8	21.8	
588	512-01	削器	1	21G21-F19	SZ1	サヌカイト		6.4	4.7	1.05	35.0	
589	510-02	削器	2	21G21-F20	SZ1	サヌカイト		6.3	2.7	0.7	11.2	
590	519-02	削器	2	21G21-G20	SZ1	サヌカイト		5.3	3.6	0.7	6.7	
591	515-02	削器	2	21G21-F20	SZ1	サヌカイト		5.5	2.5	0.6	5.9	
592	521-01	削器	2	21G21-F20	SZ1	サヌカイト		5.3	2.6	0.6	5.3	
593	518-02	削器	2	21G21-G20	SZ1	サヌカイト		3.9	1.7	0.5	3.0	
594	513-02	削器	2	21G21-F20	SZ1	サヌカイト		6.0	2.0	0.6	6.5	
595	515-01	削器	2	21G21-G20	SZ1	サヌカイト		6.9	3.6	0.8	14.2	
596	512-02	削器	2	21G21-F21	SZ1	サヌカイト		5.0	3.6	1.1	9.6	
597	517-01	削器	2	21G21-G20	SZ1	サヌカイト		4.7	2.8	0.7	10.9	
598	516-02	削器	2	21G21-G20	SZ1	サヌカイト		3.9	2.8	0.6	5.4	
599	519-01	削器	2	21G21-G20	SZ1	サヌカイト		4.2	3.1	0.4	5.4	
600	517-02	削器	2	21G21-G20	SZ1	サヌカイト		4.4	1.6	0.5	2.8	
601	514-02	削器	3	21G21-F19	SZ1	サヌカイト		3.9	2.6	0.6	4.2	
602	520-01	削器	3	21G21-G20	SZ1	サヌカイト		3.7	2.2	0.8	5.6	
603	516-01	削器	3	21G21-F20	SZ1	サヌカイト		2.6	3.3	0.4	4.8	
604	514-01	削器	4	21G21-F19	SZ1	サヌカイト		4.4	6.6	0.7	17.1	

第Ⅳ-22表　石器及び石製品観察表2

報告番号	実測番号	器種	分類	地区名	出土遺構	石質	残存状態	最長(cm)	最幅(cm)	最厚(cm)	重量(g)	その他
605	520-02	削器	4	2IG621-G20	SZ1	サヌカイト		2.8	4.9	0.6	7.7	
606	518-01	削器	4	2IG621-G20	SZ1	サヌカイト		2.5	4.5	0.5	6.0	
607	509-01	RF		2IG621-F19	SZ1	サヌカイト		5.9	2.8	0.8	11.47	
608	532-01	RF		2IG621-F19	SZ1	サヌカイト		3.7	3.5	0.6	9.6	
609	531-02	RF		2IG621-G20	SZ1	サヌカイト		3.6	1.4	0.5	1.9	
610	533-03	RF		2IG621-G21	SZ1	サヌカイト		3.5	1.3	0.7	2.7	
611	533-02	RF		2IG621-F20	SZ1	サヌカイト		2.3	2.4	0.4	1.8	
612	531-04	RF		2IG621-F20	SZ1	サヌカイト		2.2	1.6	0.5	1.3	
613	533-01	RF		2IG621-F19	SZ1	サヌカイト		2.8	1.5	0.5	1.5	
614	532-04	RF		2IG621-F19	SZ1	サヌカイト		1.3	1.9	0.4	0.9	
615	532-02	RF		2IG621-G20	SZ1	サヌカイト		1.6	1.3	0.2	0.5	
616	532-03	RF		2IG621-F19	SZ1	サヌカイト		1.7	1.8	0.4	1.0	
617	531-01	RF		2IG621-G20	SZ1	サヌカイト		1.6	1.5	0.3	0.6	
618	531-03	RF		2IG621-F19	SZ1	サヌカイト		2.0	1.6	0.5	1.25	
619	537-02	UF		2IG621-G20	SZ1	サヌカイト		4.4	7.3	1.1	23.7	
620	537-01	UF		2IG621-F20	SZ1	サヌカイト		5.3	4.9	0.4	9.3	
621	536-03	UF		2IG621-G20	SZ1	サヌカイト		4.3	3.9	0.5	6.1	
622	536-04	UF		2IG621-F20	SZ1	サヌカイト		2.2	4.2	0.7	4.8	
623	536-02	UF		2IG621-F20	SZ1	サヌカイト		4.5	4.1	0.8	11.0	
624	535-04	UF		2IG621-F19	SZ1	サヌカイト		3.5	3.5	1.5	16.1	
625	534-04	UF		2IG621-G20	SZ1	サヌカイト		3.3	4.1	0.5	6.1	
626	534-02	UF		2IG621-F20	SZ1	サヌカイト		3.6	4.5	0.4	6.2	
627	535-03	UF		2IG621-F19	SZ1	サヌカイト		3.1	3.4	0.7	7.3	
628	521-02	UF		2IG621-G20	SZ1	サヌカイト		2.4	2.9	0.4	2.3	
629	536-01	UF		2IG621-G20	SZ1	サヌカイト		3.4	3.0	0.5	3.8	
630	534-03	UF		2IG621-F19	SZ1	サヌカイト		2.4	2.2	0.6	2.0	
631	535-01	UF		2IG621-F19	SZ1	サヌカイト		1.8	3.2	0.5	2.9	
632	534-01	UF		2IG621-G20	SZ1	サヌカイト		2.5	3.3	0.5	3.3	
633	533-04	UF		2IG621-F20	SZ1	サヌカイト		5.5	2.6	0.7	8.9	
634	535-02	UF		2IG621-G20	SZ1	サヌカイト		2.4	2.2	0.2	1.1	
635	522-02	楔形石器	1	2IG621-G20	SZ1	サヌカイト		2.6	2.7	0.8	5.8	

第Ⅳ-23表　石器及び石製品観察表3

報告番号	実測番号	器種	分類	地区名	出土遺構	石質	残存状態	最長(cm)	最幅(cm)	最厚(cm)	重量(g)	その他
636	528-01	楔形石器	1	25K	SZ1排土	サヌカイト		2.8	3.3	0.5	4.77	
637	530-04	楔形石器	1	21SG21-F20	SZ1	サヌカイト		2.55	3.05	0.87	5.65	
638	529-06	楔形石器	1	21SG21-G20	SZ1	サヌカイト		1.18	3.18	0.9	4.05	
639	530-02	楔形石器	1	21SG21-F19	SZ1	サヌカイト		1.82	3.6	0.5	2.25	
640	526-02	楔形石器	2	21SG21-F20	SZ1	サヌカイト		4.4	1.3	0.8	5.6	
641	527-02	楔形石器	2	21SG21-F20	SZ1	サヌカイト		2.9	1.2	0.7	2.8	
642	525-01	楔形石器	2	21SG21-F19	SZ1	サヌカイト		2.6	1.2	0.6	1.7	
643	522-01	楔形石器	2	21SG21-G20	SZ1	サヌカイト		2.3	1.5	0.6	2.1	
644	523-01	楔形石器	2	21SG21-F21	SZ1	サヌカイト		3.6	2.3	1.0	7.0	
645	530-03	楔形石器	2	21SG21-G20	SZ1	サヌカイト		3.5	2.9	0.9	8.5	
646	524-01	楔形石器	2	21SG21-F19	SZ1	サヌカイト		2.5	2.0	0.9	4.9	
647	525-04	楔形石器	2	21SG21-G21	SZ1	サヌカイト		2.7	2.4	1.0	7.5	
648	529-02	楔形石器	2	25K	SZ1排土	サヌカイト		3.5	2.8	0.9	7.85	
649	526-01	楔形石器	2	21SG21-F19	SZ1	サヌカイト		2.0	2.3	0.9	4.9	
650	525-03	楔形石器	2	21SG21-F20	SZ1	サヌカイト		2.0	2.6	0.9	3.8	
651	526-03	楔形石器	2	21SG21-F20	SZ1	サヌカイト		2.4	2.9	0.9	6.7	
652	522-03	楔形石器	2	21SG21-F20	SZ1	サヌカイト		2.6	4.0	0.9	8.9	
653	530-01	楔形石器	2	21SG21-F20	SZ1	サヌカイト		2.4	4.5	1.25	10.9	
654	526-04	楔形石器	2	21SG21-G20	SZ1	サヌカイト		4.7	4.3	1.3	23.4	
655	525-02	楔形石器	2	21SG21-F20	SZ1	サヌカイト		2.5	2.8	0.6	3.9	
656	523-04	楔形石器	2	21SG21-F21	SZ1	サヌカイト		2.5	3.7	0.6	5.4	
657	523-03	楔形石器	2	21SG21-F20	SZ1	サヌカイト		2.0	2.5	0.6	2.8	
658	524-03	楔形石器	3	21SG21-F20	SZ1	サヌカイト		3.2	1.8	1.3	7.2	
659	527-04	楔形石器	3	21SG21-G20	SZ1	サヌカイト		3.3	2.0	0.8	4.8	
660	528-04	楔形石器	3	21SG21-G20	SZ1	サヌカイト		2.5	1.7	0.8	4.5	
661	529-01	楔形石器	3	21SG21-G20	SZ1	サヌカイト		2.4	1.45	0.88	2.92	
662	529-05	楔形石器	3	21SG21-F19	SZ1	サヌカイト		2.4	1.47	4.5	2.25	
663	529-03	楔形石器	3	21SG21-F20	SZ1	チャート		1.65	1.7	0.45	1.32	
664	529-04	楔形石器	3	21SG21-G21	SZ1	サヌカイト		3.55	3.2	7.2	9.69	
665	523-02	楔形石器	3	21SG21-F19	SZ1	サヌカイト		3.1	3.2	1.1	12.1	
666	527-03	楔形石器	3	21SG21-F20	SZ1	サヌカイト		2.0	1.9	0.5	2.4	

第Ⅳ-24表　石器及び石製品観察表4

報告番号	実測番号	器種	分類	地区名	出土遺構	石質	残存状態	最長(cm)	最幅(cm)	最厚(cm)	重量(g)	その他
667	522-04	楔形石器	3	21GG21-F19	SZ1	サヌカイト		1.9	2.2	1.0	4.2	
668	528-03	楔形石器	3	21GG21-G20	SZ1	サヌカイト		1.7	2.2	0.4	2.21	
669	524-02	楔形石器	3	21GG21-F20	SZ1	サヌカイト		1.9	2.0	0.9	3.6	
670	527-01	楔形石器	3	21GG21-F19	SZ1	サヌカイト		1.6	2.8	0.7	4.3	
671	528-02	楔形石器	3	21GG21-F20	SZ1	サヌカイト		2.5	3.65	0.5	4.34	
672	524-04	楔形石器	4	21GG21-E19	SZ1	サヌカイト		2.4	4.7	0.9	11.0	
673	538-01	石核		21GG21-G20	SZ1	サヌカイト		4.7	3.8	1.1	23.0	
674	538-02	石核		21GG21-F19	SZ1	サヌカイト		2.8	2.4	1.1	9.7	
675	540-01	打製石斧		21GG21-G21	SZ1	泥質片岩	刃部1/2欠失	10.3	5.3	2.1	111.9	
676	541-01	礫器		25K	SZ1排土	斑レイ岩		13.9	10.6	5.0	1144.0	
677	542-02	礫器		21GG21-G20	SZ1	斑レイ岩		9.7	7.0	3.1	309.6	
678	543-02	礫器		25K	SZ1排土	斑レイ岩		9.5	6.1	2.8	207.1	
679	544-01	礫器		21GG21-G21	SZ1	斑レイ岩		10.8	11.9	6.4	944.0	
680	542-01	礫器		21GG21-F20	SZ1	斑レイ岩		9.7	12.3	5.8	756.0	
681	543-01	礫器		21GG21-F19	SZ1	斑レイ岩		8.3	11.6	4.6	438.0	
682	541-02	礫器		21GG21-G20	SZ1	斑レイ岩		8.4	10.2	3.4	310.3	
683	540-02	削器		21GG21-F20	SZ1	斑レイ岩		8.3	5.4	1.5	62.1	礫素材
684	540-04	削器		21GG21-F20	SZ1	斑レイ岩		9.9	6.0	1.6	108.3	礫素材
685	540-03	楔形石器		21GG21-G20	SZ1	斑レイ岩		5.6	7.9	1.1	56.2	礫素材
686	545-01	磨石		21GG21-F20	SZ1	砂岩	完形	12.7	9.4	6.1	1097	
687	549-01	磨石		21GG21-G20	SZ1	砂岩	完形	10.7	7.7	4.6	559	
688	546-03	磨石		21GG21-F19	SZ1	砂岩	約2/3	8.9	8.4	4.3	445	
689	549-02	磨石		25K	SZ1排土	砂岩	約1/2	7.8	8.0	4.6	438	
690	546-04	磨石		21GG21-F20	SZ1	砂岩	約1/4	4.7	5.9	4.6	141	
691	546-02	磨石		21GG21-F19	SZ1	砂岩	約1/2	7.0	7.0	3.7	283	
692	550-01	磨石		21GG21-G20	SZ1	砂岩	約1/2	7.3	8.5	4.3	370	
693	547-04	磨石		25K	SZ1排土	砂岩	約1/3	8.0	6.3	3.0	176	
694	550-03	磨石		25K	SZ1排土	砂岩	約1/2	4.8	8.5	3.5	194	
695	548-01	磨石		21GG21-F20	SZ1	砂岩	約1/3	9.1	8.0	5.3	336	
696	551-01	磨石		21GG21-F20	SZ1	花崗岩	約1/4	7.1	6.3	6.2	365	
697	550-04	磨石		21GG21-G20	SZ1	砂岩	片面約1/2	10.7	6.8	2.7	245	

第Ⅳ-25表　石器及び石製品観察表5

報告番号	実測番号	器種	分類	地区名	出土遺構	石質	残存状態	最長(cm)	最幅(cm)	最厚(cm)	重量(g)	その他
698	550-02	磨石		2DG21-G20	SZ1	砂岩	約1/2	6.5	8.2	6.0	460	
699	547-02	磨石		2DG21-F20	SZ1	砂岩	一部欠失	11.1	9.2	7.0	1025	
700	553-02	磨石		2DG21-G20	SZ1	砂岩	完形	11.5	10.2	4.3	710	
701	547-03	磨石		2DG21-F20	SZ1	砂岩	約1/2	6.8	9.8	4.1	387	
702	545-02	磨石		2DG21-F19	SZ1	砂岩	約1/2	5.2	7.5	4.6	236	
703	547-01	磨石		2DG21-F20	SZ1	砂岩	約1/3	9.1	4.4	4.7	173	
704	551-02	磨石		2DG21-F20	SZ1	砂岩	片面一部	6.2	6.8	1.8	68	
705	546-01	磨石		2DG21-F19	SZ1	花崗岩	完形	8.6	7.0	5.5	446	
706	552-02	磨石		2DG21-F20	SZ1	斑レイ岩	一部	9.8	5.0	5.3	363	
707	554-02	敲石		2DG21-F20	SZ1	緑泥片岩	約2/3	14.9	4.4	2.1	216	
708	553-01	敲石		2DG21-G20	SZ1	斑レイ岩	完形	11.8	6.4	4.5	510	
709	548-02	敲石		2DG21-G20	SZ1	斑レイ岩	完形	7.3	9.1	6.6	738	
710	554-01	敲石		2DG21-F20	SZ1	花崗岩	約1/2	7.8	6.8	5.9	447	
711	551-03	石皿		2DG21-G20	SZ1	斑レイ岩	一部	13.6	8.6	6.1	1011	
712	552-01	石皿		2DG21-G21	SZ1	斑レイ岩	一部	13.8	12.5	5.7	1318	
713	555-01	石皿		2DG21-G20	SZ1	斑レイ岩	約1/2	13.7	14.5	6.6	1981	
714	556-01	台石		2DG21-F20	SZ1	斑レイ岩	完形	37.8	28.5	9.7	14400	
715	557-01	台石		2DG21-F19	SZ1	斑レイ岩	完形	35.6	31.4	11.5	17000	
716	539-01	石製品		2DG21-G20	SZ1	砂岩	完形	3.3	2.7	0.4	6.2	垂飾

第Ⅳ-26表　石器及び石製品観察表６

Ⅴ 自然科学分析

1　土器付着炭化物の放射性炭素年代測定

(1) はじめに

三重県津市の多気北畠氏遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

(2) 試料と方法

試料は、土器付着炭化物6点である。試料No.1（遺物No.A：PLD-46986, 報155）、試料No.2（遺物No.C：PLD-46987, 報151）、試料No.3（遺物No.E：PLD-46988, 報146）、試料No.5（遺物No.H：PLD-46990, 報64）、試料No.4（遺物No.G：PLD-46989, 報45）、試料No.6（遺物No.5-15：PLD-46991, 報136）はSZ1から出土した土器の付着炭化物で、試料No.1とNo.2は胴部外面、試料No.3とNo.6はロ縁部外面、試料No.4とNo.5は胴上半部外面から採取した。

測定試料の情報、調製データは第Ⅴ-1表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

(3) 結果

第Ⅴ-2表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代、第Ⅴ-2図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.27%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-46986 報155	試料No.1 調査区：25C 位置：G21-F20 層位：SZ1 遺物No.A	種類：土器付着物（胴部外面） 状態：dry ガス化重量：5.68mg 炭素含有率：55.78%	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） 処理備考：状態悪い？
PLD-46987 報151	試料No.2 調査区：25C 位置：G21-F20 層位：SZ1 遺物No.C	種類：土器付着物（胴部外面） 状態：dry ガス化重量：5.38mg 炭素含有率：59.57%	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L）
PLD-46988 報146	試料No.3 調査区：25C 位置：G21-F19 層位：SZ1 遺物No.E	種類：土器付着物（口縁部外面） 状態：dry ガス化重量：4.58mg 炭素含有率：44.81%	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L）
PLD-46989 報64	試料No.4 調査区：25C 位置：G21-E19 層位：SZ1 遺物No.G	種類：土器付着物（胴上半部外面） 状態：dry ガス化重量：4.20mg 炭素含有率：20.71%	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L）
PLD-46990 報45	試料No.5 調査区：25C 位置：G21-F19 層位：SZ1 遺物No.H	種類：土器付着物（胴上半部外面） 状態：dry ガス化重量：4.85mg 炭素含有率：38.76%	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L）
PLD-46991 報136	試料No.6 調査区：25C 位置：G21-E19 層位：SZ1 遺物No.5-15	種類：土器付着物（口縁部外面） 状態：dry ガス化重量：4.08mg 炭素含有率：10.17%	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L）

第Ⅴ-1表　測定試料および処理

動、および半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正には0xCal4.4（較正曲線データ：IntCal20）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、0xCal の確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.27%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.45%信頼限界の暦年代範囲で

写真1　試料No.1（遺物No.A）採取箇所

写真2　試料No.2（遺物No.C）採取箇所

写真3　試料No.3（遺物No.E）採取箇所

写真4　試料No.4（遺物No.G）採取箇所

写真5　試料No.5（遺物No.H）採取箇所

写真6　試料No.6（遺物No.5-15）採取箇所

第Ⅴ-1図　試料No.1～6（1は155、2は151、3は146、4は64、5は45、6は136）

ある。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

(4) 考察

放射性炭素年代測定の結果について、^{14}C年代と2σ暦年代範囲（確率95.45%）に着目して整理する。試料No.1（遺物No.A：PLD-46986）は、^{14}C年代が9585±30 ^{14}C BPで、2σ暦年代範囲が9187-9179 cal BC（0.61%）および9160-8802 cal BC（94.84%）を示した。試料No.2（遺物No.C：PLD-46987）は、14C年代が9545±30 14C BPで、2σ暦年代範囲が9126-8975 cal BC（48.93%）および8932-8759 cal BC（46.52%）を示した。試料No.3（遺物No.E：PLD-46988）は、^{14}C年代が9565±30 ^{14}C BPで、2σ暦年代範囲が9141-8957 cal BC（50.64%）および8954-8784 cal BC（44.81%）を示した。試料No.4（遺物No.G：PLD-46989）は、^{14}C年代が9520±30 14C BPで、2σ暦年代範囲が9123-8995 cal BC（42.82%）および8927-8739 cal BC（52.63%）を示した。試料No.5（遺物No.H：PLD-46990）は、^{14}C年代が9505±30 ^{14}C BPで、2σ暦年代範囲が9120-9071 cal BC（13.80%）、9066-9003 cal BC（19.52%）、8922-8898 cal BC（2.98%）、8868-8707 cal BC（57.84%）、8668-8652 cal BC（1.31%）を示した。試料No.6（遺物No.5-15：PLD-46991）は、^{14}C年代が9340±35 ^{14}C BPで、2σ暦年代範囲が8728-8725 cal BC（0.24%）、8712-8539 cal BC（87.71%）、8513-8478 cal BC（7.51%）を示した。

縄文時代の土器型式と暦年代の関係について小林（2017）を参照すると、試料No.1～No.5の^{14}C年代は9500 ^{14}C BP 台、試料No.6は9300 ^{14}C BP 台で、いずれも縄文時代早期前葉に相当する。

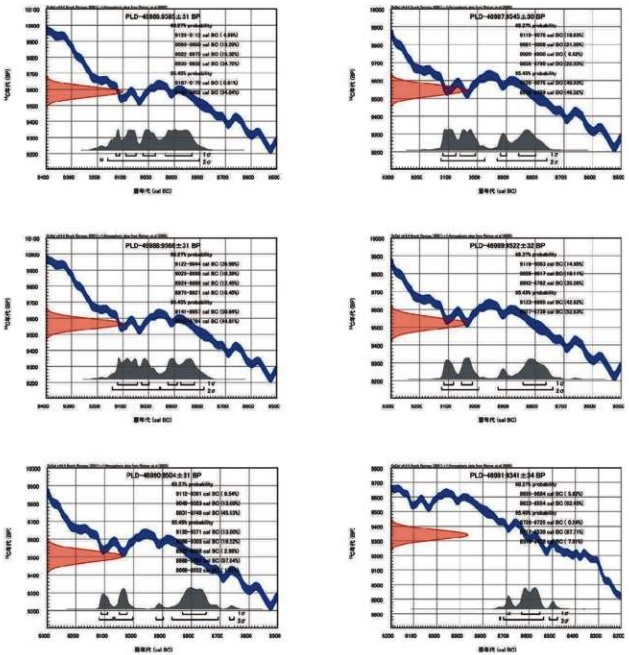
土器付着炭化物の場合、土器内面に付着する炭化物は主に煮炊きされた食物に由来し、土器外面に付着する炭化物は、口縁部であれば主に内容物の吹きこぼれ、胴部から底部であれば主に燃料材の煤に由来する可能性が高い。特に、煮炊きした内容物が海産物を主としていた場合、海洋リザーバー効果によっ

測定番号	δ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-46986 試料No.1 遺物No.A 報155	-27.47±0.13	9585±31	9585±30	9128-9112 cal BC (4.95%) 9090-9050 cal BC (13.29%) 9022-8975 cal BC (15.32%) 8936-8832 cal BC (34.72%)	9187-9179 cal BC (0.61%) 9160-8802 cal BC (94.84%)
PLD-46987 試料No.2 遺物No.C 報151	-25.11±0.16	9545±30	9545±30	9119-9075 cal BC (18.63%) 9061-9008 cal BC (21.09%) 8920-8900 cal BC (6.52%) 8856-8798 cal BC (22.03%)	9126-8975 cal BC (48.93%) 8932-8759 cal BC (46.52%)
PLD-46988 試料No.3 遺物No.E 報146	-26.27±0.20	9566±31	9565±30	9122-9044 cal BC (26.98%) 9028-8998 cal BC (10.39%) 8924-8888 cal BC (12.45%) 8876-8821 cal BC (18.45%)	9141-8957 cal BC (50.64%) 8954-8784 cal BC (44.81%)
PLD-46989 試料No.4 遺物No.G 報64	-26.67±0.18	9522±32	9520±30	9116-9083 cal BC (14.90%) 9055-9017 cal BC (18.11%) 8842-8762 cal BC (35.26%)	9123-8995 cal BC (42.82%) 8927-8739 cal BC (52.63%)
PLD-46990 試料No.5 遺物No.H 報45	-26.93±0.13	9504±31	9505±30	9112-9091 cal BC (8.54%) 9049-9023 cal BC (13.80%) 8831-8749 cal BC (45.93%)	9120-9071 cal BC (13.80%) 9066-9003 cal BC (19.52%) 8922-8898 cal BC (2.98%) 8868-8707 cal BC (57.84%) 8668-8652 cal BC (1.31%)
PLD-46991 試料No.6 遺物No.5-15 報136	-32.52±0.15	9341±34	9340±35	8695-8684 cal BC (5.82%) 8633-8554 cal BC (62.45%)	8728-8725 cal BC (0.24%) 8712-8539 cal BC (87.71%) 8513-8478 cal BC (7.51%)

第Ⅴ-2表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

て、測定結果が実際よりも古い年代を示す可能性がある。今回の試料の炭素同位体比（δ^{13}C）は-32～-25‰で（第Ⅴ-2表）、陸生の値を示しており（吉田，2012）、測定結果は海洋リザーバー効果の影響は受けていないと考えられる。ただし、δ^{13}Cの値は、正確には同位体比質量分析計（IRMS）の測定値で検討する必要がある。今回の試料は、加速器質量分析計（AMS）の測定値であるため、参考に留めておく必要がある。

また、試料の炭素含有率をみると、試料No.1およびNo.2では50%を超えているのに対し、試料No.3～No.6では50%を下回っている（第Ⅴ-1表）。土器付着炭化物の通常の炭素含有率は50～60%とされ（小林，2017）、炭素含有量が低い試料については、土器胎土や埋没土壌に含まれる鉱物に由来する起源の古い微量の炭素の影響を受け、数百^{14}C 年程度、相対的に古い年代値を示す場合がある（小林，2017）。したがって、特に炭素含有量が40%より低い試料の年



第Ⅴ-2図　暦年較正結果

代値の評価には、注意を要する。

(パレオ・ラボAMS年代測定グループ 伊藤茂・加藤和浩・廣田正史・佐藤正教・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・三谷智広)

2 土器付着炭化物の炭素・窒素安定同位体比分析

(1) はじめに

三重県津市の多気北畠氏遺跡から出土した土器より採取した付着炭化物の起源物質を推定するために、炭素と窒素の安定同位体比を測定した。また、炭素含有量と窒素含有量を測定して試料のC/N比を求めた。

(2) 試料および方法

試料は、遺物No.8-9(報516)の口縁部内面から採取した付着炭化物、遺物No.N(報14)の胴部内面から採取した付着炭化物の、計2点である。

試料の情報は、第V-3表のとおりである。測定を実施するにあたり、試料に対して、超音波洗浄、アセトン洗浄および酸・アルカリ・酸洗浄を施して試料以外の不純物を除去した。炭素含有量および窒素含有量の測定には、EA（ガス化前処理装置）であるFlash EA1112 (Thermo Fisher Scientific社製）を用いた。スタンダードは、アセトニトリル（キシダ化学製）を使用した。炭素安定同位体比（δ13CPDB）および窒素安定同位体比（δ15NAir）の測定には、質量分析計DELTA V (Thermo Fisher Scientific社製）を用いた。スタンダードは、炭素安定同位体比にはIAEA Sucrose (ANU)、窒素安定同位体比にはIAEA N1を使用した。

測定は、次の手順で行った。スズコンテナに封入した試料を、超高純度酸素と共に、EA内の燃焼炉に落とし、スズの酸化熱を利用して高温で試料を燃焼、ガス化させ、酸化触媒で完全酸化させる。次に還元カラムで窒素酸化物を還元し、水を過塩素酸マグネシウムでトラップ後、分離カラムでCO_2とN_2を分離し、TCDでそれぞれ検出・定量を行う。この時の炉および分離カラムの温度は、燃焼炉温度1000℃、還元炉温度680℃、分離カラム温度35℃である。分離したCO_2およびN_2はそのままHeキャリアガスと共にインターフェースを通して質量分析計に導入し、安定同位体比を測定した。得られた炭素含有量と窒素含有量に基づいてC/N比を算出した。

(3) 結果

第V-3表に、炭素安定同位体比、窒素安定同位体比、炭素含有量、窒素含有量、C/N比を示す。なお、遺物No.Nの窒素安定同位体比については、検出できた窒素含有量が少なく、適正出力が得られなかったため、同出力での安定同位体比既知のスタンダード試料にて補正を行っており、通常よりもバラツキが大きくなっていると予想される。第V-4図に炭素安定同位体比と窒素安定同位体比の関係、第V - 5図に炭素安定同位体比とC/N比の関係を示した。

第V-4図において、遺物No.8-9の土器付着炭化物はC_4植物・草食動物付近のやや炭素・窒素安定同位体比が高い位置に、遺物No.Nの土器付着炭化物はC3植物・草食動物の位置にプロットされた。

第V-5図において、遺物No.8-9の土器付着炭化物はC_4植物・草食動物の位置に、遺物No.Nの土器付着炭化物はC_4植物・草食動物付近のややC/N比が低い位置にプロットされた。

(4) 考察

遺物No.8-9の土器付着炭化物は、第V-4図でC_4植物・草食動物付近のやや炭素・窒素安定同位体比が高い位置、第V-5図でC_4植物・草食動物の位置にプロットされ、概ねC_4植物・草食動物に由来する炭化物と推定される。遺物No.Nの土器付着炭化物は、第V-4図でC_3植物・草食動物の位置、第V-5図でC_3植

試料番号	試料情報	$\delta^{13}C_{PDB}$ (‰)	$\delta^{15}N_{Air}$ (‰)	炭素含有量 (%)	窒素含有量 (%)	C/N比 (モル比)
遺物No.8-9 報516	種類：土器付着炭化物 採取箇所：口縁部内面	-22.8	7.34	33.1	3.97	9.72
遺物No.N 報14	種類：土器付着炭化物 採取箇所：胴部内面	-24.4	2.96	1.24	0.299	4.84

第V-3表　試料情報および結果一覧表

写真1　遺物No. N　採取箇所

写真2　遺物No. 8-9　採取箇所

第Ⅴ-3図　試料採取箇所

物・草食動物付近のややC/N比が低い位置にプロットされ、C₄植物・草食動物に由来する炭化物と推定される。

（パレオ・ラボ　山形秀樹・三谷智広）

引用・参考文献

1 土器付着炭化物の放射性炭素年代測定

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

小林謙一（2017）縄紋時代の実年代－土器型式編年と炭素14 年代－. 263p. 同成社.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の14C年代編集委員会編「日本先史時代の14C年代」；3-20, 日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Buntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Kohler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41, https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41 (cited 12 August 2020)

吉田邦夫（2012）古食性分析（縄文人の食卓）. 吉田邦夫編「アルケオメトリア：考古遺物と美術工芸品を科学の眼で透かし見る」：44-55, 東京大学総合博物館.

2 土器付着炭化物の炭素・窒素安定同位体比分析

赤澤　威・南川雅男（1989）炭素・窒素同位体比に基づく古代人の食生活の復元. 田中　琢・佐原　眞編「新しい研究法は考古学になにをもたらしたか」：132-143, クバプロ.

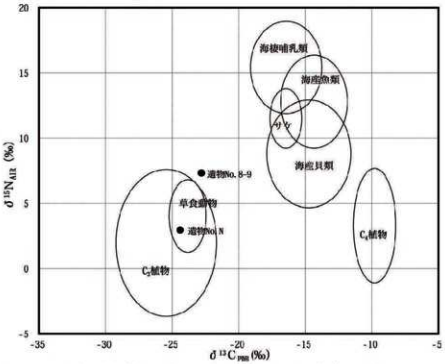
坂本　稔（2007）安定同位体比に基づく土器付着物の分析. 国立歴史民俗博物館研究報告, 137, 305-315.

米田　穣（2008）丸根遺跡出土土器付着炭化物の同位体分析. 豊田市郷土資料館編「丸根遺跡・丸根城跡」：261-263, 豊田市教育委員会.

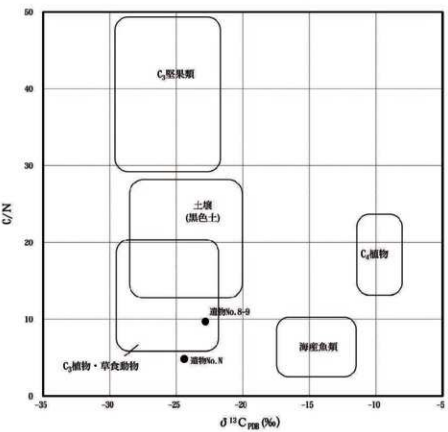
Yoneda, M., Hirota, M., Uchida, M., Tanaka, A., Shibata, Y., Morita, M. and Akazawa, T. (2002) Radiocarbon and stable isotope analyses on the Earliest Jomon skeletons from the Tochibara rockshelter, Nagano, Japan. Radiocarbon, 44(2), 549-557.

吉田邦夫・宮崎ゆみ子（2007）煮炊きして出来た炭化物の同位体分析による土器付着炭化物の由来についての研究. 平成16-18年度科学研究補助金基礎研究B（課題番号16300290）研究報告書研究代表者西田泰民「日本における稲作以前の主食植物の研究」, 85-95.

吉田邦夫・西田泰民（2009）考古科学が探る火炎土器. 新潟県立歴史博物館編「火焔土器の国　新潟」：87-99, 新潟日報事業社.



第Ⅴ-4図　炭素・窒素安定同位体比（吉田・西田(2009)に基づいて作製）



第Ⅴ-5図　炭素安定同位体比とC/N比の関係（吉田・西田(2009)に基づいて作製）

Ⅵ 結　語

多気北畠氏遺跡第39次・小田地区第６次（以後、「多気北畠氏39次」と表記する。）の発掘調査では、調査区内の範囲であるが、北畠氏が活動していた時期に関連する遺構は確認していない。また、縄文時代の遺構についてもSZ1（落ち込み）を確認するにとどまっている。そのため、遺構に関する検討は略したいと思う。ここでは、縄文時代の出土土器群及び石器群等について検討を進め、結語としたい。

１　出土縄文土器群の検討

ここでは、押型文前半期より以前と押型文前半期の土器群を対象としていく。多気北畠氏39次出土資料を、Ⅰ類：撚糸文系土器期、Ⅱ類：縄文系土器期、押型文系土器をⅢ類：大鼻式期，Ⅳ類：大川式期，Ⅴ類：神宮寺式期，Ⅵ類：神並上層式期に分別し、検討を進めていきたいと思う。

(1) 統計結果

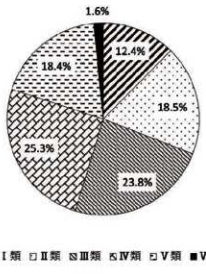
a　土器分類

多気北畠氏39次出土の縄文土器を、Ⅰ類からⅨ類まで分類した。各類を、施文や調整、器形、口縁部・頭部から体部・底部の部位により細分している。

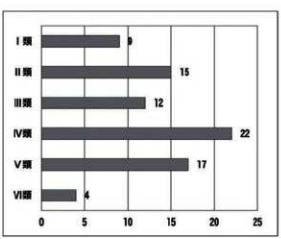
各類が占める比率は、Ⅰ類は11.9%(63点)、Ⅱ類は17.8%(94点)、Ⅲ類は22.9%(121点)、Ⅳ類は24.4%(129点)、Ⅴ類は17.8%(94点)、Ⅵ類は1.5%(８点)、Ⅶ類は0.9%(５点)、Ⅷ類は2.1%(11点)、Ⅸ類は0.7%(４点)であった。最も多かったのは、Ⅳ類、次いでⅢ類、Ⅱ類とⅤ類となる。

また、撚糸文系土器と縄文系土器、押型文前半期の型式がわかるものに限定すると、Ⅰ類は12.4%(63点)、Ⅱ類は18.5%(94点)、Ⅲ類は23.8%(121点)、Ⅳ類は25.3%(129点)、Ⅴ類は18.4%(94点)、Ⅵ類は1.6%(８点)であった。全体の傾向から、突出して多くなる分類は、ないことがわかる。Ⅵ類は極端に少ないが、当該地域で確認された出土例も県内では少ない時期でもある。(第Ⅵ-1図参照)

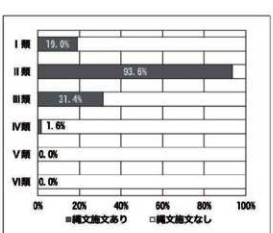
次に、分類数の状況について概観したいと思う。縄文時代早期前半の押型文系土器までの、Ⅰ類からⅥ類までを対象とした。各分類について、Ⅰ類は９(11.4%)に、Ⅱ類は15(19.0%)に、Ⅲ類は12(15.2%)



第Ⅵ-1図　Ⅰ～Ⅵ類の割合



第Ⅵ-2図　Ⅰ～Ⅵ類の分類数



第Ⅵ-3図　分類別の縄文施文の割合

に、Ⅳ類は22(27.8%)に、Ⅴ類は17(21.5%)に、Ⅵ類は4(5.1%)に分類している。Ⅲ類とⅣ類を比較すると、分類数の増加がみてとれる。Ⅴ類は、Ⅳ類と比較すると減少する状況が読み取れるが、Ⅰ類からⅢ類までと比較すれば分類数が多いことも読み取れる。これらのことを踏まえると、Ⅲ類とⅣ類の間に、器形や文様構成等の多様性が出現するという1つの画期があることを読み取れるのではないだろうか。なお、Ⅵ類は分類数が非常に少なくなっているが、これは先にも述べたように、出土量が他の分類と比較して少ないことが影響していると考えられる。(第Ⅵ-2図参照)

b 縄文施文

まず、縄文施文の有無、について述べる。Ⅰ類は分類した全部の63点を統計の対象としている。「縄文施文あり」が19.0%(12点)、「縄文施文なし」が81.0%(51点)である。Ⅱ類は分類した全部の94点を統計の対象としている。「縄文施文あり」が93.6%(88点)、「縄文施文なし」が6.4%(6点)である。Ⅲ類は分類した全部の121点を統計の対象としている。「縄文施文あり」が31.4%(38点)、「縄文施文なし」が68.6%(83点)である。Ⅳ類は分類した全部の129点を統計の対象としている。「縄文施文あり」が1.6%(2点)、「縄文施文なし」が98.4%(127点)である。Ⅴ類は分類した全部の94点を統計の対象としている。「縄文施文あり」が0.0%(0点)、「縄文施文なし」が100.0%(94点)である。Ⅵ類は分類した全部の8点を統計の対象としている。「縄文施文あり」が0.0%(0点)、「縄文施文なし」が100.0%(8点)である。(第Ⅵ-3図参照)

次に、口唇部から体部までの部位別の縄文施文の状況について述べたい。対象としては、Ⅰ類からⅥ類までとしたい。(第Ⅵ-4図参照)

口唇部 Ⅰ類では「縄文施文あり」41.7%(5点)、「縄文施文なし」58.3%(7点)、Ⅱ類では「縄文施文あり」97.1%(34点)、「縄文施文なし」2.9%(1点)、Ⅲ類では「縄文施文あり」97.3%(36点)、「縄文施文なし」2.7%(1点)、Ⅳ類では「縄文施文あり」7.1%(1点)、「縄文施文なし」92.9%(13点)、Ⅴ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(16)点、Ⅵ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(3点)という傾向がみられる。

口唇部の傾向について述べる。Ⅱ類とⅢ類は、口唇部への「縄文施文あり」の割合が非常に高くなっている。また、Ⅰ類では縄文施文の有無は割合的には拮抗しているが、「縄文施文なし」がやや優勢となっている。なお、Ⅳ類において、口唇部への縄文施文がごく少量残るようである。基本的には、キザミが主となるのでこのような傾向となるのだろう。Ⅲ類とⅣ類の間に縄文施文に関する画期があることが読み取れよう。

口縁部 外面の状況について、Ⅰ類では「縄文施文あり」25.0%(3点)、「縄文施文なし」75.0%(9点)、Ⅱ類では「縄文施文あり」94.4%(34点)、「縄文施文なし」5.6%(2点)、Ⅲ類では「縄文施文あり」55.3%(21点)、「縄文施文なし」44.7%(17点)、Ⅳ類では「縄文施文あり」11.1%(2点)、「縄文施文なし」88.9%(16点)、Ⅴ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(16)点、Ⅵ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(3点)という傾向がみられる。

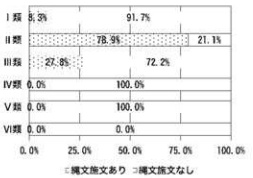
口縁部外面の傾向について述べる。Ⅱ類は、口縁部外面への「縄文施文あり」の割合が非常に高くなっている。Ⅲ類は、「縄文施文あり」がやや優勢となっているが、「縄文施文なし」と拮抗している。また、Ⅰ類では縄文施文なしが優勢となっている。なお、Ⅳ類において、口縁部外面への縄文施文がごく少量残るようである。基本的には、押型文が主となるのでこのような傾向になるのだろう。口唇部の状況と同様に、Ⅲ類とⅣ類の間には縄文施文に関する画期があることが読み取れよう。

内面の状況について、Ⅰ類では「縄文施文あり」33.3%(4点)、「縄文施文なし」66.7%(8点)、Ⅱ類では「縄文施文あり」80.6%(29点)、「縄文施文なし」19.4%(7点)、Ⅲ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(38点)、Ⅳ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(18点)、Ⅴ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(16)点、Ⅵ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(3点)という傾向がみられる。

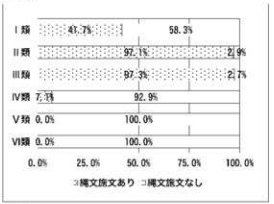
部位別の有無

	口唇部	口縁部外面	口縁部内面	頸部外面	頸部内面	体部外面	体部内面
Ⅰ類	○	○	○	○			
Ⅱ類	○	○	○	○		○	
Ⅲ類	○	○		○		○	
Ⅳ類	○	○					
Ⅴ類							
Ⅵ類							

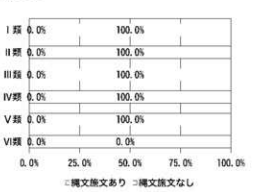
頸部外面



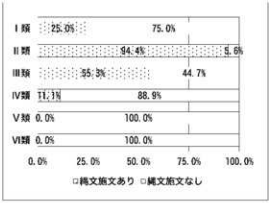
口唇部



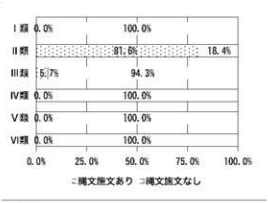
頸部内面



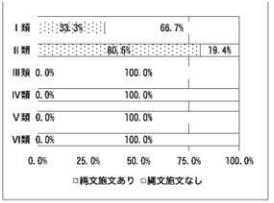
口唇部外面



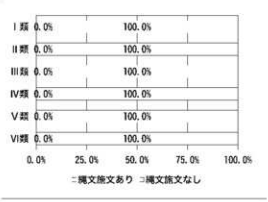
体部外面



口縁部内面



体部内面



第Ⅵ-4図　部位別の縄文施文の有無と割合

口唇部

	L		R		LR		RL		LRL		RLR		計	
Ⅰ類	0	0.0%	0	0.0%	4	80.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
Ⅱ類	0	0.0%	0	0.0%	11	32.4%	20	58.8%	3	8.8%	0	0.0%	34	100.0%
Ⅲ類	0	0.0%	0	0.0%	23	63.9%	13	36.1%	0	0.0%	0	0.0%	36	100.0%
Ⅳ類	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
Ⅴ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅵ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

口縁部外

	L		R		LR		RL		LRL		RLR		計	
Ⅰ類	0	0.0%	0	0.0%	2	66.7%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%
Ⅱ類	0	0.0%	0	0.0%	11	32.4%	19	55.8%	4	11.8%	0	0.0%	34	100.0%
Ⅲ類	0	0.0%	0	0.0%	14	66.7%	7	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	21	100.0%
Ⅳ類	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
Ⅴ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅵ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

口縁部内

	L		R		LR		RL		LRL		RLR		計	
Ⅰ類	0	0.0%	0	0.0%	2	50.0%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%
Ⅱ類	0	0.0%	0	0.0%	8	27.6%	21	72.4%	0	0.0%	0	0.0%	29	100.0%
Ⅲ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅳ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅴ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅵ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

頸部外

	L		R		LR		RL		LRL		RLR		計	
Ⅰ類	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
Ⅱ類	0	0.0%	0	0.0%	10	33.3%	15	50.0%	5	16.7%	0	0.0%	30	100.0%
Ⅲ類	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
Ⅳ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅴ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅵ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

頸部内

	L		R		LR		RL		LRL		RLR		計	
Ⅰ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅱ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅲ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅳ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅴ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅵ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

体部外

	L		R		LR		RL		LRL		RLR		計	
Ⅰ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅱ類	0	0.0%	5	8.1%	30	48.4%	17	27.4%	8	12.9%	2	3.2%	62	100.0%
Ⅲ類	0	0.0%	0	0.0%	3	60.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
Ⅳ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅴ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅵ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

体部内

	L		R		LR		RL		LRL		RLR		計	
Ⅰ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅱ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅲ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅳ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅴ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅵ類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

＊左は点数、右は比率

燃糸文

	L		R		無?		LR		RL		単?		LRL		RLR		複?		計	
口唇部	0	0.0%	0	0.0%	2	66.7%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%
口縁部外	2	25.0%	3	37.5%	2	25.0%	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%
口縁部内	2	40.0%	0	0.0%	2	40.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
頸部外	2	20.0%	5	50.0%	2	20.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	100.0%
頸部内	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
体部外	24	43.7%	25	45.5%	2	3.6%	2	3.6%	2	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	55	100.0%
体部内	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

＊左は点数、右は比率

第Ⅵ-1表　部位別の縄文と燃糸文の縄の方向

口縁部内面の傾向について述べる。Ⅱ類は、口縁部内面への「縄文施文あり」の割合が非常に高くなっている。また、Ⅰ類では「縄文施文なし」が優勢となっている。なお、Ⅲ類・Ⅳ類・Ⅴ類・Ⅵ類は、口縁部内面への縄文施文がない状況となっている。基本的には、押型文が主となるのでこのような傾向になるのだろう。口縁部外面の状況と同様に、Ⅲ類とⅣ類の間には縄文施文に関する画期があることが読み取れよう。

頸部　外面の状況について、Ⅰ類では「縄文施文あり」8.3%(1点)、「縄文施文なし」91.7%(11点)、Ⅱ類では「縄文施文あり」78.9%(30点)、「縄文施文なし」21.1%(1点)、Ⅲ類では「縄文施文あり」27.8%(5点)、「縄文施文なし」72.2%(13点)、Ⅳ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(14点)、Ⅴ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(5点)、Ⅵ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」0.0%(0点)という傾向がみられる。

頸部外面の傾向について述べる。Ⅱ類の「縄文施文あり」の割合が、他に比べ突出している。また、Ⅲ類は「縄文施文なし」が優勢となっているが、一部縄文が残る様相がみられる。Ⅰ類は、「縄文施文なし」の割合が非常に高くなり、Ⅳ類・Ⅴ類・Ⅵ類は、「縄文施文なし」が全てという状況となる。

内面の状況について、Ⅰ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(12点)、Ⅱ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(31点)、Ⅲ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(18点)、Ⅳ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(14点)、Ⅴ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(5点)、Ⅵ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」0.0%(0点)という傾向がみられる。

頸部内面の傾向について述べる。ⅠからⅥ類まで、「縄文施文なし」が全てという状況となる。

体部　外面の状況について、Ⅰ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(56点)、Ⅱ類では「縄文施文あり」81.6%(62点)、「縄文施文なし」18.4%(14点)、Ⅲ類では「縄文施文あり」5.7%(5点)、「縄文施文なし」94.3%(83点)、Ⅳ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(111点)、Ⅴ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(79)点、Ⅵ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(5点)という傾向がみられる。

体部外面の傾向について述べる。Ⅱ類は、「縄文施文あり」の割合が非常に高い。また、Ⅲ類は「縄文施文なし」がほとんどであるが、ごく一部に「縄文施文あり」が残るようである。なお、Ⅰ類、Ⅳ類、Ⅴ類、Ⅵ類は、縄文による施文がなされなくなる。

内面の状況について、Ⅰ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(56点)、Ⅱ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(76点)、Ⅲ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(88点)、Ⅳ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(111点)、Ⅴ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(79)点、Ⅵ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(5点)という傾向がみられる。

体部内面の傾向について述べる。Ⅰ類からⅥ類の全てで、縄文による施文がない。

全体を概観してみたい。Ⅱ類とⅢ類を比較すると、縄文施文がほぼ1/3に減少していることがわかる。ここで、縄文施文が減少傾向となるという1つの画期がみてとれる。また、Ⅲ類からⅣ類についても、同様に縄文施文が消失するという1つの画期があることも見いだせる。縄文施文の有無の状況から、画期が見いだせるようである。なお、体部内面に縄文施文がなされないことは、この傾向からも明らかである。岐阜県椛ノ湖遺跡出土の底部付近まで表裏に縄文が施されるもの[11]とは、多気北畠氏39次他の表裏縄文土器とは差違を感じる。多気北畠氏39次他のものは、多縄文系土器に連なることがいえるが、この時期に至るその間に、未発見・未抽出の資料が複数段階入ることになるのではないだろうか[12]。

つづいて、縄文の撚りの方向の傾向について述べる。方向が不明なものは除いている。(第Ⅵ-1表参照)

口唇部　Ⅰ類では、単節縄文LRが80.0%(4点)、単

節縄文RL20.0%(1点)を確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅱ類では、単節縄文LRが32.4%(11点)、単節縄文RLが58.8%(20点)、複節縄文LRLが8.8%(3点)を確認した。無節は確認できなかった。Ⅲ類では、単節縄文LRが63.9%(23点)、単節縄文RLが36.1%(13点)を確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅳ類では、単節縄文LRが1点確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅴ類、Ⅵ類については、縄文施文が確認できなかった。

口唇部の傾向を述べる。Ⅰ類は単節縄文LRが優勢となる。Ⅱ類は単節縄文RLがやや優勢で複節縄文が少数みられる。Ⅲ類は単節縄文LRが優勢となる。Ⅱ類とⅢ類の間には、縄文施文でありながらも1つの画期があるようである。

口縁部　外面の状況ついて、Ⅰ類では、単節縄文LRが66.7%(2点)、単節縄文RLが33.3%(1点)を確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅱ類では、単節縄文LRが32.4%(11点)、単節縄文RLが55.8%(19点)、複節縄文がLRL11.8%(4点)を確認した。無節は確認できなかった。Ⅲ類では、単節縄文LRが66.7%(14点)、単節縄文RLが33.3%(7点)を確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅳ類では、単節縄文LRを2点確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅴ類、Ⅵ類については、縄文施文が確認できなかった。

口縁部外面の傾向を述べる。Ⅰ類は単節縄文LRが優勢となる。Ⅱ類は単節縄文RLがやや優勢で複節縄文が少数みられる。Ⅲ類は単節縄文LRが優勢となる。Ⅳ類は単節縄文LRが優勢となる。Ⅱ類とⅢ類の間には、縄文施文がありながらも1つの画期があるようである。

内面の状況について、Ⅰ類では、単節縄文LRが50.0%(2点)、単節縄文RLが50.0%(2点)を確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅱ類では、単節縄文LRが27.6%(8点)、単節縄文RLが72.4%(21点)を確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅲ類、Ⅳ類、Ⅴ類、Ⅵ類では縄文施文を確認できなかった。

口縁部内面の傾向を述べる。Ⅰ類は単節縄文LRとRLが拮抗している。Ⅱ類は単節縄文RLがやや優勢で複節縄文が少数みられる。

頸部　外面の状況について、Ⅰ類では、単節縄文LRを1点確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅱ類では、単節縄文LRが33.3%(10点)、単節縄文RLが50.0%(15点)、複節縄文LRLが16.7%(5点)を確認した。無節は確認できなかった。Ⅲ類では、単節縄文LRを2点確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅳ類、Ⅴ類、Ⅵ類は縄文施文を確認できなかった。

頸部外面の傾向を述べる。Ⅰ類は単節縄文LRが優勢となる。Ⅱ類は単節縄文RLがやや優勢で複節縄文が少数みられる。

内面の状況について、Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類、Ⅳ類、Ⅴ類、Ⅵ類では縄文施文を確認できなかった。

体部　外面の状況について、Ⅱ類では、無節縄文Rが8.1%(5点)、単節縄文LRが48.4%(30点)、単節縄文RLが27.4%(17点)、複節縄文がLRL12.9%(8点)、複節縄文がRLR3.2%(2点)を確認した。Ⅲ類では、単節縄文LRが60.0%(3点)、単節縄文RLが40.0%(2点)を確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅰ類、Ⅳ類、Ⅴ類、Ⅵ類は縄文施文を確認できなかった。

体部外面の傾向を述べる。Ⅱ類は単節縄文LRがやや優勢で単節及び複節縄文が少数みられる。Ⅲ類は単節縄文LRが優勢となる。

内面の状況について、Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類、Ⅳ類、Ⅴ類、Ⅵ類では縄文施文を確認できなかった。

全体を概観してみたい。Ⅱ類とⅢ類を比較すると、口唇部と口縁部外面へ施された縄文の撚りの方向は、単節縄文RL優勢から単節縄文LR優勢に変化していることがわかる。縄文の撚りの方向から1つの画期が見いだせるようである。

続いて、Ⅰ類における撚糸文の縄の方向についても概観したい。全体の状況としては、無節縄文がほとんどであり、一部に単節縄文がみられる。土器部位別の状況に目をむけたい。(第Ⅵ-1表参照)

口唇部　無節縄文(方向不明)が66.7%(2点)、単節縄文RLが33.3%(1点)を確認した。

口縁部　外面の状況について、無節縄文Lが25.0%(2点)、無節縄文Rが37.5%(3点)、無節縄文(方向不明)が25.0%(2点)、単節縄文RLが12.5%(1点)を

確認した。内面に状況について、無節縄文Lが40.0%（2点）、無節縄文（方向不明）が40.0%（2点）、単節縄文RLが20.0%（1点）を確認した。

頸部　外面の状況について、無節縄文Lが20.0%（2点）、無節縄文Rが50.0%（5点）、無節縄文（方向不明）が20.0%（2点）、単節縄文LRが10.0%（1点）を確認した。内面の状況について、無節縄文（方向不明）を1点確認した。

体部　外面の状況について、無節縄文Lが43.7%(24点)、無節縄文Rが45.5%(25点)、無節縄文（方向不明）が3.6%（2点）、単節縄文LRが3.6%（2点）、単節縄文RLが3.6%（2点）を確認した。内面の状況については、撚糸文の施文はみられない。

(2) 土器型式への対応と変遷

当該期の土器型式を概観するとともに、多気北畠氏39次出土資料の各型式への対応と変遷について概観していきたい。

a 研究の動向

これまでの研究により、三重県を含む近畿地方における押型文前半期の土器型式は、大鼻式、大川式、神宮寺式、神並上層式という変遷が一般化しているといえよう[3]。各型式の細分や型式名の呼称については、今も研究が進展している状況である。また、大鼻式以前の型式については、現段階でもよくわからない状況であるといわれてきている。このことは、撚糸文系土器、表裏縄文土器と呼称されるものも含めた縄文系土器、押型文系土器との併行関係、大鼻式の直接の先行型式の未確認といった課題があることによる[4]と考えている。

b 土器型式への対応と変遷

多気北畠氏39次出土資料（Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類・Ⅳ類・Ⅴ類・Ⅵ類）の各型式への対応と変遷について述べたい。なお、型式への対応については、矢野健一氏の先行研究に拠っている[5]。（第Ⅵ-2表参照）

撚糸文系土器期（Ⅰ類：1～63）

撚糸文系土器として把握したものである。器形は、少し外傾するロ縁部、少し括れる頸部、ゆるやかな曲線を描く体部、尖底の底部となるものである。当該地域においては、型式が明らかとなっていないので撚糸文系土器期としている。県内及び周辺地域と比較しても、質、量とも多気北畠氏39次出土資料は特異な状況といえよう。出土資料の状況を述べる。口縁部付近のものとしては、口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁部と頸部を区画するかのような下向きの剣先状の側面圧痕、体部外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に縄文（Ⅰa1類：1）、口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、頸部に縄文と撚糸文の重なり、体部外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に縄文（Ⅰa2類：2, 3）、口唇部に縄文、口縁部以下の外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に縄文（Ⅰa3類：4, 5）が施されたものがみられる。撚糸文ではなく、縄文施文が口縁部内外面にみられる。口縁部付近のものとしてさらに、口唇部に撚糸文、口縁部外面に撚糸文、口縁部と頸部を区画するかのような横方向2段の側面圧痕、体部外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に撚糸文（Ⅰb1類：6）、口唇部に撚糸文、口縁部以下の外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に撚糸文（Ⅰb2類：7, 8, 9）が施されたものもみられる。まさに、表裏縄文ならぬ表裏撚糸文土器といえるものである。口縁部内面の最上部に施文があることからも、表裏縄文土器、ひいては多気北畠氏39次出土の縄文系土器との関連性は否定できないものといえよう。これら以外に、口縁部以下の外面に撚糸文が施されたもの（Ⅰc1類：10, 11）がみられる。体部片については、外面に縄文、撚糸文（Ⅰd1類：12, 17）、外面に撚糸文（Ⅰd2類：13～16, 18～62）が施されたものがみられる。縄文施文が一部にみられることも、前述にある縄文系土器との関連性を窺わせる。

撚糸文系土器は、先述の滋賀県粟津湖底遺跡において大鼻式との関連と大鼻式直前の型式の可能性があり、縄文系土器も含めてのものであった[6]。これらは、層位的に分離することはできなかった[7]とも述べられている。また、多気北畠氏39次出土資料も滋賀県粟津湖底遺跡と同様に層位的な分離はできていない。以上のことを踏まえ、大鼻式以前の段階のものと考えたい。ただ、大鼻式と共時性がある可能性も否定できる状況でない[8]。

縄文系土器期（Ⅱ類：64～157）

大鼻式期においては、縄文が多用されている。これは、多縄文系土器の系統をひくものといわれており、多縄文系土器の末期の尖底土器が変化したものであることはほぼ確実と指摘されている[9]。ただ、

撚糸文系土器の位置づけや、直接大鼻式に先行する土器の実態が判然としていない。現状としては、大鼻式の先行型式が未発見、未抽出の状態といえる[16]。

多気北畠氏39次出土資料では、口縁部内面の最上部に縄文が施された表裏縄文土器と呼称されるものも含めた縄文系土器が多く出土している。土器外面に、口縁部から体部にかけて全部に縄文が施されたものである。おそらく、底部に至るまで縄文が施されていたのではないだろうか。器形は、少し外傾する口縁部、少し括れる頸部、直線に近い曲線を描くような体部、尖底の底部となるものであろう。土器内面の口縁部最上部には、縄文が施されたものもみられる。その部分に限定されるといっても過言ではなく、広く縄文が施文される例はみられない。

当該期に属する土器群の詳細な状況について述べていく。

いわゆる表裏縄文土器は、口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁部と頸部を区画するかのような横位の複数段の側面圧痕、体部外面に縄文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの(Ⅱa1類:64, 66～71) や口唇部に縄文、口縁部以下の外面に縄文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの(Ⅱa2類:65, 72～77)があげられる。これらと土器外面は同様の文様構成で、土器内面の口縁部最上部への縄文施文がないもの (Ⅱb1類:78, 79、Ⅱb2類:80, 81) もある。

また、前述の文様構成や器形を踏襲するように、表裏縄文土器は、口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁部と頸部を区画するかのような複数段の側面圧痕、体部外面に枝回転文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの(Ⅱf1類:132, 133)や口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁部と頸部を区画するかのような下向きの剣先状の側面圧痕、体部に枝回転文が施されると考えられ、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの(Ⅱf2類:134)、口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、頸部付近に複数段の側面圧痕、側面圧痕直下の体部外面まで縄文、以下に枝回転文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの(Ⅱf3類:135～138, 141)、口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、頸部以下に枝回転文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの(f4類:139, 142～145)、口唇部に縄文、口縁部以下の外面に枝回転文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの(Ⅱf5類:140)がみられる。これらと土器外面については同様の文様構成で、土器内面の口縁部最上部に施文がないもの (Ⅱf6類:146～148) もある。つまり、頸部下部から下の外面には、枝回転文が施されるものとなる。あわせて、口縁部の傾きが少し外反するようになっていく。

大鼻式期は、大きく外反し肥厚する口縁部や縄文施文が多用される時期であることと、前述の多気北畠氏39次出土資料の状況と考え合わせると、この縄文系土器期の器形や文様構成が大鼻式期に連なっていくのではないだろうか。

大鼻式期(Ⅲ類:158～278)

広義の押型文系土器である。大鼻式は、三重県亀山市大鼻遺跡が標識遺跡となっている[17]。口縁部が強く外反する器形である。口唇部が肥厚し、面的に平らとなっている。口唇部や口縁部外面に縄文が施文されることや、絡条体による圧痕文が多いとされている[18]。

多気北畠氏39次においても、肥厚する口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁下部から頸部にかけて複数段の側面圧痕(Ⅲa1類:158, 159, 176, 177) や肥厚する口唇部に縄文、口縁部から頸部にかけて複数段の側面圧痕(Ⅲa7類:178, 179)の施されたものがみられる。これに加えて、肥厚する口唇部に縄文、口縁部外面から頸部にかけての外面に縄文、羽状の押圧縄文(Ⅲa2類:161, 163～166, 168, 170)や肥厚する口唇部に縄文、口縁部から頸部にかけて斜めの押圧縄文(Ⅲa8類:180)のように縄文原体による押圧縄文が施されているものがみられる。また、口縁部外面から頸部にかけての外面に縄文(Ⅲa3類:171)や肥厚する口唇部に縄文、口縁部外面から頸部にかけての外面に縄文(Ⅲa4類:160, 162, 167, 169, 172, 181, 182, 184)、肥厚する口唇部に縄文(Ⅲa6類:174, 175, 183)が施されたものもみられる。なお、肥厚する口唇部に縄文、口縁部以下の外面にネガティブな市松文が施されたもの(Ⅲd1類:242～251)のように、縄文が口唇部に集約されるものも存在する。体部に目を転じてみると、枝回転文(Ⅲb1類:185～239)と大振りの市松文(Ⅲe1類:252～278)が施されたものがみられる。このように、市松文と格子目文の施文が主な点となるのは次段階の大川式と共通するものといえ

る。大川式の文様構成と比して変化に乏しい段階といえよう[139]。口唇部から頸部に至る長さが比較的短くなるようである[140]。古と新の2段階に細分でき[141]、古段階では枝回転文が存在し(158～241)、新段階は市松文を主とする押型文の存在が確認されている(242～278)。なお、土器内面の施文はなく、前段階に多くみられる指圧痕も非常に少なくなる。

大川式期(Ⅳ類:279～407)

押型文系土器である。大川式は、口縁部が外反する器形である。頸部に屈曲する部分が下降し、屈曲が緩やかになるといわれている。施文については、棒状工具を使うこととなる。口唇部に棒状工具によるキザミ、口縁部には棒状工具の押型文が施され、頸部の刺突も同様に棒状工具で施文される。当該期は、縄文施文が急減することになり、市松文やネガティブな楕円文、格子目文、山形文等の押型文が多用される段階となる。一部には、口唇部への縄文施文や、口縁部外面への縄文による側面圧痕が施されたものも存在する。

多気北畠氏39次の当該期の状況を述べる。口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、頸部に刺突文、体部には市松文が施されるであろうもの(Ⅳa1類:279)がある。頸部から体部のもので、外面に縄文・市松文以下に刺突文が施されたものもある(Ⅳb1類:286～288)。前段階の縄文施文が残ったものである。前述の当該期の特徴にそう口唇部にキザミ、口縁部外面に市松文、頸部に刺突文、体部には市松文(Ⅳa2類:280, 282, 283)、口唇部にキザミ、口縁部外面に山形文、頸部に刺突文、体部には市松文(Ⅳa3類:281)、口唇部にキザミ、口縁部外面に刺突文、頸部以下に市松文(Ⅳa4類:284, 285)がみられる。頸部から体部にかけての破片は、外面に格子目文、以下に刺突文(Ⅳb2類:289)、外面に刺突文、以下に山形文(Ⅳb3類:292)、外面に刺突文、以下に市松文(Ⅳb4類:290, 291, 293, 294, 297)、外面に市松文(Ⅳb5類:295, 296, 298～300)、外面にネガティブな市松文(Ⅳc1類:301～303, 305～321, 323～349, 351～353)、外面にネガティブなひとつの文様が小さい市松文(Ⅳc2類:356～361, 363, 364)、外面にネガティブな格子目文(Ⅳc3類:304, 322, 350)、外面にネガティブなひとつの文様が小さい格子目文(Ⅳc4類:362, 365～379)、外面に刺突文(Ⅳc5類:354, 355)、外面に植物を使った刺突文(Ⅳc6類:380)が施されたものがみられる。Ⅳc6類(380)は特異な例ではないだろうか。

また、口唇部にキザミ、少し外反する口縁部外面に市松文(Ⅳd1類:381, 382)、口唇部にキザミ、少し外反する口縁部外面に格子目文(Ⅳd2類:383)、口唇部にキザミ、やや外反する口縁部以下の外面に楕円状の格子目文(Ⅳd3類:384)、口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部以下の外面に、上から浅い刺突、ネガティブな楕円文(Ⅳd4類:385～387)が施されたものもみられる。体部の破片には、外面にネガティブな楕円に近い市松文(Ⅳe1類:388～390)、外面にネガティブな楕円状の押型文(Ⅳe2類:391～399)、外面にネガティブなひとつの文様が小さい格子目文(Ⅳe3類:400～407)が施されたものがある。これらは、器厚は少し薄くなる傾向がある。これらについては、前述のものより時期が下るものと考えている。

大川式は古段階と新段階に細分できるといえよう[142]。古段階は、頸部で外反し口唇部が少し肥厚し、キザミが施される。口縁部や頸部外面に刺突を多用する。外面には大振りの山形文が施されたものもみられる(279～380)。この段階には、大鼻式にはなかった地域差が存在するといわれている。新段階は、口縁部が緩やかに外反し、頸部における屈曲が緩やかになる。口唇部から体部まで器厚は薄くなる。文様は、斜傾するネガティブな楕円文や格子目文がみられるようになる(381～407)。古段階の地域差より型式差といえるほど拡大するといわれている[143]。

神宮寺式期(Ⅴ類:408～501)

押型文系土器である。神宮寺式は、前段階に比べ口縁部への屈曲がやや緩やかになり、直線的な外に開かない器形となる。口唇部（とは言い難くなる）にキザミがみられ、外面から削ぐような感じでの施文となる。文様構成は前段階と共通するが、頸部には刺突が施されなくなる。文様は、ネガティブな楕円文と格子目文が主体になる。これらの中には斜傾するものがみられる。このような特徴を示すものとして、多気北畠氏39次においては、以下のものがあげられよう。口縁部付近では、口唇部にキザミ、少し外傾する口縁部外面に、上から山形文、稜らにネガティブな楕円文(Ⅴa1類:408～413)、直線的に外

傾する口縁部外面に、ネガティブな細い楕円文(Va2類:414)、口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部外面にネガティブな細い楕円文(Va3類:415)が施されたものがみられる。また、体部片では、外面にネガティブな山形文・楕円文(Vc1類:424～428)、外面にネガティブな横位の直線文・楕円文(Vc2類:429)、外面にネガティブな山形文(Vc3類:430)、外面にネガティブな楕円文(Vc4類:431～435)、外面にネガティブな斜傾する格子目文(Vc5類:436,437)、外面にネガティブな楕円文が施され、文様の間隔も狭く斜格子に近いもの(Vc6類:438～451)、外面にネガティブな浅い楕円文(Vc7類:452,453)、外面に浅いネガティブなより細長い楕円文(Vc8類:454～457)の施されたものがみられる。これらの器厚は一様に薄い。

また、ネガティブな楕円文が長大化した文様や矩形ないし楕円文の文様がみられるようになる。器形はより直線的になり外側に開かないものとなる。このような特徴を示すものとして、多気北畠氏39次においては、以下のものがあげられよう。口縁部付近のものとして、口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部外面にネガティブな細い楕円文(Vb1類:417～419)、直線的に外傾する口縁部外面にネガティブな細い楕円文(Vb2類:416,420～422)、直線的に外傾する口縁部外面にネガティブな斜傾する格子目文(Vb3類:423)が施されたものがみられる。体部片については、外面に浅いネガティブな少し細長くなった楕円文、文様の間隔が疎らに(Vd1類:458～475)、外面にネガティブな細長くなった格子目文(Vd2類:476～481)、外面にネガティブなより細長くなった直線的な格子目文(Vd3類:482～501)の施されたものがみられる。これらは、一様に器厚がより薄くなる。

当該期は古段階と新段階に分別することができる[18]。古段階は、文様構成は前段階と共通だが、頸部への刺突がなくなり、文様はネガティブな楕円文と格子目文が主となり、文様の斜傾化がみられるようになる(408～415、424～457)。新段階では、ネガティブな楕円文が長大化や矩形ないし楕円文がみられるようになる。器形は直線的で外側に開かないものとなる(416～423、458～501)。

神並上層式期(Ⅵ類:502～509)

押型文系土器である。量的に多くはない。神並上層式は、前段階より直線的になり少し外に開く器形となる。口縁部では横位の施文がみられるようになる。ネガティブな楕円文がなくなり、小ぶりの山形文が多くみられるようになる。口縁部における横位の施文の幅がたいそう広くなる。口縁部の形状として、波状口縁が多くみられるようになり、文様は小ぶりの山形文が主となり密接な施文をする。このような特徴を示すものとして、多気北畠氏39次出土資料としては以下のものがある。口縁部付近のものとしては、口唇部にキザミがみられ、口縁部に前段階より細長い楕円文(Ⅵa1類:502,504)、口縁部に矢羽根状の前段階より細長い楕円文(Ⅵa2類:503)の施されたものがある。体部片については、外面に山形文、矢羽根状にネガティブな斜傾した楕円文(Ⅵb1類:505)、外面に、細かな山形文(Ⅵb2類:506～509)の施されたものがみられる。これらは、一様に器厚がより薄くなる。神並上層式は、古段階と新段階に分別が可能である[19]が、量的に少ないこともあり、ここでは分別は行わない。

(3) 大鼻式以前の段階に関する予察

大鼻式期では、縄文が多用されている[20]。前述したが、多縄文系土器の系統をひくものといわれており、多縄文系土器の末期の尖底土器が変化したものであることはほぼ確実と指摘されている[21]。ただ、撚糸文系土器の位置づけや、直接大鼻式に先行する土器の実態が判然としていない。現状としては、大鼻式の先行型式が未発見、未抽出の状態といえる。また、多気北畠氏39次の発掘調査地点は、地理的に見て奈良県鵜山遺跡[22]・桐山和田遺跡[23]といった大和高原の遺跡に近く、それらの影響を受けていることも考えあわせるべきであろう。

ここでは、縄文系土器期(Ⅱ類:64～157)の土器群について考えてみたい。多気北畠氏39次出土資料では、口縁部内面の最上部に縄文が施された表裏縄文土器と呼ばれるものも含めた縄文系土器が多く出土している。土器外面に、口縁部から底部にかけて全部に縄文が施されたものといえよう。器形は、少し外傾する口縁部、少し括れる頸部、直線に近い曲線を描くような体部、尖底の底部となる。土器内面の

口縁部最上部には、縄文が施されたものもみられる。その部分に限定されるといっても過言ではなく、土器内面に全部に縄文が施文される例はない。

当該期の口縁部形態については、少し厚みのある口唇部を持つ口縁部が、外反までとはいえないものの少し外傾するものといえる。これらのなかには、直線的に外傾する口縁部(64, 68, 78)と、少し外反するといってもいいような短めの口縁部片(132, 135, 146, 147, 148)が存在している。これは、前者から後者へ口縁部形態の変化、時期差として捉えることができよう。あわせて、前者の頸部以下には縄文が、後者の頸部以下には枝回転文が施されていることについても、口縁部と同様に変化、時期差としてとらえることができよう。また、大鼻式期の大きく外反し肥厚する口縁部へと連なっていくものとしても捉えることができるのではないだろうか。(第Ⅵ-5図参照)

当該期の土器外面や内面への縄文施文については、他の土器群と比較しても、93.6%と突出して多い。縄文施文が多用される大鼻式期(Ⅲ類)の31.4%と比較しても、3倍程度となっている。この差は、縄文施文が多用される時期としての1つの画期を示しているものといえよう。なお、大川式期(Ⅳ類)以降は、縄文施文がごく稀なものとなり、当該期と大鼻式期に集中していることがわかる。

各部位への「縄文施文あり」については、口唇部では当該期と大鼻式期は97.1%、97.3%と割合が拮抗しているものの、口縁部外面では94.4%、55.3%、頸部外面では78.9%、27.8%、体部外面では81.6%、5.7%と割合に大きな差違がみてとれる。口縁部内面に至っては、当該期80.6%、大鼻式期0.0%となっている。この差も、縄文施文が多用される時期としての1つの画期を示しているものといえよう。(第Ⅵ-4図参照)

また、各部位に施文された縄文の撚りについては、当該期に無節・単節・複節縄文がみられるのに対し、大鼻式期は単節縄文となる。口唇部や口縁部外面に施文された縄文の撚りの方向は、当該期が単節縄文RL優勢になるのに対し、大鼻式期が単節縄文LR優勢となる。撚糸文系土器期は大鼻式期と同様に単節縄文LR優勢となっており、何らかの関連性を想起させ

分類	報告番号	所属時期
Ⅰ a1	1	轟永文系土器期
Ⅰ a2	2, 3	轟永文系土器期
Ⅰ a3	4, 5	轟永文系土器期
Ⅰ b1	6	轟永文系土器期
Ⅰ b2	7, 8, 9	轟永文系土器期
Ⅰ c1	10, 11	轟永文系土器期
Ⅰ d1	12, 17	轟永文系土器期
Ⅰ d2	13~16, 18~62	轟永文系土器期
Ⅰ e1	63	轟永文系土器期
Ⅱ a1	64~71	「多気北岳氏39次段階」古
Ⅱ a2	66, 72~77	「多気北岳氏39次段階」古
Ⅱ b1	78, 79	「多気北岳氏39次段階」古
Ⅱ b2	80, 81	「多気北岳氏39次段階」古
Ⅱ c1	82	「多気北岳氏39次段階」古
Ⅱ d1	83~86	「多気北岳氏39次段階」古
Ⅱ e1	87~131	「多気北岳氏39次段階」古
Ⅱ f1	132, 133	「多気北岳氏39次段階」新
Ⅱ f2	134	「多気北岳氏39次段階」新
Ⅱ f3	135~138, 141	「多気北岳氏39次段階」新
Ⅱ f4	139, 142~145	「多気北岳氏39次段階」新
Ⅱ f5	140	「多気北岳氏39次段階」新
Ⅱ f6	146~148	「多気北岳氏39次段階」新
Ⅱ g1	149, 151, 156	「多気北岳氏39次段階」新
Ⅱ g2	150, 152~155, 157	「多気北岳氏39次段階」新
Ⅲ a1	158, 159, 176, 177	大鼻式古段階
Ⅲ a2	161, 163~166, 168, 170	大鼻式古段階
Ⅲ a3	171	大鼻式古段階
Ⅲ a4	160, 162, 167, 169, 172, 181, 182, 184	大鼻式古段階
Ⅲ a5	173	大鼻式古段階
Ⅲ a6	174, 175, 183	大鼻式古段階
Ⅲ a7	178, 179	大鼻式古段階
Ⅲ a8	180	大鼻式古段階
Ⅲ b1	185~230	大鼻式古段階
Ⅲ c1	240, 241	大鼻式古段階
Ⅲ d1	242~251	大鼻式新段階
Ⅲ e1	252~278	大鼻式新段階
Ⅳ a1	279	大川式古段階
Ⅳ a2	280, 282, 283	大川式古段階
Ⅳ a3	281	大川式古段階
Ⅳ a4	284, 285	大川式古段階
Ⅳ b1	286~288	大川式古段階
Ⅳ b2	289	大川式古段階
Ⅳ b3	292	大川式古段階
Ⅳ b4	290, 291, 293, 294, 297	大川式古段階
Ⅳ b5	295, 296, 298~300	大川式古段階
Ⅳ c1	301~303, 305~321, 323~349, 351~353	大川式古段階
Ⅳ c2	356~364, 365, 364	大川式古段階
Ⅳ c3	304, 322, 350	大川式古段階
Ⅳ c4	362, 365~379	大川式古段階
Ⅳ c5	354, 355	大川式古段階
Ⅳ c6	380	大川式古段階
Ⅳ d1	381, 382	大川式新段階
Ⅳ d2	383	大川式新段階
Ⅳ d3	384	大川式新段階
Ⅳ d4	385~387	大川式新段階
Ⅳ e1	388~390	大川式新段階
Ⅳ e2	391~399	大川式新段階
Ⅳ e3	400~407	大川式新段階
Ⅴ a1	408~413	神宮寺式古段階
Ⅴ a2	414	神宮寺式古段階
Ⅴ a3	415	神宮寺式古段階
Ⅴ b1	417~419	神宮寺式新段階
Ⅴ b2	416, 420~422	神宮寺式新段階
Ⅴ b3	423	神宮寺式新段階
Ⅴ c1	424~428	神宮寺式古段階
Ⅴ c2	429	神宮寺式古段階
Ⅴ c3	430	神宮寺式古段階
Ⅴ c4	431~435	神宮寺式古段階
Ⅴ c5	436, 437	神宮寺式古段階
Ⅴ c6	438~454	神宮寺式古段階
Ⅴ c7	452, 453	神宮寺式古段階
Ⅴ c8	454~457	神宮寺式古段階
Ⅴ d1	458~475	神宮寺式新段階
Ⅴ d2	476~481	神宮寺式新段階
Ⅴ d3	482~501	神宮寺式新段階
Ⅵ a1	502, 504	押型上層式
Ⅵ a2	503	押型上層式
Ⅵ a3	505	押型上層式
Ⅵ b2	506~509	押型上層式
Ⅶ a1	514	押型文期
Ⅶ a2	516	押型文期
Ⅶ a3	517, 518	押型文期
Ⅶ b1	515	押型文期
Ⅶ a1	519~521	高山寺式
Ⅶ a2	522~527	高山寺式
Ⅶ b1	528, 529	高山寺式
Ⅸ a1	510~513	押型文期

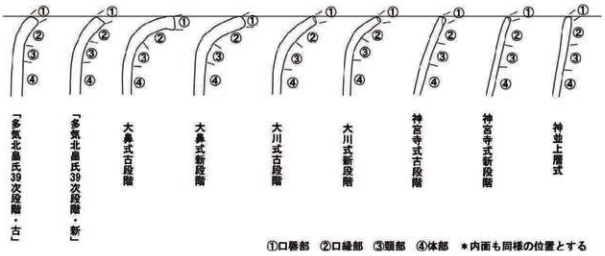
第Ⅵ-2表　分類の土器型式への対応

る。このような差も、縄文施文が多用される時期としての1つの画期を示しているものといえよう。(第Ⅵ-1表参照)

大鼻式期は、大きく外反し肥厚する口縁部や縄文施文が多用される時期であることと、前述の多気北畠氏39次出土資料の状況と考え合わせると、この縄文系土器期(Ⅱ類:64～157)の器形や文様構成が大鼻式期に連なっていく可能性を指摘できよう。当該期については、大鼻式の直前段階として「多気北畠氏39次段階」を新たに提示したい。また、当段階は、口縁部から頸部にかけての縄文施文や側面圧痕といった文様構成の差はそれほどないが、体部への縄文と枝回転文の施文を画期と捉え「多気北畠氏39次段階・古」(64～131)と「多気北畠氏39次段階・新」(132～157)に、ここでは分別することとしたい。なお、口縁部への縄文の表裏施文の有無は、型式学上、時期差として捉えるのが妥当といえるが、表裏施文の出現と消失の繰り返しが不自然と考えたため、ここでは分別はしていない。

次に、縄文系土器期、「多気北畠氏39次段階」の縄文時代における時期区分の位置について、考えてみたい。いわゆる表裏縄文土器を、どこに位置づけるについては、草創期末に位置づける考えと、早期に位置づける考えとに分かれる。ただ、撚糸文系土器期の資料(45)や「多気北畠氏39次段階・古」(64)の資料、「多気北畠氏39次段階・新」(136, 146, 151, 155)の資料については、放射性炭素年代測定(℃)を実施したところ、草創期まで遡らない9500 ¹⁴C BP台から9300 ¹⁴C BP台までという結果であった。この結果は、これまでの縄文時代の土器型式と暦年代の関係についての研究を参照すると、縄文時代早期前葉に相当することとなる。また、撚糸文系土器期と「多気北畠氏39次段階」の時期差についてもそれほど差がないことも判明した。これらのことを踏まえれば、位置づけは縄文時代早期前葉と考えるのが妥当といえる。しかしながら、これまでの土器編年研究をふまえると少し違和感をおぼえる。現状としては、放射性炭素年代測定の結果は結果として受け入れるものの、「多気北畠氏39次段階」は縄文時代草創期最終末から早期初頭の位置に置くこととしたい。ただ、多気北畠氏39次のような出土例は少なく、勢い多気北畠氏39次の例を中心に論を進めていることや、同時期の出土例との比較検討が十分とは言えない状況であることが課題といえる。

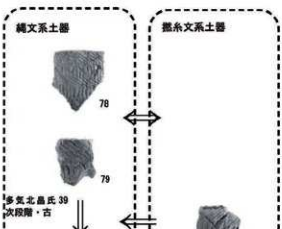
さらに、撚糸文系土器期の位置づけと「多気北畠氏39次段階」との関連性についても考えてみたい。これまでの当該地域の遺跡を概観しても、撚糸文系土器の出土については、大鼻式が出土する遺跡で少量の出土が確認される場合がほとんどである。三重県亀山市大鼻遺跡[18]・多気町坂倉遺跡[21]の出土例がそれである。この状況と一線を画する状況を呈するのが滋賀県粟津湖底遺跡ではないだろうか。これらと比較しても、多気北畠氏39次の状況は特異な状況といわざるをえない。当該地域において撚糸文系土



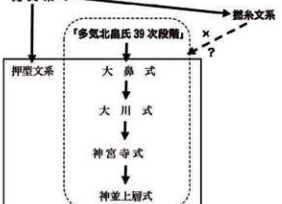
第Ⅵ-5図　口縁部形態の変遷と各部位の名称

器の存在する時期があることをあらためて示したものといえよう。

撚糸文系土器について、前述の滋賀県粟津湖底遺跡においては、大鼻式との関連と大鼻式直前の型式の可能性があるものとして指摘されている[26]。これは、縄文系土器も含めてのものであり、また層位的に分離することはできなかったとも述べられている[27]。多気北畠氏39次出土資料には、少し外傾する口縁部や頸部に縄文と上から一部に半弧状の圧痕が合流し垂下する剣先状になる側面圧痕がみられる撚糸文系土器(Ⅰa1類:1)の口縁部片がある。その文様は、おそらく2単位ないし4単位のものと思われる。その文様構成と同様のものが「多気北畠氏39段階・古」(78,79)1と「多気北畠氏39段階・新」(132,134)の口縁部片に存在する。大鼻式において側面圧痕が施されたものがあるものが、このような文様構成は現状確認できていない。三重県多気町坂倉遺跡には側面圧痕が施された撚糸文系土器があり[28]、大鼻式以前に撚糸文系土器群が存在した可能性があるのではないだろうか。また、表裏施文も口縁部最上部に限定され、土器内面に広くは施文しておらず、縄文系土器である「多気北畠氏39次段階」との関連性を窺わせるものの、現状として撚糸文系土器は、「多気北畠氏39次段階」、大鼻式期とは別系統のものとして捉えている。なお、多気北畠氏39次出土資料も滋賀県粟津湖底遺跡と同様に層位的な分離はできていない[29]。これらのことから、撚糸文系土器は、現状として大鼻式以前の段階のものと考えたい。ただ、大鼻式との共時性がある可能性も否定できる状況ではないことも事実である。(第Ⅵ-6,7図参照)



第Ⅵ-6図　撚糸文系土器と縄文系土器の関連性



第Ⅵ-7図　土器群の変遷概念図

以上のことを踏まえ、多気北畠氏39次出土資料の撚糸文系土器期、縄文系土器期、押型文系土器期の変遷については、縄文系土器期(Ⅱ類)→大鼻式期(Ⅲ類)→大川式期(Ⅳ類)→神宮寺式期(Ⅴ類)→神並上層式期(Ⅵ類)ということがいえるのではないだろうか。なお、撚糸文系土器期(Ⅰ類)は、大鼻式期より以前で、縄文系土器期とは同時期か少し時期が下る可能性があろう。(第Ⅵ-8,9図参照、第Ⅵ-8図はP.154、第Ⅵ-9図はP.155に掲載)

(小濱　学)

2　出土縄文石器・石製品の検討

(1) 石器各器種

多気北畠氏39次出土の主だった器種について、押型文土器前半期が出土した県内遺跡(大鼻遺跡、鴻ノ木遺跡、西出遺跡、野添大辻遺跡)、および近隣の県外遺跡(奈良県大川遺跡、奈良県鵜山遺跡)の出土石器の類例と比較しながら所見を述べたい。今回

の調査で出土した石器は先述のとおり、剥片石器は、尖頭器・石鏃・石錐・削器・RF・UF・楔形石器そして石核があり、礫石器は打製石斧・磨器・礫素材の削器や楔形石器・磨石・敲石・石皿・台石がある。

尖頭器　2点出土した。いずれも完形品ではなく全体形は不明である。543は先端部を欠き、茎をもたない基部が残存する。基部形状は外側に丸みを帯び厚みがある。類似する個体はない。544は中央部のみ残存する。平面形は左右非対称であり、細身の半月形を呈した可能性が考えられる。類例として鴻ノ木遺跡2009がある。押型文土器前半期に伴う尖頭器において、県下および近隣県を概観してみると、木葉形尖頭器など整った形状のものが一定数みられる一方で、左右非対称の尖頭器が特徴的に伴うことが指摘されている[26]。

石鏃　未製品を含め37点出土した。その中で形態が判別できる26点を6種に分類した。1a類の五角形鏃は早期前半の大鼻式・大川式期に特有な形状であり、14点出土した。概ね全形が小ぶりで基部の抉りが浅く、表裏面に一次調整面をとどめるものが多い傾向にある。石鏃の中での割合は53.8%と最も高く、本遺跡において主体となる石鏃形態である。大鼻遺跡10点、鴻ノ木遺跡31点、西出遺跡2点、鵜山遺跡20点など各遺跡での出土例がある。これら五角形鏃のうち、細身で両側縁の凹みが顕著で「魚形」の様相を示すものを第Ⅵ-10図に示した。1b類は、側縁が内側に浅く弯曲するもので、草創期から早期大川式期に盛行する三角鏃に近しい形状であり、2点出土した。割合は7.7%である。大鼻遺跡6点、鴻ノ木遺跡7点などの類例をみる。1c類は5点出土した。割合は19.2%で、1a類の次に高い。1d類は鍬形鏃と呼称されるもので2点出土した。割合は7.7%である。主に中部地方の遺跡で注目されてきた形態で、長野県諏訪市細久保遺跡や長野県岡谷市樋沢遺跡などのものが知られる。県内では足ヶ瀬遺跡1点、大原堀遺跡1点、勝地大坪遺跡2点、上ノ垣外遺跡10点、近隣の県外では鵜山遺跡3点の類例がある。また、鍬形鏃の出現期は明確ではなく、目立つようになるのは押型文後半期とみられる[31]。1e類は2点出土し、割合は7.7%である。2類は1点のみの出土で、割合は3.9%と最も低い。

石錐　3点出土したが、機能部とつまみ部の作りが明瞭なものは1点(582)のみである。582の石材は香川県金山産のサヌカイトと考えられ、この1点を除くサヌカイトは全て二上山産のものと思われる。金山産サヌカイトの使用は鵜山遺跡の石鏃や石核にも数点見られるが客体的であることは相違ない。

削器　22点出土した。4つの形態に大別される。

1類　素材剥片が厚く、刃部の角度が比較的急なもの。22点中4点(18.2%)

2類　素材剥片が薄く、平面形は概ね細長く、側縁は窄まり交点が尖るもの。刃部の角度は比較的緩やかで鋭い。このうち589～594の6点はドリルとして併用された可能性がある。22点中12点(54.6%)

3類　楔形石器を素材とするもの。22点中3点(13.6%)

4類　その他、横長剥片等を素材とするもの。22点中3点(13.6%)

1～4類のいずれも法量や形態に規格性をもたないことから、簡単な剥離調整を施すことで削器となる形状の剥片を素材として使用したと想定する。その中でも2類の細長い形態が高い割合であることは本遺跡の特徴と言えよう。大鼻遺跡や鴻ノ木遺跡など他の遺跡でも削器の形態はさまざまである。

楔形石器　38点検出し、剥断面の数により4種に分類した。1類の剥断面が認められないものが38点中5点(13.2%)、2類の1面のものが18点(47.4%)で高い割合を示し、3類の2面のものが14点(36.8%)、4類の3面のものが1点(2.6%)となる。剥断面の有無については1～3面と有する方が86.8%となり優勢である。石材については、最小規模の法量である663がチャート製でその他はサヌカイト製である。比較対象の他遺跡でも楔形石器はみられるが、形態等に差異は見られない。

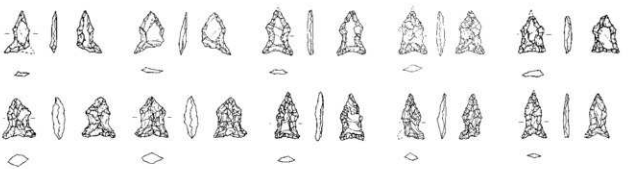
礫核石器(礫器)　7点出土し、いずれも自然石を素材とする。676は斧状の形態で鵜山遺跡339に類例がある。典型的な680や681は鴻ノ木遺跡や野添大辻遺跡に多くの類例をみる。礫素材の削器や楔形石器も合わせると10点を数え、全て斑レイ岩製である。SZ1埋土から出土した多くの礫の中には、礫器の素材となるものも含まれていたと思われる。

磨石　21点と多く出土した。素材の大半が砂岩とな

多気北鼻氏遺跡第 39 次

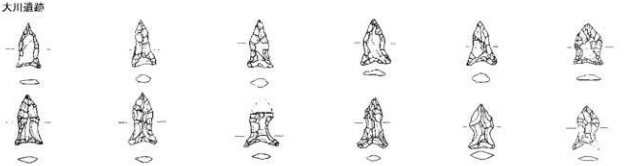
大鼻遺跡

鴻ノ木遺跡

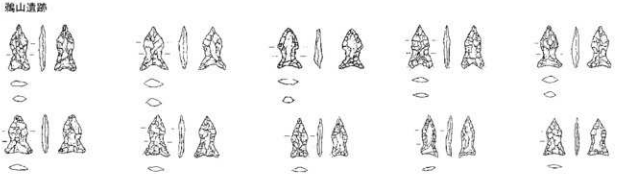


西出遺跡

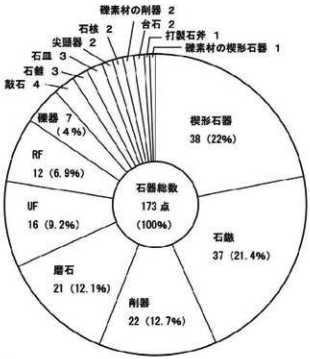
大川遺跡



鵜山遺跡



第Ⅵ-10図　縄文時代早期前半の魚形鏃



第Ⅵ-11図　石器の組成

る。掘削時に砂岩が出土すると注意深く観察した。その結果、ほとんどが磨石であった。特筆すべきは磨石21点中、「石鏃形」が13点(61.9%)と高い割合を示すことである。鴻ノ木遺跡で22点、鵜山遺跡9点などの類例があり、早期前半に見られる磨石のひとつの形態として注目される。また、完形は5点のみで、大半が欠失している。その点においては鴻ノ木遺跡などの様相と類似する。

台石　2点出土した。いずれも扁平な斑レイ岩を素材としている。これら製品の他に、明瞭な磨痕跡をもたないものの、法量が近しく扁平な斑レイ岩が幾つも出土した。その中には台石の素材となるものも含まれていたであろう。

(2) 石器の組成

全173点に対する各器種の割合を第Ⅵ-11図に示した[32]。高い割合を示すのは楔形石器22.0%(38点)、次いで石鏃21.4%(37点)、削器12.7%(22点)、磨石12.1%(21点)となる。楔形石器が石鏃とともに高い割合を示すことは一つの特徴と言えよう。機能別にみてみると、狩猟具の石鏃の割合は21.4%、加工具の削器の割合は12.7%、そして堅果類加工具の磨石類(磨石21点のほか敲石4点、石皿3点、台石2点含む)は17.3%である。このことから、狩猟や堅果類などの植物採集のいずれかに偏ることはなく、多様な生業活動であったことが考えられる。完新世初頭の気候の温暖化に伴い、堅果類採取の割合も高くなってきたことを示そう。この生業活動の多様性は、同時代遺跡である鴻ノ木遺跡や鵜山遺跡の様相と近しい。

(3) 石材と石材調達

剥片石器と礫石器では石材利用や調達方法が異なる。まず、剥片石器132点の石材は楔形石器1点および、石鏃未製品1点がチャート製[33]で、その他130点はサヌカイト製である。また、報告者の肉眼観察による限り、サヌカイトは石錐1点が金山産で、その他は全て二上山産である。多気の地から直線距離にしておよそ西北西に56km離れた二上山から調達したサヌカイトを使用し、地元のチャートはほとんど使用していないことになる。また、本遺跡においては剥片・砕片が多く認められ石鏃未製品や石核もあることから、サヌカイトを素材とする石器製作が行われていたことは疑いない。他遺跡の石器石材の様相をみてみると、大鼻遺跡では、石鏃など小型品の大部分には遠隔地のサヌカイトを使用し、相対的に大型品のスクレーパーなどには地元のチャートを使用している。また、鴻ノ木遺跡では、剥片石器に使用するチャートの割合が本遺跡の割合より高く様相を異にする。

次に、礫石器の石材および石材調達はその全てを遺跡周辺で採取可能な自然石を使用していることがわかった。礫核石器や礫素材の削器および楔形石器は全て斑レイ岩を素材とする。また、磨石は大半を占める砂岩の他、一部に花崗岩や斑レイ岩を石材に選び、敲石は緑泥片岩や花崗岩、斑レイ岩を使用する。また石皿や台石は全て斑レイ岩を使用する。いずれも遺跡周辺で採取可能な石材である[34]が、磨石の中でも石鏃形磨石に使用された砂岩は全て肌理が細かなものであり、厳選していることが窺える。この石材厳選のあり様は、鴻ノ木遺跡と同様である。

(4) 石器の所属時期

押型文土器前半期の他遺跡との比較検討を行ったが、石鏃や磨石など押型文前半期に見られる特徴的な形態のものが存在することなど、類する点が幾つか見られた。最も古いものは、石鏃の五角形鏃や魚

形鏃で大鼻式～大川式期にあたる。また同時期に盛行する石鹸形磨石も多くみられた。五角形鏃や石鹸形磨石は、それぞれの器種形態に対する割合が高く主体的であると言える。そのことからも、所属時期の中心は当該期の可能性が高いと言えよう。さらに草創期まで遡る可能性を考えてみると、有茎尖頭器や長脚鏃が伴わないことや、椛ノ湖遺跡に見られる石器形態[10]や矢柄研磨器などを含む石器群の様相とは異なることなどから草創期まで遡ることは考えにくいだろう[11]。また大川式新段階から神宮寺式期頃にみられる特殊磨石が１点も含まれないことを一つの要因とすると、所属時期の中心は当該期まで下らない可能性がある。ただし、五角形鏃や尖頭器が組成する時期の下限は概ね神宮寺式期とされることから、所属時期は下っても神宮寺式期までと捉えることができよう。

(5) 石製品

県内遺跡における石製品で、縄文時代早期前半の垂飾は今のところ確認されていない。縄文時代の石製垂飾(垂飾として不確定なものを除く）を概観すると、四日市市小牧南遺跡で中期後半の滑石製のものや、松阪市山添遺跡では前期後半で蛇紋岩製の小型磨製石斧の転用と思われるもの、度会郡度会町の森添遺跡で後期後葉～晩期初頭の頁岩製のものや、鳥羽市贄遺跡で後・晩期の蛇紋岩製のものなど、総数12点が確認されている。型式類例の乏しい垂飾の時期判断は難しいが、早期前半の押型文土器を中心とする遺物に含まれることから、この垂飾も早期前半の可能性が高いと想定する。しかし異なる時期の可能性も否定できないのが現状である。今後、さらなる類例の増加に期待したい。　　(中村法道)

３　総括

ここまで、多気北畠氏39次の出土遺物を中心に検討を進めてきた。それらを踏まえ、多気北畠氏39次の発掘調査によりえた情報を整理し、以下に列記して総括としたい。

①縄文土器については、縄文時代草創期最終末から早期後半までのほとんどのものが、SZ1から出土した。

②SZ1出土資料をⅠ類からⅨ類に分類し、Ⅰ類からⅥ類の出土資料から当該期の土器の変遷を辿ることが可能となった。

③Ⅰ類は撚糸文系土器期、Ⅱ類は縄文系土器期、Ⅲ類は大鼻式期、Ⅳ類は大川式期、Ⅴ類は神宮寺式期、Ⅵ類は神並上層式期とし、既存の土器型式との対応を検討した。

④Ⅱ類の出土資料について、器形、縄文施文、文様構成等を検討した結果、未抽出等であった大鼻式の直前型式として「多気北畠氏39次段階」を提示し、さらに当段階を古と新に分別をした。

⑤この段階設定については、周辺地域の出土資料との詳細な分析・比較検討には至っておらず、本遺跡と近隣遺跡との比較に終始している。そのため、別の機会にあらためて、型式設定の可能性等を含め様々な観点から論じてみたい。

⑥Ⅰ類の撚糸文系土器については、所属時期や「多気北畠氏39次段階」と大鼻式の関連性について、周辺地域(汎日本的)との詳細な比較検討が必要といえる。

⑦Ⅲ類からⅥ類の土器群についても、周辺地域とのより詳細な比較検討が必要といえる。

⑧以上のことから、多気北畠氏39次の出土土器群は、当該期の指標となりうる一群といえよう。

⑨また、多気北畠氏39次の出土石器・石製品群についても、当該期の指標となりうる一群といえよう。

⑩今回の発掘調査により、当該地域の歴史を紐解く貴重な新情報を得ることができた。

(小濱　学)

註

1)坂下町教育委員会 1974 『琵の湖遺跡調査報告書 岐阜県恵那郡坂下町』において、琵の湖Ⅱ式として把握がなされたものを指す。
2)アムプロモーション 2008 『総覧 縄文土器』に添付の土器編年表には。多縄文系土器の次段階に「尖底回転縄文土器」の表記がみられる。この段階に属するかどうかは別にして、現状としての認識を述べた。
3)山田猛氏、矢野健一氏の先行研究によるものが大きい。以下の文献において、一連の研究が詳細に述べられている。

山田猛 2023 「近畿・中部地方における前半期の押型文土器」『平等と定住の縄文社会』同成社

矢野健一 2016 「第2部 第3章 前半期押型文土器の編年」『土器編年にみる西日本の縄文社会』同成社

4)大鼻式期の土器が出土する遺跡で、少量の出土があることが多く、その時期や併行関係が明らかになっていない現状といえる。
註3) の矢野文献に述べられている。
5)これまでの一連の研究について以下の文献に収められている。

矢野健一 2016 『土器編年にみる西日本の縄文社会』同成社

6)以下の文献にて述べられており、首肯できよう。

矢野健一 1999 「出土土器に関する考察」『栗津湖底遺跡自然流路（栗津湖底遺跡Ⅲ）』 滋賀県教育委員会・(財) 滋賀県文化財保護協会

7)註4)に同じ。
8)註4)に同じ。
9)矢野健一 2016 「第2部 第3章 前半期押型文土器の編年」『土器編年にみる西日本の縄文社会』同成社　において指摘されている。
10)矢野健一氏をはじめ、同様の認識を持たれているのではないだろうか。
11)以下の文献に詳細が述べられている。

矢野健一 2016 「第2部 第3章 前半期押型文土器の編年」『土器編年にみる西日本の縄文社会』同成社

12)以下の文献に詳細が述べられている。この文献より後年に、研究を深化させているが、本報告ではこの文献を基にして考察をしている。

山田 猛 1988 「押型文土器の型式学的再検討-三重県下の前半期を中心として」『三重県史研究 4』三重県

13)註9) と同じ。
14)多気北島氏39次における Ⅲ類の分類の状況による。また、註7) の矢野文献でも同様のことが指摘されている。
15)多気北島氏39次における Ⅱ類や Ⅲ類の観察による。また、註7) の矢野文献でも同様のことが指摘されている。
16)註9)の文献において矢野氏も指摘しており、口唇部や口縁部外面に縄文が施されるとともに、枝回転文と市松文が施されたものの差で時期差と捉えたことは、首肯できよう。
17)) 註9) 文献の編年を支持する。多気北島氏39次出土資料の状況からもその変遷で把握ができる。
18)註9) 文献において、一連の研究とあわせて指摘されている。
19)註9) 文献において、一連の研究とあわせて指摘されている。
20)註9) 文献において、一連の研究とあわせて詳細に述べられている。
21)註9) 文献において、一連の研究とあわせて詳細に述べられている。
22)大鼻式期以降の縄文時代早期前半期の押型文系土器の詳細な分析が以下の文献でなされている。

奈良県立橿原考古学研究所 2006 『鴨山遺跡：縄文時代早期遺跡の発掘調査報告』

23)近畿地方押型文土器前半期における横位密接施文の展開と地域差についての詳細な分析が以下の文献でなされている。

奈良県立橿原考古学研究所 2002 『鴨山和田遺跡』

24)三重県埋蔵文化財センター 1994 『大鼻遺跡 －本文編－』
25)坂倉遺跡の穴を含む遺構群や大鼻式期の押型文土器について詳細な研究が以下の文献においてなされている。

山田 猛 2022 『坂倉遺跡 -縄文・弥生時代編-』研究紀要第26号 三重県埋蔵文化財センター

26)註6) 文献に同じ。
27)註6) 文献に同じ。
28)註25) 文献に同じ。
29)Ⅲで述べたとおりである。層位により出土遺物の時期差を捉えることができれば理想であるが、困難も伴う。
30)三重県埋蔵文化財センター 1998 『鴻ノ木遺跡（下層編）』に掲る。
31)註30) 文献に同じ。
32)SZ1排 とのものも含む。
33)チャート製の剥片を15点検出している。(図化はしていない)
34)松田順一郎氏のご教授による。
35)五角形鏃について、本遺跡では「魚」「ロケット」形を中心としているのに対して、琵ノ湖遺跡のものは「将棋駒」形であり、双方に形態的差異が大きいことから同時期のものとは考えにくい。
36)関西縄文文化研究会三重例会2022にて田部剛士氏（鈴鹿市考古博物館）による石器所属時期についての要旨を参考にした。

引用・参考文献

坂下町教育委員会 1974『焼の湖遺跡調査報告書 岐阜県恵那郡坂下町』 ＊刊行当時

松阪市史編さん委員会 1978「大原堀遺跡」『松阪市史 第2巻 資料編 考古』

松阪市教育委員会 1980『射原垣内遺跡発掘調査概報』

富士宮市教育委員会 1983『若宮遺跡 西富士道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2』

三重県埋蔵文化財センター 1994『大鼻遺跡 －本文編－』

飯南町史編さん委員会 1984「足ヶ瀬遺跡」『飯南町史』

山田 猛 1988「押型文土器の型式学的再検討-三重県下の前半期を中心として」『三重県史研究4』三重県

山添村教育委員会 1989『奈良県山辺郡山添村 大川遺跡 縄文時代早期遺跡の発掘調査報告書』

三重県埋蔵文化財センター 1990『西出遺跡・井之広遺跡』

立教学院三の原遺跡調査団 1991『静岡県伊東市 三の原遺跡』

三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1992「Ⅷ 勝地大坪遺跡・勝地大坪古墳群」『平成3年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告-第1分冊-』

二上山博物館 1992『よみがえる二上山の3つの石』

佐藤 修「栗津遺跡の縄文早期の土器について」 1993 『研究紀要2』三重県埋蔵文化財センター

矢野健一 1993「押型文土器の起源と変遷に関する新視点」『研究紀要2』三重県埋蔵文化財センター

山田 猛 1993「大鼻式・大川式の再検討」『研究紀要2』三重県埋蔵文化財センター

三重県埋蔵文化財センター 1993『多気遺跡群発掘調査報告』

三重県埋蔵文化財センター 1994『大鼻遺跡 -本文編-』

宮崎朝雄・金子直行 1996「回転文様系土器群の研究 -表裏縄文系・撚糸文系・宿谷上層系・押型文系土器群の関係-」『日本考古学 第2号』 日本考古学協会

上松町教育委員会・木曽郡町村会 1995『お宮の森裏遺跡 一般国道19号上松バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』

三重県埋蔵文化財センター 1998『鴻ノ木遺跡（下層編）』

縄文時代文化研究会 1999『縄文時代 10』

矢野健一 1999「出土土器に関する考察」『栗津湖底遺跡自然流路(栗津湖底遺跡第1)』滋賀県教育委員会・(財) 滋賀県文化財保護協会)

滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会 1999 『栗津湖底遺跡自然流路(栗津湖底遺跡第1)』

三重県埋蔵文化財センター 2002『研究紀要 第11号 -特集 三重の縄文時代-』

奈良県立橿原考古学研究所 2002『桐山和田遺跡』

三重県 2005『三重県史 資料編 考古1』

奈良県教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所 2006 『鴨山遺跡 －縄文時代早期遺跡の発掘調査報告書-』

原田昌幸 2008「撚糸文系土器」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

宮崎朝雄 2008「尖底回転縄文土器（蜜谷上層系・表裏縄文系土器）」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

谷口康浩 2008「多縄文系土器」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

矢野健一 2008「押型文系土器(大川式・神宮寺式土器)」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

中島 宏 2008「押型文系土器(沢式・楕沢式・細久保式土器)」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

兵頭 勲 2008「押型文系土器(黄島式土器)」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

矢野健一 2008「押型文系土器(高山寺式・穂谷式)」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

津市教育委員会 2009『史跡多気北畠氏城館跡保存管理計画』

三重県埋蔵文化財センター 2014 『野添大辻遺跡(第1次)発掘調査報告』

岡田憲一 2014「大鼻式成立覚書」『第10回東海縄文研究会 研究会 東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題 発表要旨集・研究論文集』 東海縄文研究会

守屋豊人 2014「大川式土器に見られる主要類型の展開とその理解」『第10回東海縄文研究会 研究会 東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題 発表要旨集・研究論文集』 東海縄文研究会

村上 昇 2014「愛知県を中心とする草創期末から早期前葉にかけての土器編年」『第10回東海縄文研究会 研究会 東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題』東海縄文研究会

山田猛 2014「大川式について」『第10回東海縄文研究会 研究会 東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題』東海縄文研究会

関西縄文文化研究会 2015『第16回関西縄文文化研究会研究集会 縄文研究と美術・縄文時代の装身具 発表要旨・資料集』

矢野健一 2016「第2部 第3章 前半期押型文土器の編年」『上器編年にみる西日本の縄文社会』同成社

岡本東三 2017『縄紋時代早期 押型紋土器広域編年研究』 雄山閣

三重県埋蔵文化財センター 2021『小牧南遺跡(第2・3次)発掘調査報告 本文編』

山田 猛 2022『坂倉遺跡 -縄文・弥生時代編- 』三重県埋蔵文化財センター

中村法道 2022「Ⅰ 多気北畠氏遺跡第39次調査の概要」『関西縄文研究会三重県例会2022資料』

小濱学 2022「Ⅱ 多気北畠氏遺跡第39次調査の縄文土器」『関西縄文研究会三重県例会2022資料』

田部剛士 2022「Ⅲ 大鼻式前後の石器群」『関西縄文研究会三重県例会2022資料』

縄文時代文化研究会 2023『縄文時代 34』

山田猛 2023『平等と定住の縄文社会』同成社

１区調査前状況（南から）

１区調査前状況（北から）

写真図版２

２・３区調査前状況（南から）

２・３区調査前状況（北から）

１区調査区全景（北から）

１区調査区中央全景（南から）

写真図版４

１区調査区南全景（北から）

２・３区調査区北全景（南から）

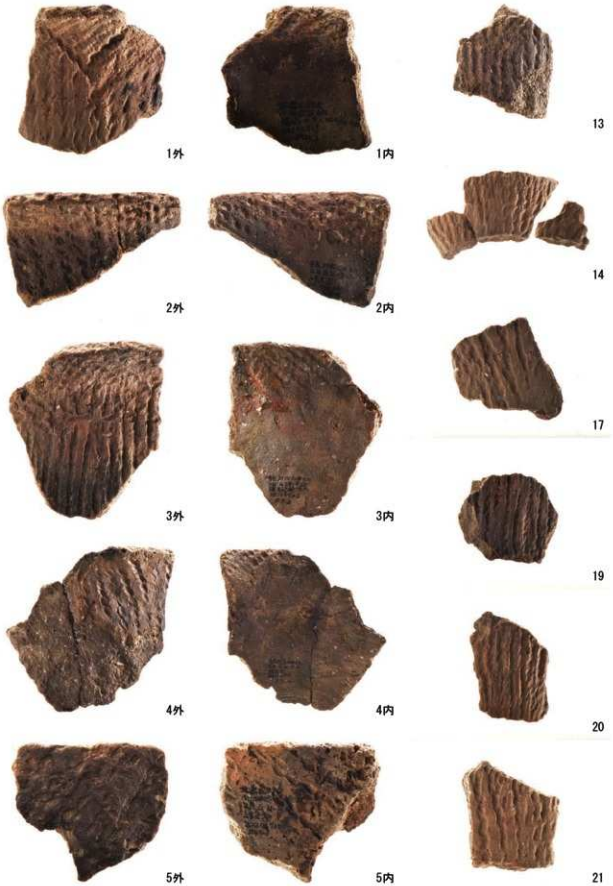
２・３区調査区南全景（北から）

SZ1全体（南から）

写真図版６

SZ1掘削状況（北から）

SZ1掘削状況（南から）



出土遺物１

6外

6内

23

7外

7内

26

38

39

31

42

44

41

47

48

45

51

54

49

出土遺物２

64外

64内

66外

66内

67外

67内

68外

68内

69外

69内

70外

70内

79

80

81

82

85

92

95

96

出土遺物３

71外

71内

98

73外

73内

74外

74内

101

76外

76内

102

78外

78内

104

106

107

112

113

116

117

出土遺物４

119

125

128

129

132外

132内

133外

133内

134外

134内

135外

135内

136外

136内

137外

137内

出土遺物５

写真図版12

138外

138内

139外

139内

140外

140内

141外

141内

144外

144内

146外

146内

148外

148内

出土遺物6

151

153

155

156

157

158

161

163

164

167

172

173

174

175

176

出土遺物７

178

179

180

183

184

187

188

189

195

198

202

203

210

213

217

218

226

228

出土遺物８

237

245外

245内

242

248

249

251

252

253

254

256

257

259

261

264

265

266

269

出土遺物9

写真図版16

271

272

276

278

279

280

285外

285内

286

288

292

295

297

309

310

316

318

319

出土遺物10

320

321

322

323

325

326

329

330

331

349

354

357

358

362

364

365

366

367

出土遺物11

370

371

375

380

384

385

386

387

388

389

400

405

409

411

412

413

416

420

423

426

427

429

444

452

456

460

470

472

475

476

480

448

488

498

501

506

出土遺物13

507

509

516

518外

518内

519

524

526

527

530

531

532

533

535

536

537

538

542

出土遺物14

543

544

545

546

547

548

549

550

551

552

553

554

555

556

557

558

559

560

561

562

563

564

565

566

567

568

569

573

577

582

583

584

出土遺物15

585

586

587

588

589

590

591

592

593

594

出土遺物16

595

596

597

598

599

600

601

602

603

604

606

607

608

609

610

出土遺物17

619

620

621

622

623

624

625

626

627

628

629

630

631

632

633

634

出土遺物18

635

636

637

638

639

640

641

642

643

644

645

646

647

648

649

650

651

652

653

654

出土遺物19

655

656

657

658

659

660

661

662

663

664

665

666

667

668

669

670

672

673

674

出土遺物20

675

676

677

678

679

680

681

683

684

682

685

出土遺物21

686

687

688

689

691

692

693

696

697

698

699

700

701

702

705

出土遺物22

706

707

708

709

710

711

712

713

714

715

716 表面

716 裏面

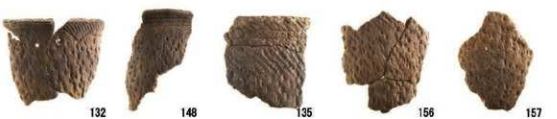
出土遺物23

草創期

（縄文系土器期）

「多気北畠氏 39 次段階・古」

（撚糸文系土器期）



「多気北畠氏 39 次段階・新」

（押型文系土器期）

早期

大鼻式古段階

大鼻式新段階

※縮尺不同

第Ⅵ-8図　多気北畠氏39次出土土器の変遷（案）1

第VI-9図　多気北畠氏39次出土土器の変遷(案)2

報告書抄録

ふりがな	たげきたばたけしいせき(だいさんじゅうきゅうじ)おたちく(だいろくじ)はっくつちょうさほうこく
書名	多気北畠氏遺跡(第39次)小田地区(第６次)発掘調査報告
副書名	
巻次	
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	421
編著者名	小濵　学・中村法道
編集機関	三重県埋蔵文化財センター
所在地	〒515－0325　三重県多気郡明和町竹川503　TEL 0596（52）1732
発行年月日	2024(令和６)年３月21日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
たげきたばたけしいせき 多気北畠氏遺跡 （第39次） おたちく（だいろくじ） 小田地区（第6次）	つしし　みえすぎまち 津市美杉町 しもたげ 下多気	24207	691	34度 31分 41秒	136度 18分 21秒	20210426～ 20210825	712㎡	通常砂防事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
多気北畠氏遺跡 （第39次） 小田地区（第6次）	遺跡	縄文 中世 近世	落ち込み	縄文土器(縄文系土器、撚糸文系土器、押型文系土器)、土師器類、瓦器類、陶器類、石器等	

要約

遺跡は、津市美杉町下多気の小田地区内にある。遺跡内を八手俣川の支流が横断するように東流する。調査対象地は遺跡の北端部にあたり、標高約310～325mの谷及び山裾部に立地している。現況は山林及び荒蕪地となっている。令和３年度通常砂防事業に伴い、砂防堰堤に至るまでの工事用道路及び管理用道路となる部分で、発掘調査を実施した。調査対象地内において、調査区を上から３区、２区、１区とし、現地での調査を進めた。

発掘調査により、２・３区において、谷の侵食あるいは崩落によるものと思われる落ち込みSZ1を確認した。SZ1からは、縄文時代草創期末から早期かけてが中心となる縄文土器群(縄文系土器、撚糸文系土器、押型文系土器)や石器群（石製品を含む）が多量に出土した。縄文土器の中には、大鼻式期前後の変遷を辿れると考えられる一群が存在しており、大鼻式直前段階について「多気北畠氏39次段階」を新たに提示した。当該期の土器編年や地域の歴史を考えるうえで一定の成果を得ることができた。１区では、後世の攪乱を広範囲に受けており、明確な遺構を確認することはできなかったものの、中世から近世にかけての土師器類や陶磁器片等が少量出土した。多気における北畠氏が活動していた時期に関連する遺構等については、今回の調査区内では確認に至らなかった。

三重県埋蔵文化財調査報告４２１

多気北畠氏遺跡（第39次）
小田地区（第６次）発掘調査報告
～三重県津市美杉町下多気～

2024（令和６）年３月
編集・発行　三重県埋蔵文化財センター
印　　刷　共立印刷株式会社